小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

③ 奈良の都 ●奈良時代

決定版

●まんが

あおむら　純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

3巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
西原和海

●考証
石井謙治（日本海事史学会名誉会長）
小泉和子（生活史研究所代表）
高田倭男（高田装束研究所所長）
玉井哲雄（千葉大学名誉教授）

●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

●指導・執筆・協力
石田瑞麿（元東海大学教授）
石野　亨（近畿大学名誉教授）
遠藤證圓（第82世唐招提寺長老）
岡田威夫（共立女子高校）
鬼頭清明（元東洋大学文学部教授）
高橋千劔破

●取材協力
大阪城天守閣　お茶の水図書館　宮内庁正倉院事務所　興福寺　国立科学博物館　国立歴史民俗博物館　関ヶ原町歴史民俗資料館　東京大学工学部建築学科建築史研究室　唐招提寺　東大寺　奈良国立文化財研究所　奈良市役所　平城宮跡資料館

●イラスト・作画協力
大岡龍二　かたおか修壱　河合秀和
小山春夫　芝知照　制野秀一　中西立太
深山のぼる
●装丁・レイアウト
功野真矢　佐野恒雄（ＣＳＪ）
スタジオWOW！　成澤哲夫（ＮＥＤ）

●版下
大山デザイン　昭和ブライト　タナカデザイン

●編集協力
エディトリアル・プランニング　真英社
鈴木多津子　風人社　銀杏社
●編集担当
柏原順太　宮部良雄　八巻孝夫
（五十音順・敬称略）

小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

3

奈良(なら)の都(みやこ)

●奈良時代

監修/児玉幸多　まんが/あおむら純

巻の歴史年表

巻数	時代	年代
1	旧石器（岩宿）	前3万
	縄文（紋）	前1万
	弥生	前1000
2	古墳	紀元1
	飛鳥	100
3	奈良	200
4	平	300
5	安	400
6		500
7	鎌倉	600
8	南北朝	700
9	室町	800
10	戦国	900
11	安土桃山	1000
12	江戸	1100
13		1200
14		1300
15		1400
16		1500
17	明治	1600
18		1700
19	大正	1800
20	昭和・前期	1900
21	昭和・後期～平成	

●この巻には、青色の部分の時代・年代が、かかれています。

日本のおもなできごと

時代・文化	西暦
白鳳文化	(730) 729 723 720 718 717 713 712 710 708

和同開珎ができる。
元明天皇、都を**平城京**（奈良）にうつす。
太安万侶らによって**「古事記」**ができる。
諸国にめいじて**「風土記」**をつくらせる。
安倍仲麻呂、吉備真備、玄昉ら、第八次遣唐使船で唐にわたる。
藤原不比等ら**養老律令**を制定する。
舎人親王らによって**「日本書紀」**ができる。
三世一身法を制定する。
長屋王、むほんの疑いをうけ自殺する。
光明皇后が施薬院・悲田院をつくる。

このころ、国をまもる力があるとして、仏教が強く信仰される。

世界のおもなできごと

西暦
732 721 713

イスラム帝国がイベリア半島を支配する。
渤海が日本に使いをおくる。
フランク軍がイスラム軍をやぶる。

奈良時

← 天平文化

●770 ●769 ●765 ●764

高僧をまねくため、第九次遣唐使船で栄叡、普照が唐にわたる。天然痘が流行し、藤原の四兄弟など多数が死ぬ。藤原広嗣が九州で乱をおこす。

●759 ●757 ●756 ●754 ●752 ●751 ●747 ●745 ●743 ●742 ●741 ●740 ●737 ●733

都を恭仁京にうつす。諸国に**国分寺建立の詔**を出す。紫香楽宮をつくる。栄叡と普照、鑑真に会って来日をねがう。**墾田永年私財法**が公布される。**大仏建立の詔**が出される。都を平城京にもどす。東大寺の建立がはじまる。大仏の鋳造がはじまる。最古の漢詩集「懐風藻」ができる。**東大寺大仏ができ、開眼供養会**を行う。六回目の渡航で**鑑真来日**に成功し、仏教をととのえる。聖武上皇がなくなり、遺品を正倉院におさめる。橘奈良麻呂がむほんの罪でころされる。養老律令が実施される。鑑真が**唐招提寺**をたてる。このころ「万葉集」ができる。

このころ、朝廷をめぐる争いで、政治が乱れる。

藤原仲麻呂（恵美押勝）が乱をおこす。**道鏡**が太政大臣禅師となり、翌年、法王となる。和気清麻呂が宇佐八幡宮のお告げを報告し、流罪となる。称徳（孝謙）天皇がなくなり、道鏡は下野国にながされる。

●735

新羅が半島を統一する。

●744

このころ、唐の李白や杜甫が活やくする。

●751

製紙法がイスラムにつたわる。

●756 ●755

安史の乱がおこり唐が弱まる。ローマ教皇が、はじめて領土をえる。イスラム帝国が東西に分裂する。

●768

フランク王、カール大帝が即位する。

はじめに

大仏づくりと東アジアとの交流

◆奈良の大仏

奈良といえば、大仏さま。みなさん、よくごぞんじですね。大仏さまがつくられたのは、8世紀なかばのことです。そのころ、都は奈良におかれ、「平城京」とよばれました。青い屋根がわらと、朱ぬりの柱が輝く、まことに美しい都だったと伝えられています。

都の東のはずれ、東大寺。

そこに、大仏さまは、大きな腰をでんとすえていました。これを見る都の人びとは、きっと、目を丸くしたにちがいありません。

いや、現代のみなさんだって、びっくりでしょうね。そして、首をかしげます。

「なぜ、こんな仏さまをつくったんだろうか」と……。

◆聖武天皇のねがい

奈良が都とさだめられたのは、七一〇年のことです。それから約70年間を「奈良時代」といいます。

この時代の朝廷の政治は、どうだったのでしょうか。美しい都にふさわしく、

天皇や貴族たちの暮らしは、とてもはなやかでした。

しかし、一般の人たちは貧しく、重い税や、ききん・病気などに、いつも苦しんでいました。貴族たちは、たがいに争いをくり返し、朝廷に反乱をおこすものさえありました。

聖武天皇は、このままでは国が乱れると考え、仏教の力にすがろうとしました。仏教によって人びとの心を一つにまとめ、この国を仏にまもってもらおうとねがいました。こうして、大がかりな大仏づくりがスタートしたのです。

◆国際的な文化

平城京は、唐（今の中国）の都・長安をまねてつくられました。大仏さまも、唐の仏教に影響をうけています。

そのころの長安は、世界の文化があつまる、巨大な国際都市でした。日本からも、これらの文化を学ぶため、留学生や僧たちが唐にわたりました。また、鑑真のように、仏教を広める目的で、大冒険のすえ、日本にやって来た人たちもいました。

その結果、奈良時代の日本では、さまざまな面で、国際的な文化が花ひらきました。たとえば正倉院（東大寺）の宝物には、はるかインドやギリシアの文化の影響がみられます。

みなさん、何だか胸がわくわくしてきませんか。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物

第1章 新しい都のくらし

- 国をあげての都づくり
- 歴史書を作る（古事記）
- 大画面・平城京の市
- 貴族の宴会
- 地方のくらし

第2章 奈良の大仏

- 長屋王の変
- くるしむ人びとと行基
- 藤原広嗣の乱
- 大仏をつくる

第3章 遣唐使と鑑真

- 大画面・遣唐使船
- 高僧をもとめて
- 鑑真和上との出会い
- たびかさなる渡航の失敗

第4章

朝廷をめぐる争い

- 鑑真和上、日本へ
- 藤原仲麻呂の勢い
- 孝謙上皇と道鏡
- 恵美押勝の乱
- 宇佐八幡宮のお告げ

おもな登場人物

※この巻に登場するおもな人物を紹介します。登場人物をくわしく知るための事典として、役立たせてください。

第1章

藤原不比等
（六五九～七二〇年）

藤原鎌足の子。大宝律令・養老律令を編さんする。藤原氏繁栄の基礎をつくる。

太安万侶
（？～七二三年）

『古事記』を編さんし、さらに『日本書紀』の編さんにもくわわる。

長屋王
（六八四？～七二九年）

天武天皇の孫にあたり、大納言、左大臣となる。のちに藤原氏の陰謀により自害する。

元明天皇
（六六一～七二一年）

草壁皇子の妃。文武・元正天皇を生む。和同開珎を鋳造し、平城京遷都を行った女帝。

第2章

聖武天皇
（七〇一～七五六年）

東大寺・国分寺をたて、大仏づくりを命じ仏教を広める。天平文化をさかんにする。

光明皇后
（七〇一～七六〇年）

皇族以外ではじめての皇后となる。悲田院や施薬院などをつくり、慈善事業を行う。

行基
（六六八～七四九年）

まずしい庶民に仏教を広める。農業を育成し農地開発をする。大仏づくりに参加する。

橘諸兄
（六八四～七五七年）

左大臣となって藤原氏に対決し、天平時代前半の政治をリード。墾田永年私財法を発令する。

③ 奈良の都

●奈良時代

普照

藤原広嗣
（？－740）

第3章

鑑真
（六八八～七六三年）

日本に戒律を伝えた中国の高僧。東大寺に戒壇院をつくり、唐招提寺をつくる。

阿倍仲麻呂
（六九八～七七〇年）

遣唐留学生として唐に渡り、玄宗皇帝につかえる。詩人の李白や王維とも交際する。

吉備真備
（六九三～七七五年）

奈良時代の貴族で学者。留学生として唐に渡り、帰国後豊かな学識で朝廷で活やくする。

大伴家持
（七一八？～七八五年）

大伴旅人の子。大豪族・大伴氏の長で、中納言にもなる。『万葉集』を編さんした歌人。

第4章

藤原仲麻呂（恵美押勝）
（七〇六～七六四年）

おばの光明皇后の信任をえて勢力をのばす。道鏡追放に失敗して反乱の罪に問われる。

孝謙天皇（称徳天皇）
（七一八～七七〇年）

聖武天皇の皇女。はじめ仲麻呂を重用したが、道鏡を寵愛して反乱の原因をつくる。

道鏡
（？～七七二年）

称徳天皇にとり入り、権力をにぎって法王となる。さらに皇位をねらうが左遷される。

和気清麻呂
（七三三～七九九年）

備前国和気郡の地方豪族の子。学者としても有名。道鏡の野望をはばみ、名をあげる。

小学館 eBooks

第一章

新しい都のくらし

――奈良時代――

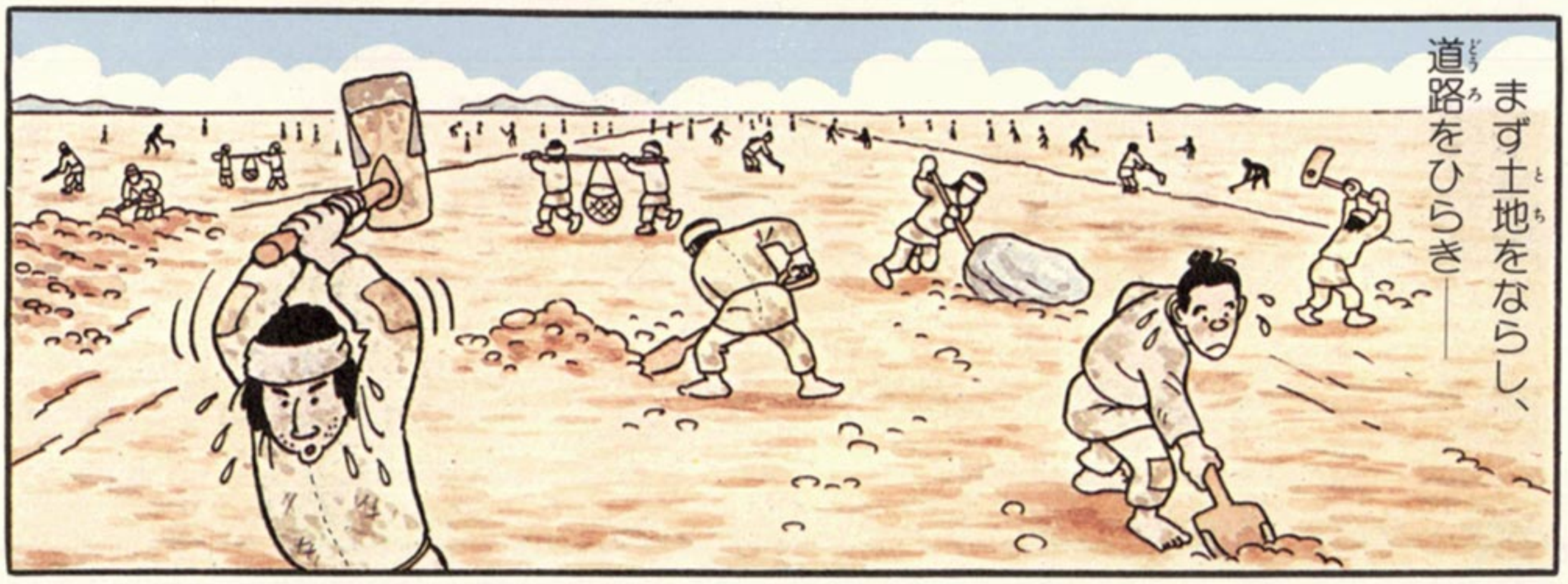
七〇八年――

近ごろ、役所や役人がふえて、この*藤原京もせまくなってまいりました。

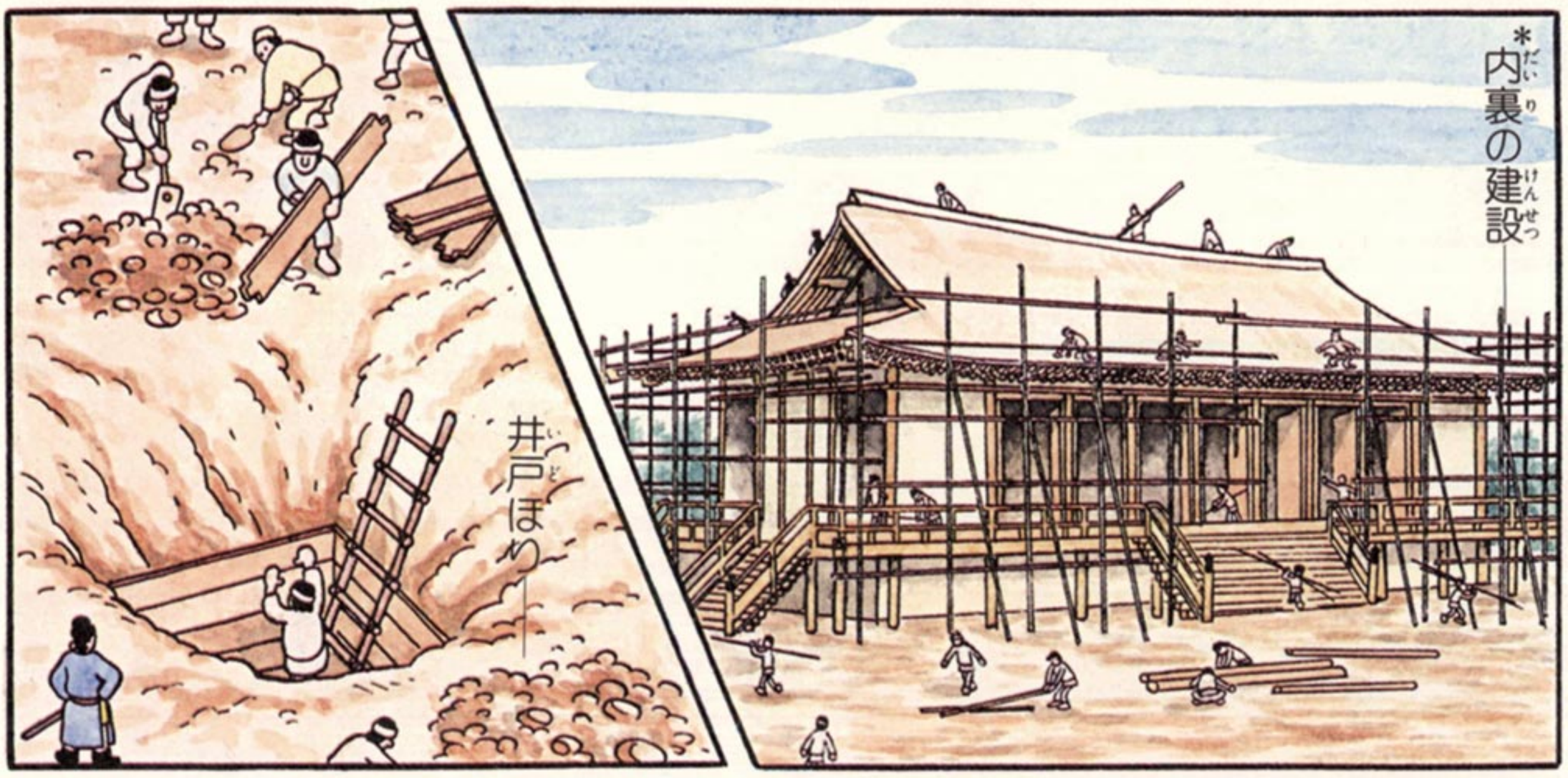
ええ、もっと広い地に都をうつすべきでしょう。

*藤原京…六九四年から七一〇年までの都。

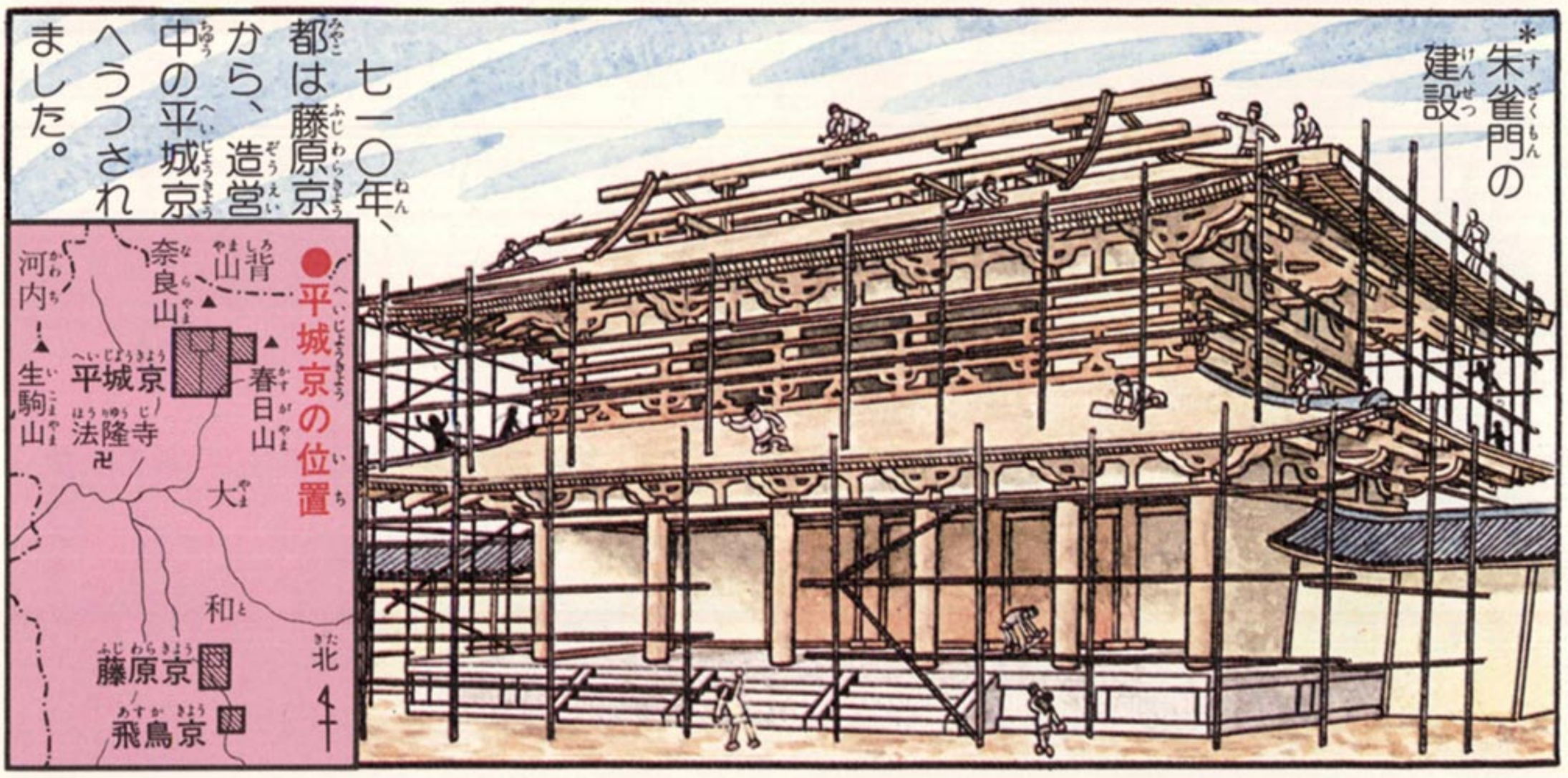
*唐…六一八年から九〇七年までつづいた中国の統一国家の名。



宮殿をはじめとして、役所や住宅をたて、国をあげての都づくりは、休むことなくすすめられました。



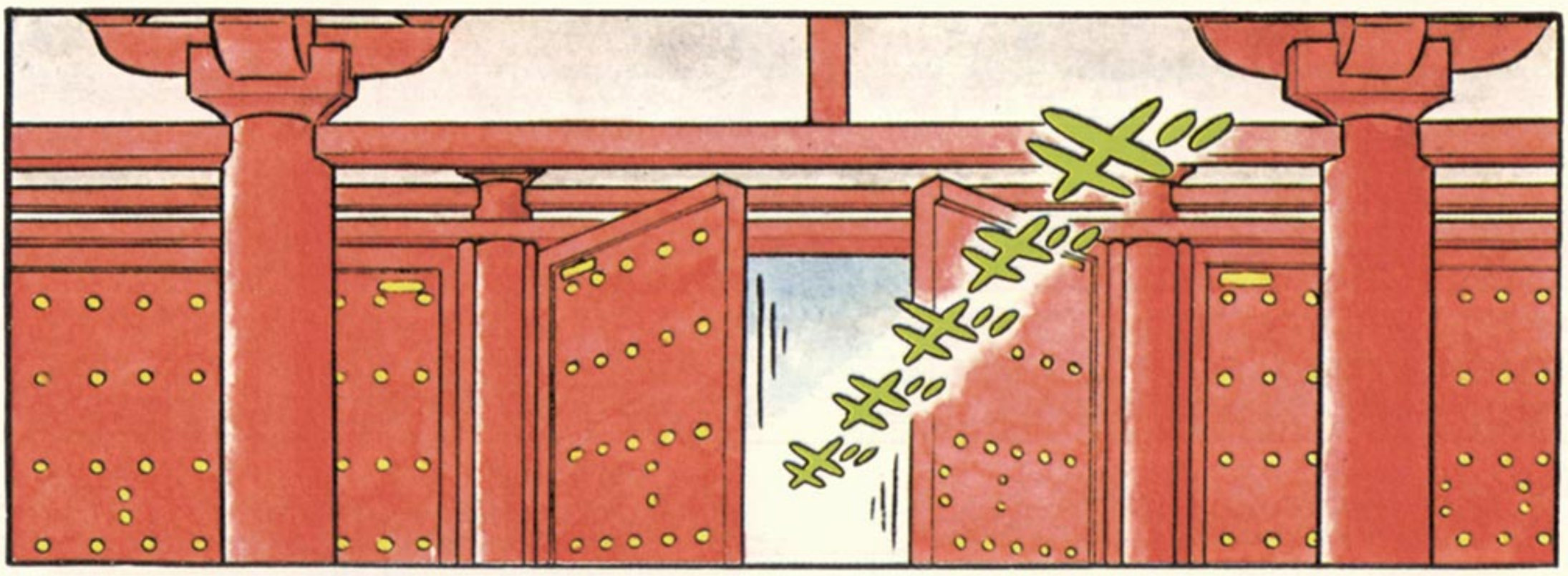
＊内裏…天皇の住まい。

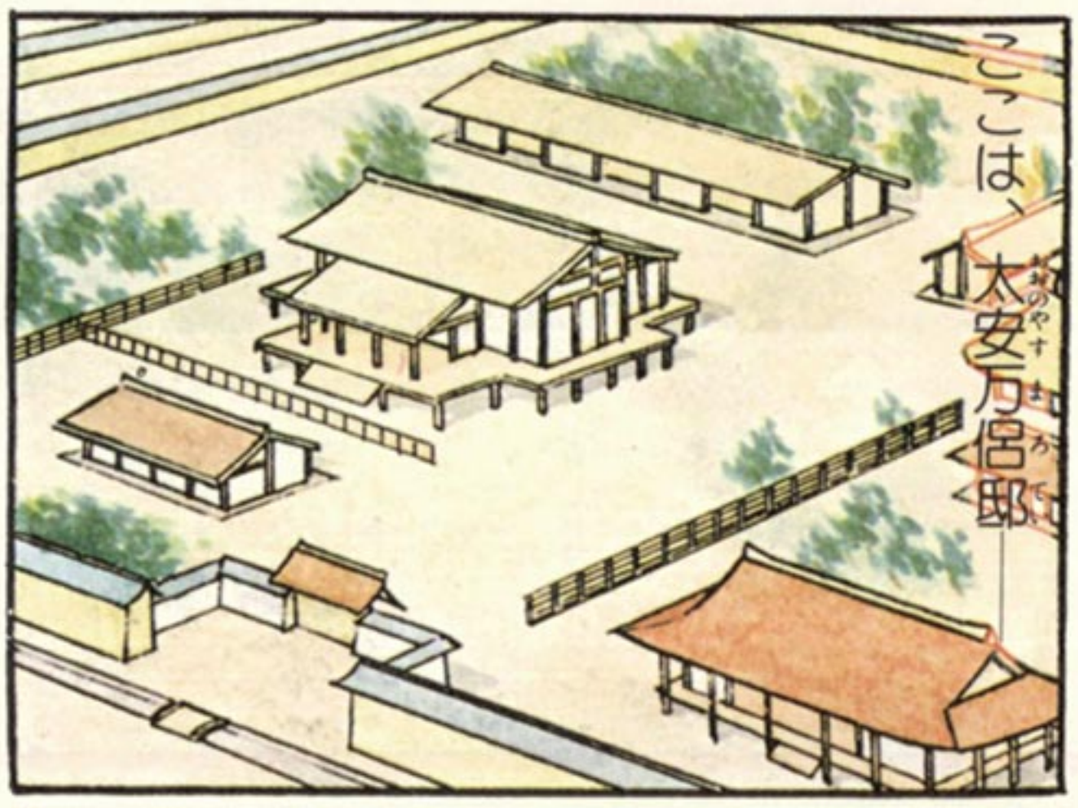


七一〇年、都は藤原京から、造営中の平城京へうつされました。

＊朱雀門…平城宮の正門。

八世紀のはじめ、平城宮朱雀門——





ふあ〜

ねむいのう、夜明けまでに出勤しなくてはならないのだから…。

役人も、楽ではないわ。

今日も、人びとは都づくりでいそがしそうだな。

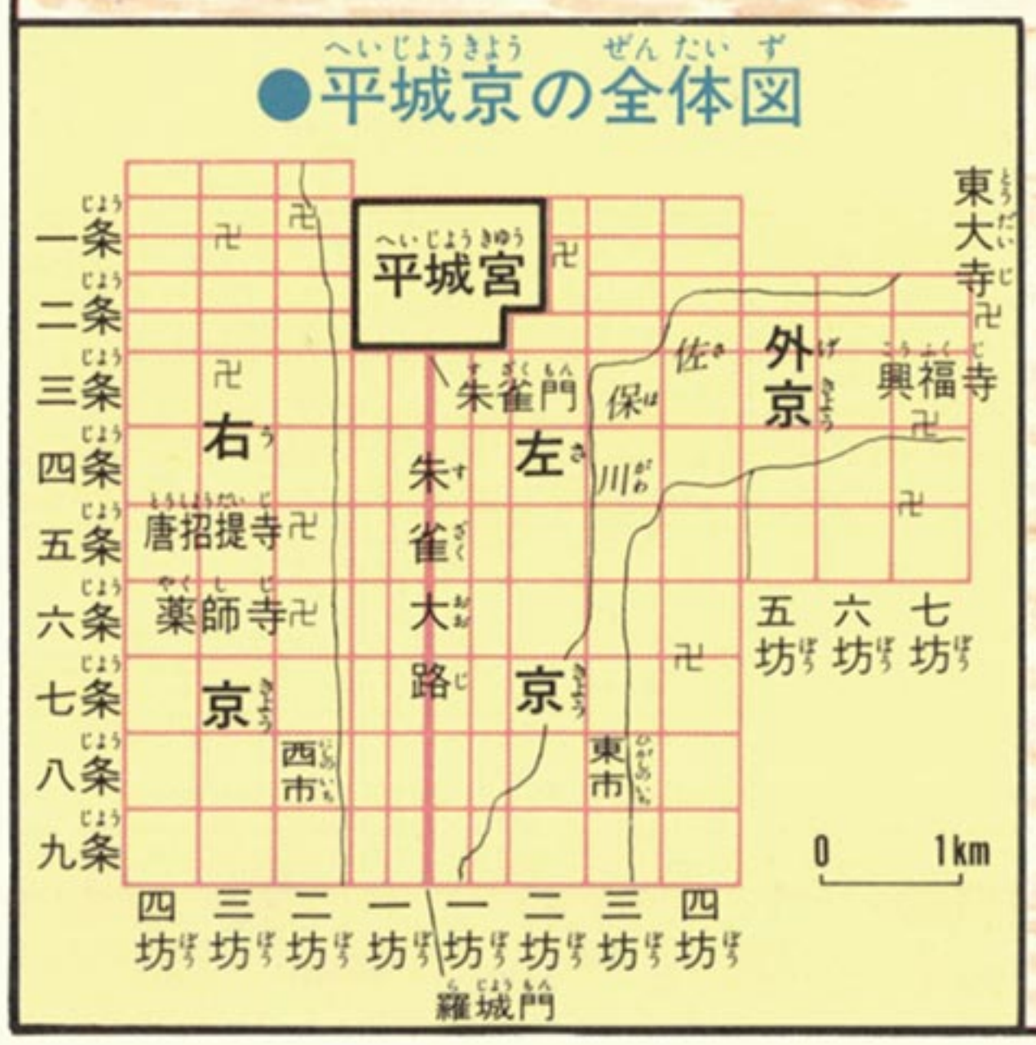
カン カン

ギーコ ギーコ

ガラ ガラ

ゴロ ゴロ

ヘーヘー



おはようございます。

いそがないと遅刻ですぞ。

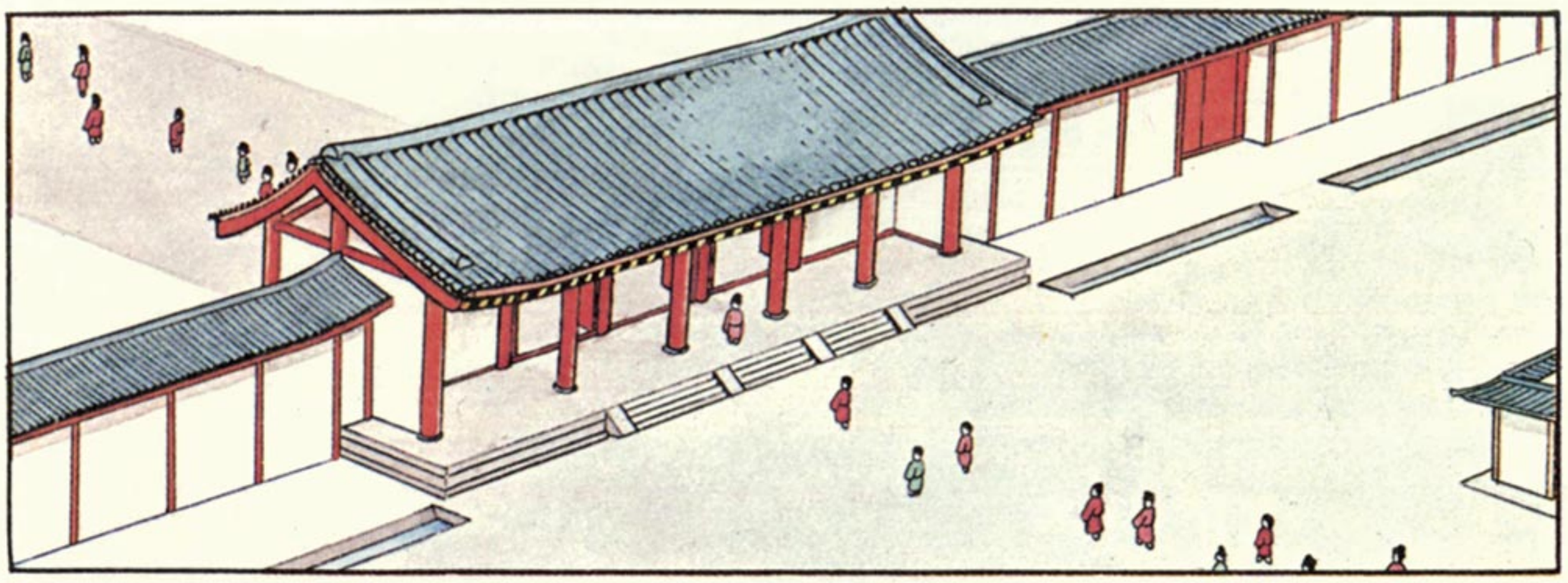
いや、もうふらふらで…。

どうしたのです？

わたしども下っぱ役人は、都の南のはしにすんでおります。ですから、役所まで歩いて一時間半もかかるのです。

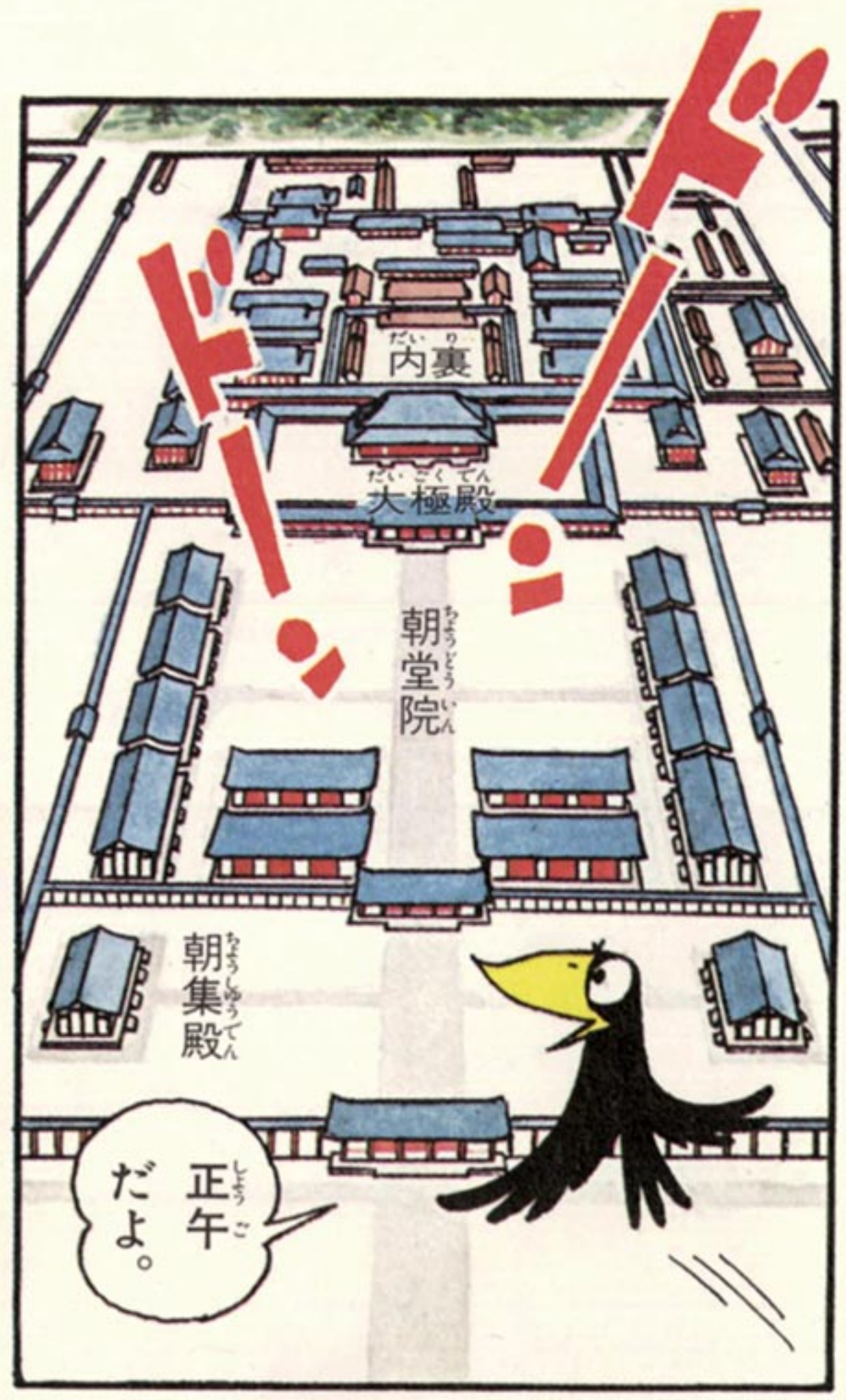
たいへんですな。

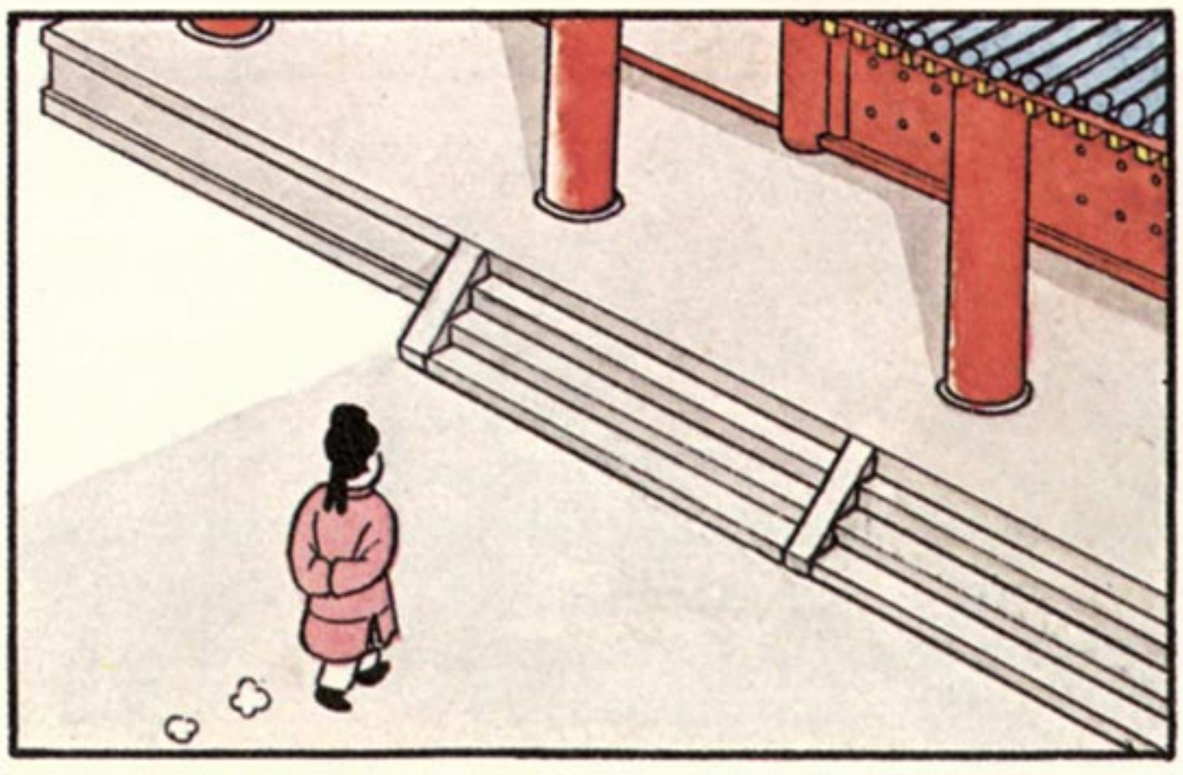
近くにおすまいの、みなさんがおうらやましい。



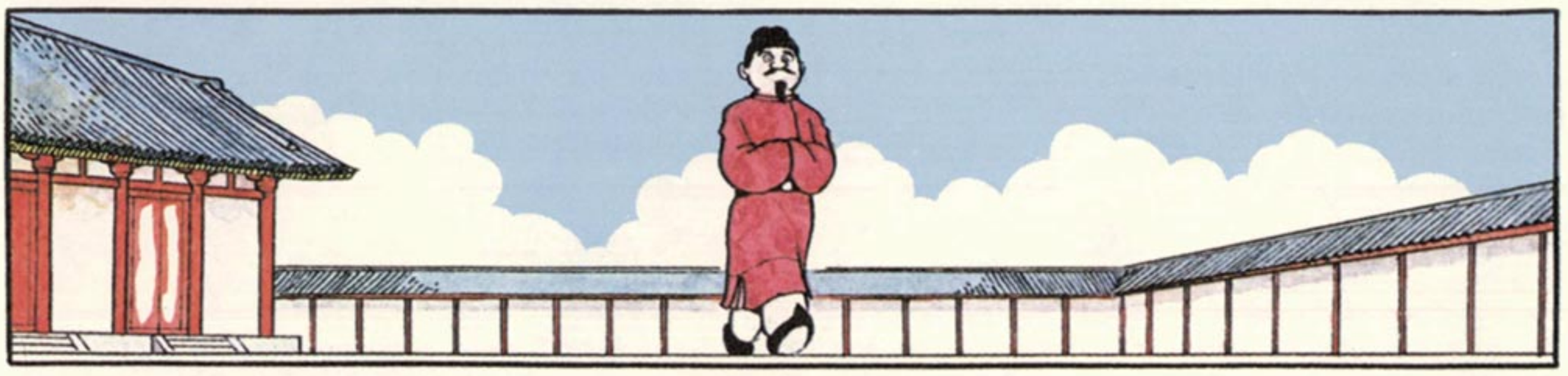
＊朝集殿…朝、出勤した役人があつまって待機する建物。

＊朝堂院…国家の政治や儀式を行う建物。

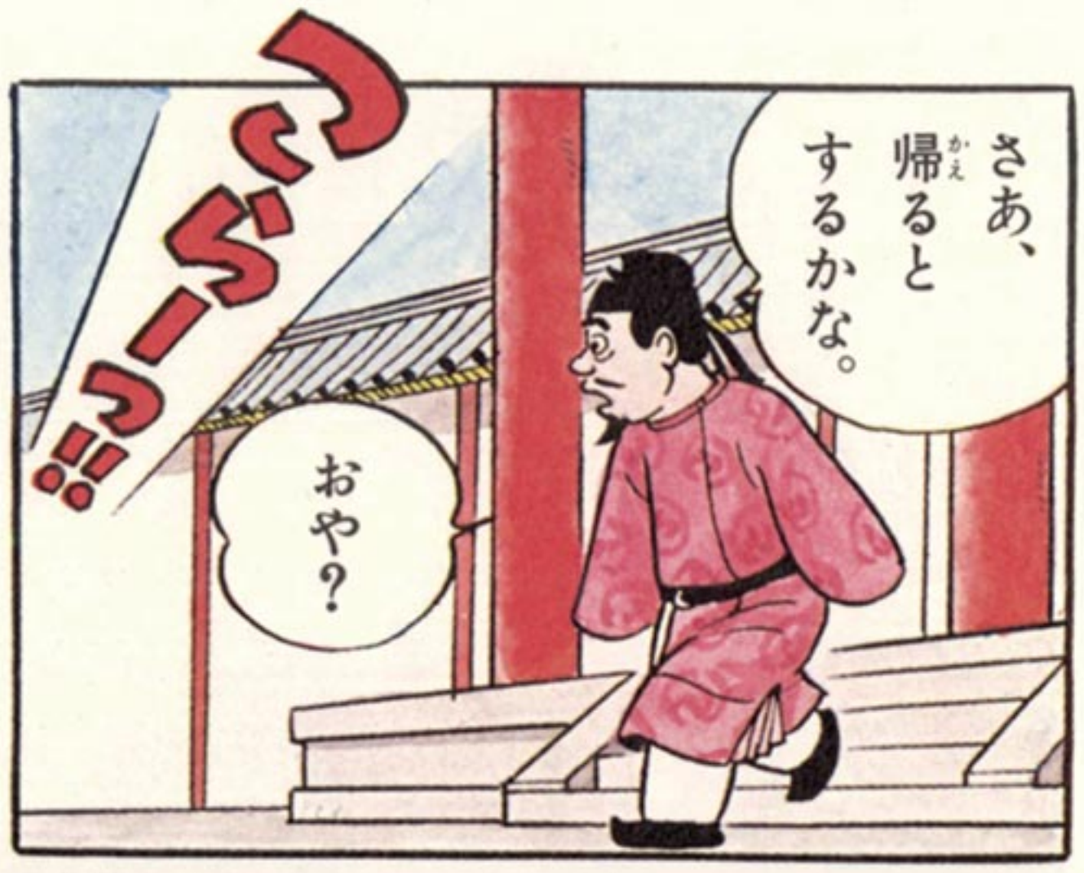


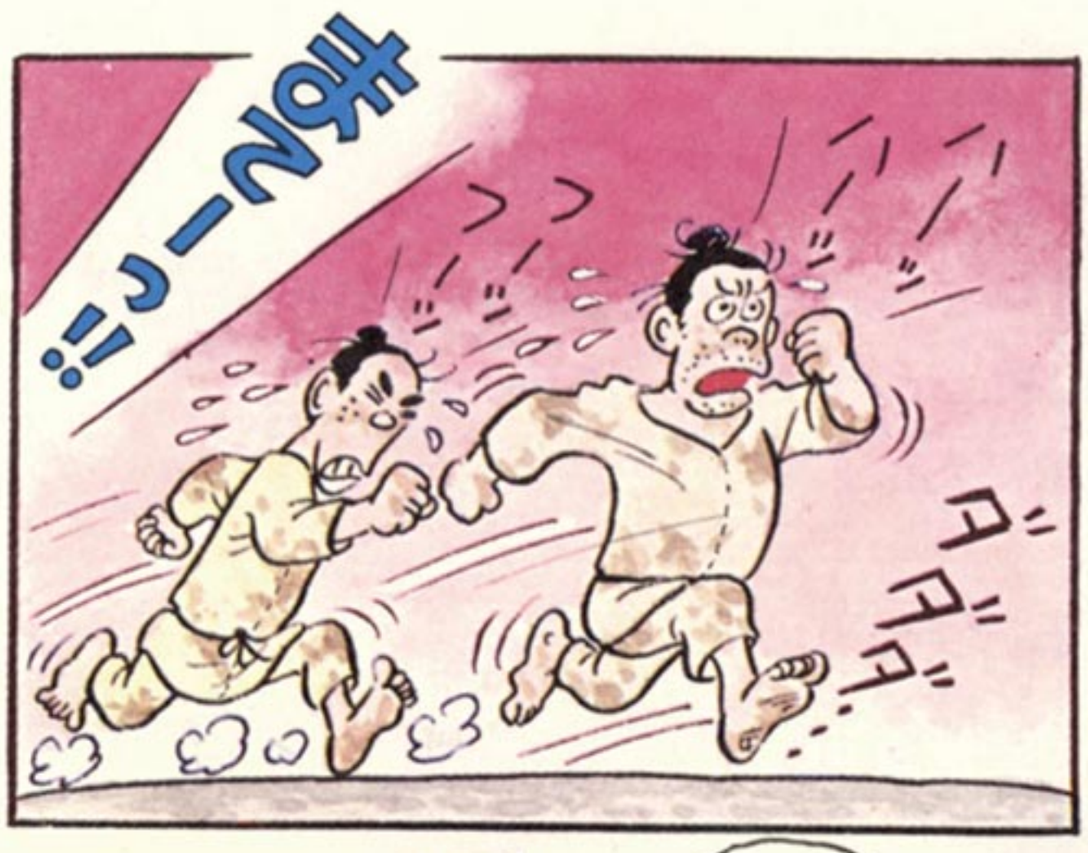


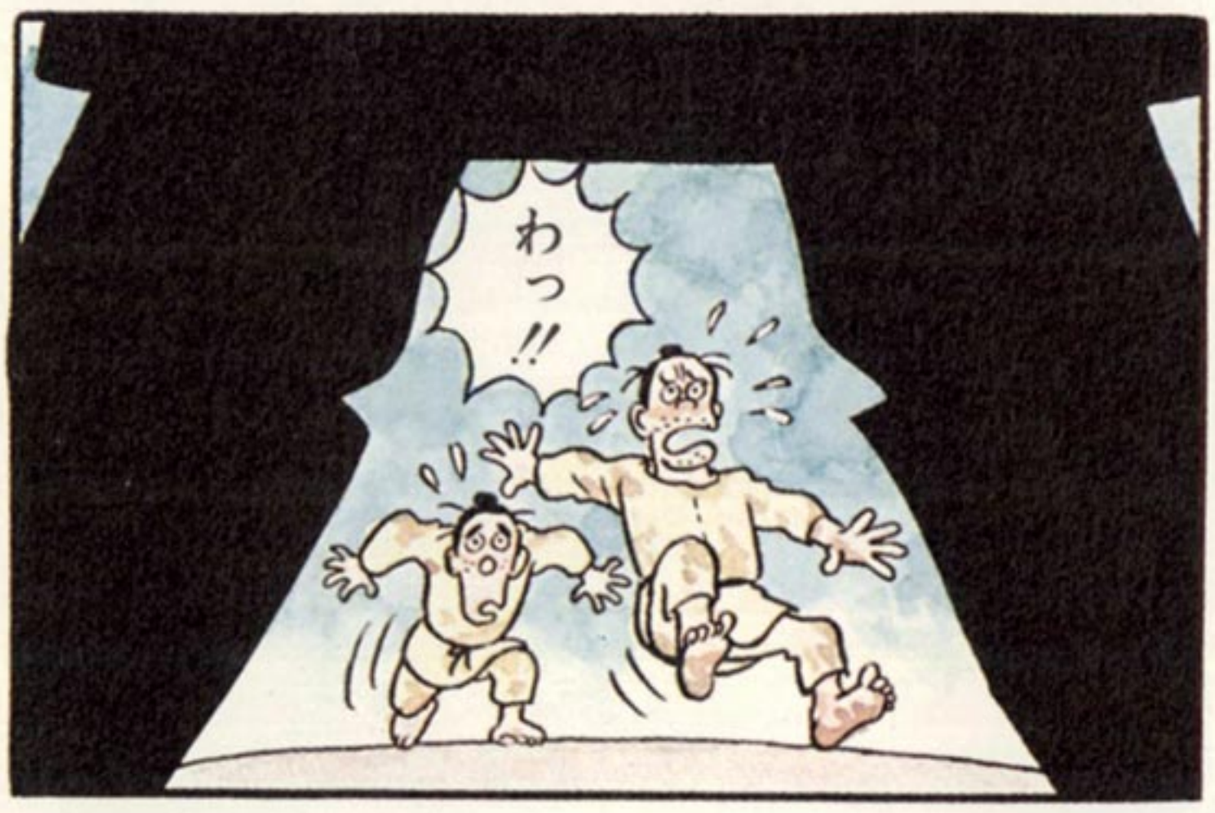
＊熊襲…南九州に勢力をもち、大和朝廷にしたがわなかった人びと。

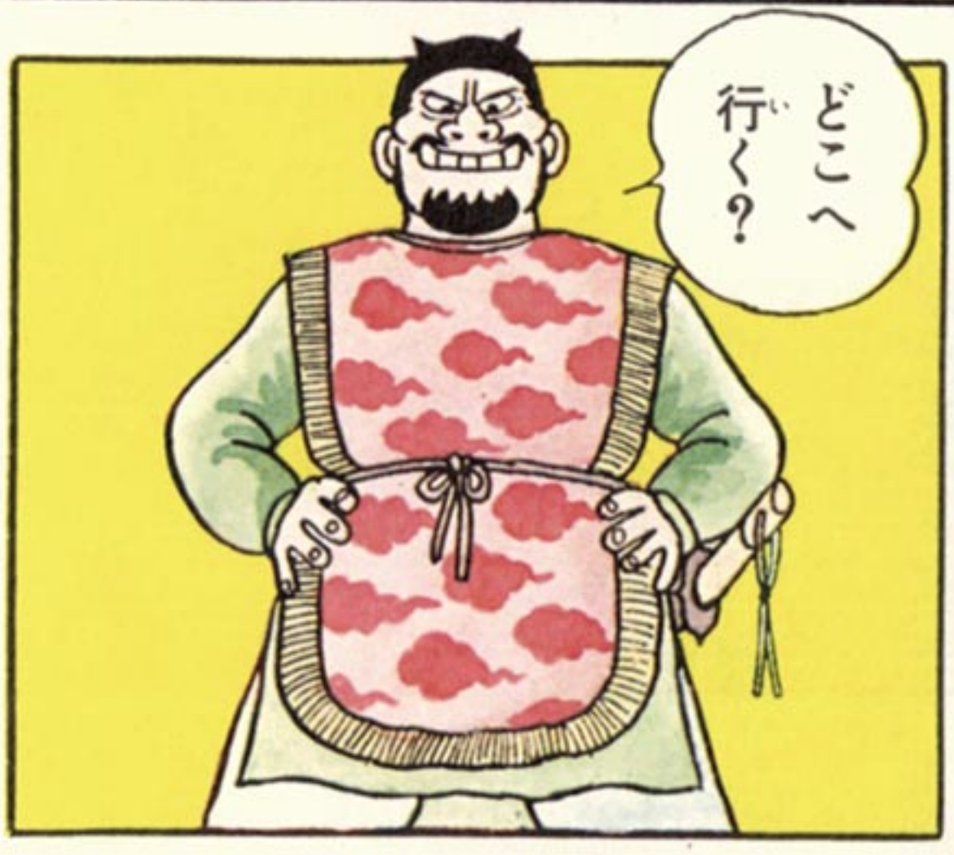


もう一つの歴史書は、舎人親王が中心となって七二〇年に完成しました。「日本書紀」といいます。


さあ、帰るとするかな。
ぐらーっ!!
おや？

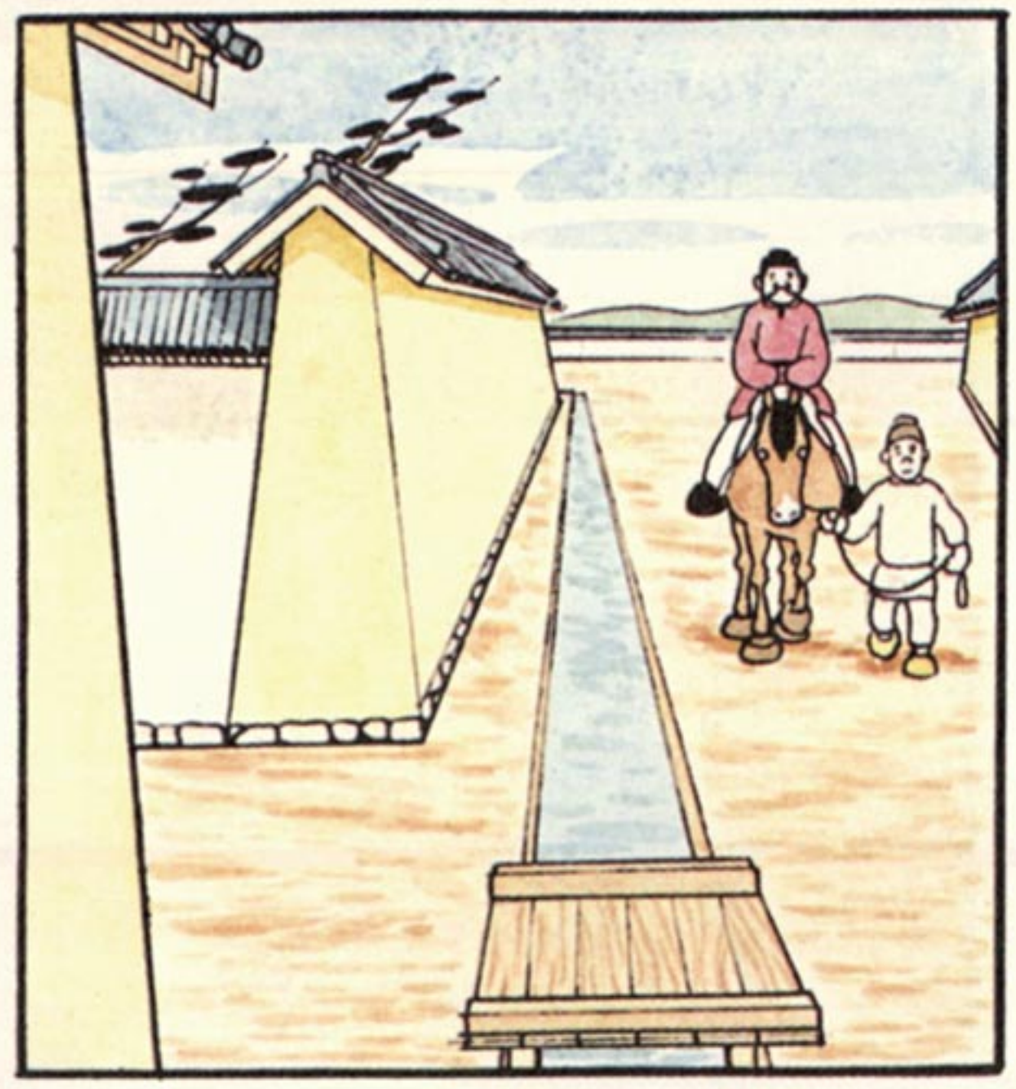

ぱんーっ!!


わっ!!


どこへ行く？

よし、引っとらえろ。
真っ昼間から、にげようとは、ずぶといやつ。

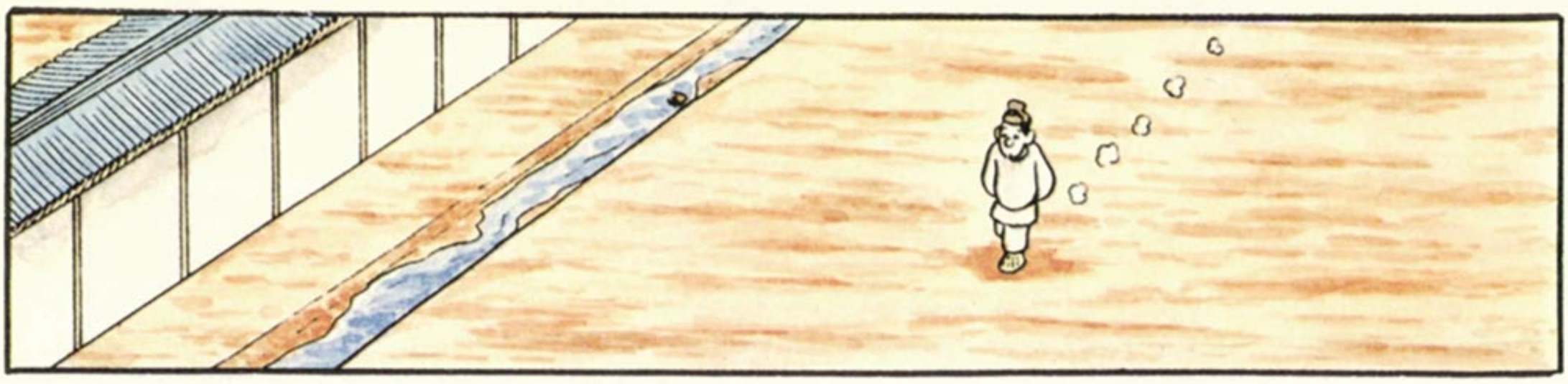
ははあ、都づくりがつらくてにげ出そうとしたのだな。
どうぞ、ごかんべんください。



*資人…上級貴族などの雑役をする男。

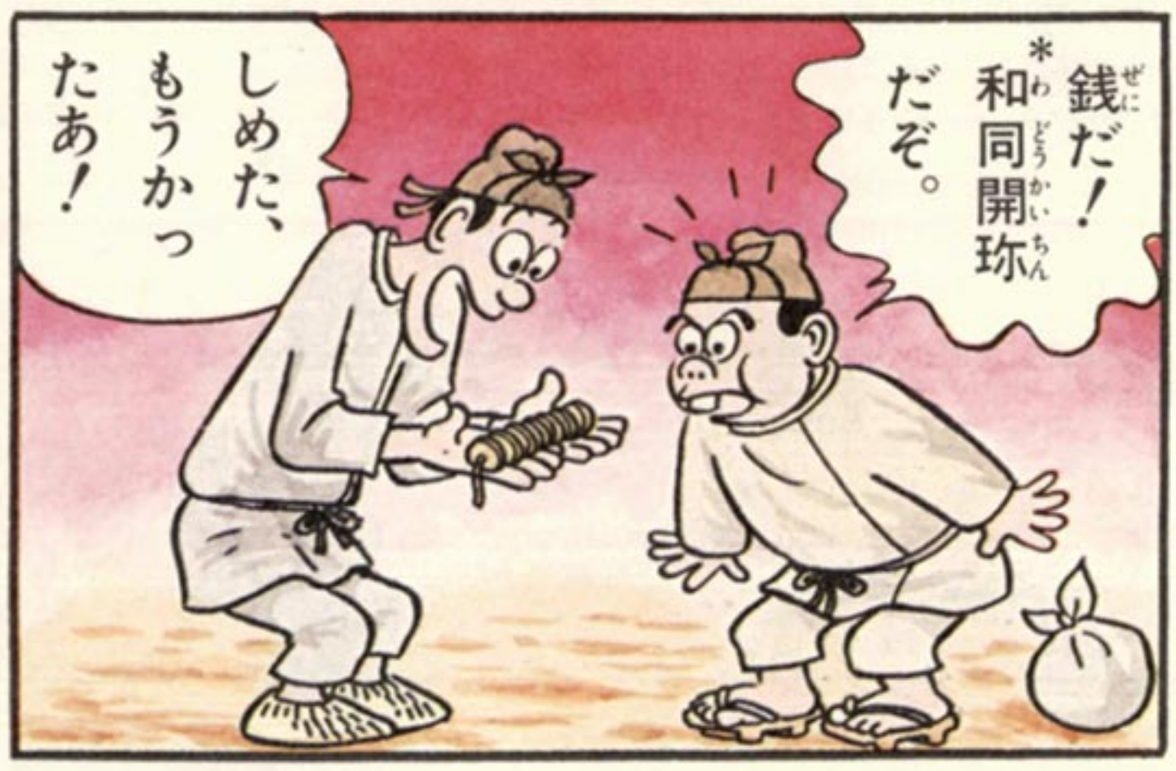
およびでございましょうか。
うむ、市は、正午からひらいておるな。

はい、月の前半は東市、後半は西市がひらかれます。
ふむ…。市に行っていい筆をさがして来てくれ。



やあ、どこへ行くの？
やあ、ご主人の使いさ。市で買い物だよ。
なに、市場!?

じゃあ、いっしょに行こう。
ああ。



*和同開珎…「わどうかいほう」ともいう。

和同開珎は、日本ではじめて、本格的につくられた銅銭です。

七〇八年に武蔵国秩父郡（埼玉県）で銅山が発見されたことをいわってつくられた貨幣です。

しかし、都やその周辺以外では、あまりつかわれませんでした。

朝廷は、お金をためると、その金額におうじて位を上げるという法令を出して、多くの人びとに貨幣を流通させようとしましたが、効果がありませんでした。

ド!

何だい、あれは？

まてっ、どろぼう!!
ゴーッ!

さすが、市はにぎやかだな。
ここは、全国からいろいろな品があつまって来るんだ。見ているだけでも、楽しいよ。
クンクン

おれも、市で商売してみたいな。
ええ、らっしゃい、らっしゃい。
今日は特別大バーゲンだよ！
ワイワイ
ガヤガヤ
それには、お役所の特別の許可がいるんだぜ。

東市、西市とよばれる平城京内の二つの市場は、朝廷の手で運営されていました。
商品の値段なども、市司という役人によって、きびしく管理されていました。
どろぼう！くそっ、またあのがきは!!
ひええ、あれも食べたい、これも食べたい。
なにっ、どろぼう!?

さあ、新せんな野菜や果物はどうかね。
うわあ、あれもほしい、これもほしい！
ドン
うわああん、迷子になっちゃったよう…。
どなたか、食べ物をめぐんでくだされ…。

産地直送、取りたての魚だよ！

おい、これは値段が高すぎるぞ。
へっ、へい。

これを、米と交かんしてくれ。
へい、へい。

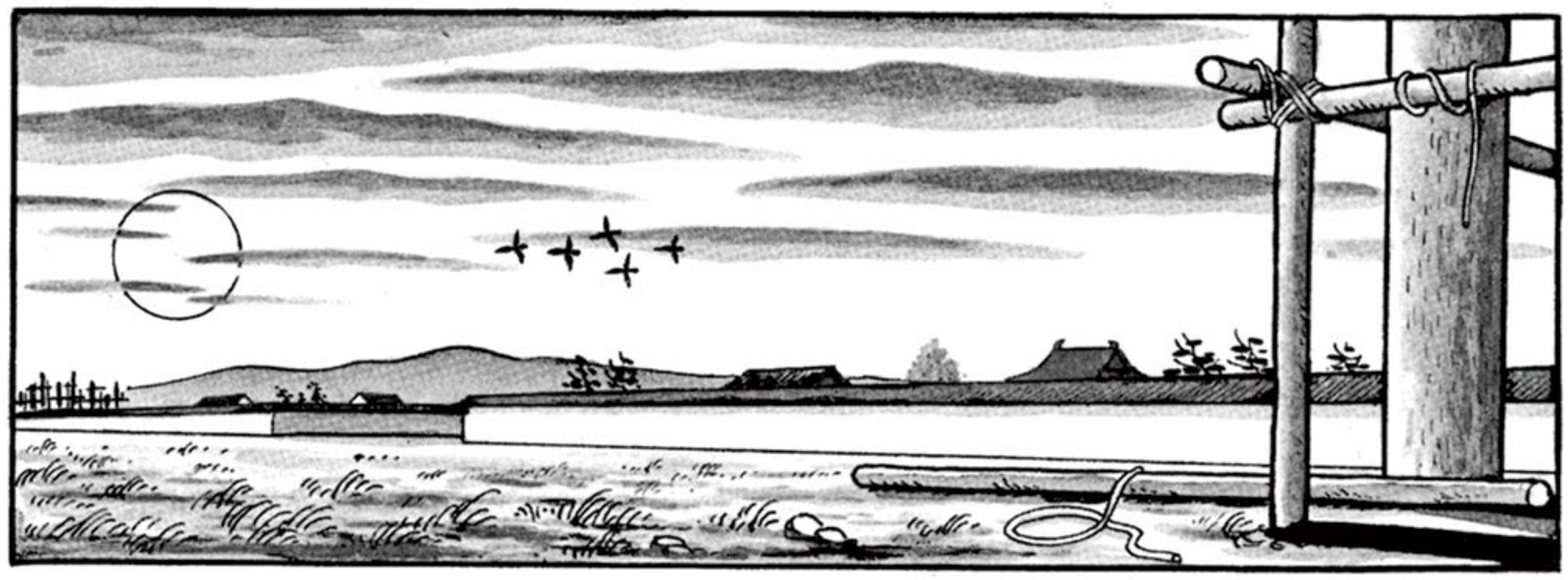
げっ、これは、昨夜わが家からぬすまれたもの。
さては、ささまが！
いえ、これは別のお客さんと交かんしたんでございます。

？
あいつどこへ行ったんだろう…。

おお、ここにいたのか。何を買ったんだい。
う、うん、さ、酒だ。

すると…、おまえ！さっきのは本物の銭だったんだな。
へへへ、ばれたか。

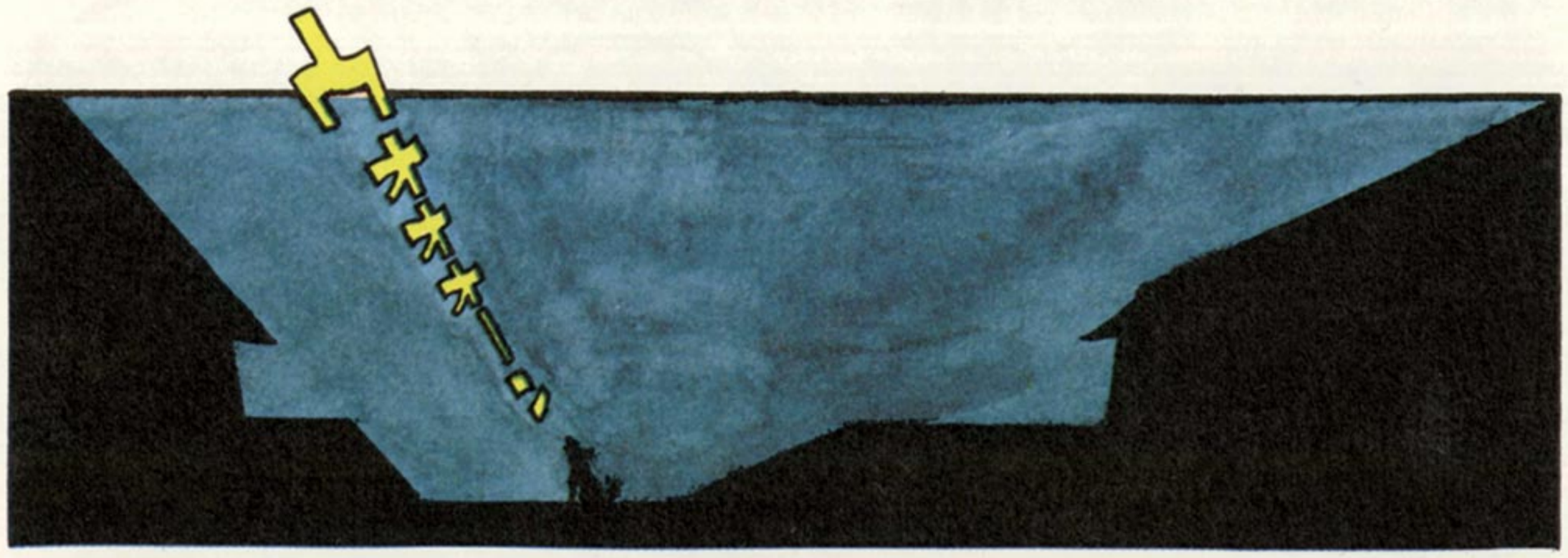
わあい！わあい！
まてっ！おれにものませろ。



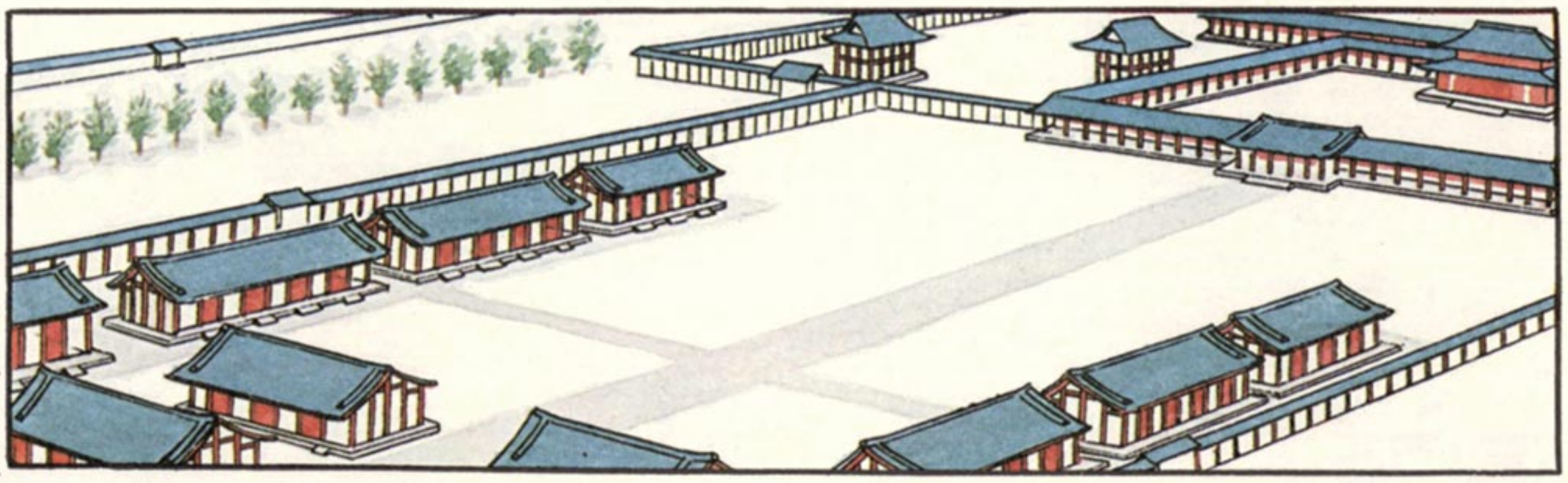
ウ～ィ
よっぱらったよう。

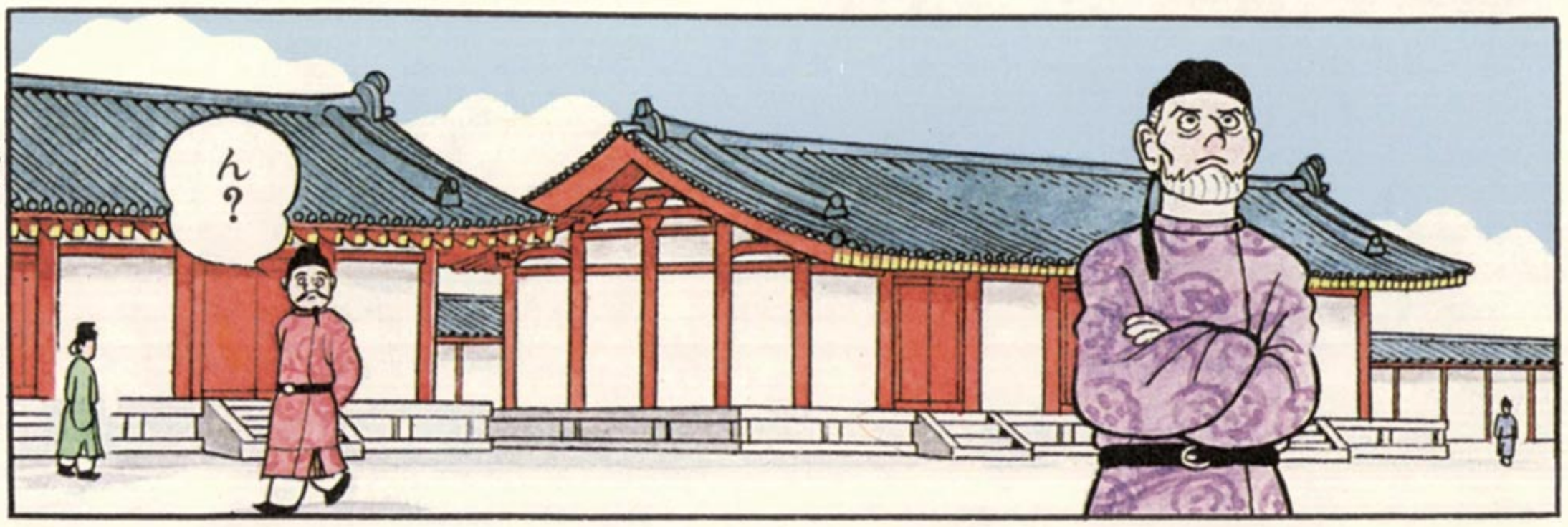
アホウ～
ヒック
あっ、いけねえ。ご主人にたのまれた筆を、買いわすれた。

ドーン
ドーン
日ぐれの合図だぞ。
夜間の外出は禁止されている。見つかると、たいへんだ。いそいで帰ろう。



＊浮浪人…自分の土地をはなれて国内をうろついている者。犯罪者としてばっせられる。





*朝堂院…国の政治や儀式を行う建物。

*律令…七〇一年にさだめられた大宝律令のこと。第二巻第四章参照。

朝堂院の中では、天皇をおむかえして、おもな高級役人が、一堂に会し、宴会がはじまろうとしています。

首皇子

元明天皇

氷高皇女（後の元正天皇）

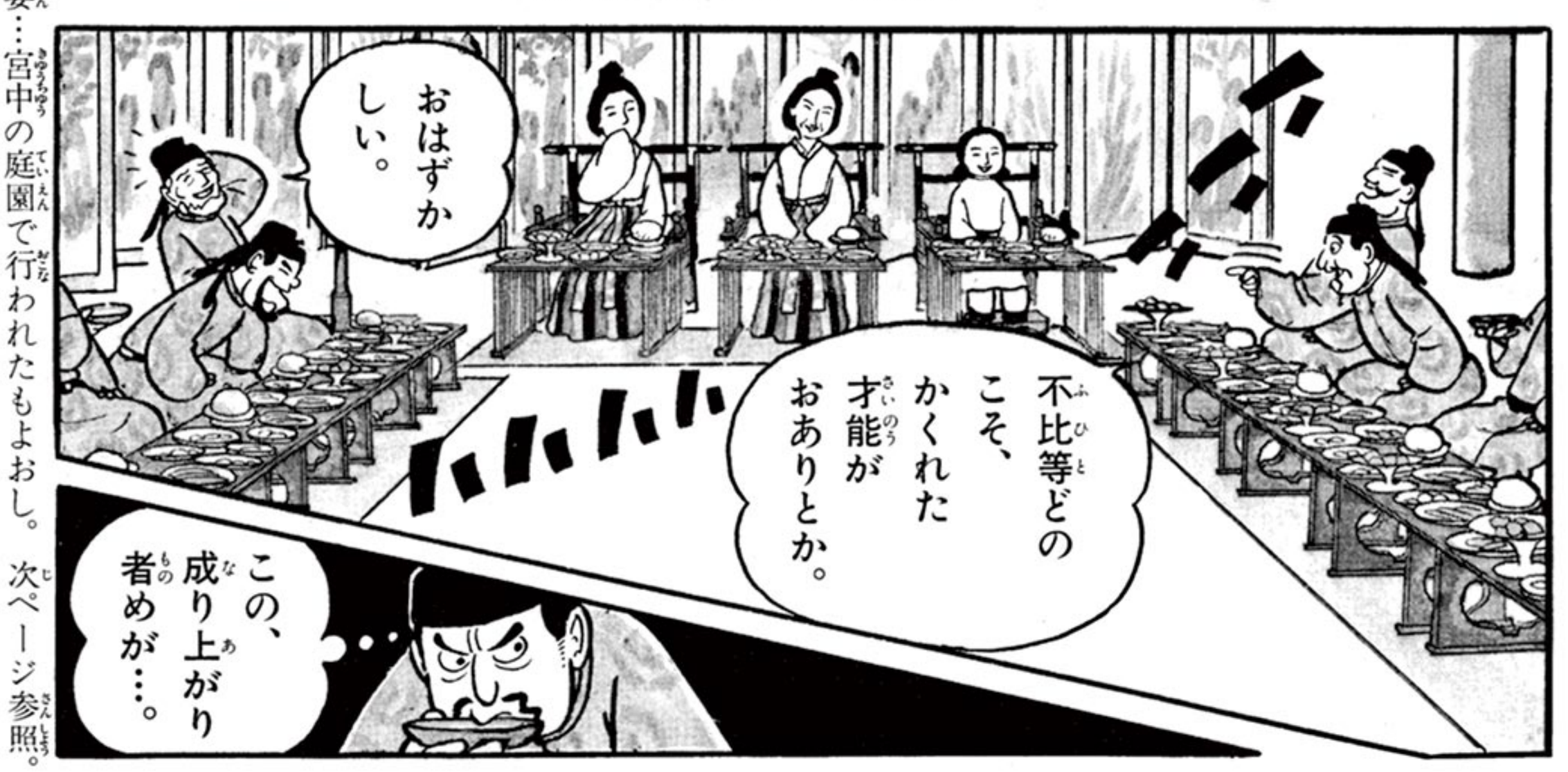
ようやく、新しい都のくらしにもなれてきました。今日はゆっくりくつろいでください。

舎人親王

ふむ……。いずれ、むすめの光明子を首皇子のきさきにしたいものだ。さすれば、藤原家はますます安たいじゃ。

藤原不比等

首皇子（後の聖武天皇）



*長屋王…天武天皇の孫。第二章参照。

*曲水の宴…宮中の庭園で行われたもよおし。次ページ参照。

奈良時代、貴族たちはよく宴会をひらきました。なかでも、三月三日に広い庭園の、まがりくねった小川（曲水）のほとりでもよおされる「曲水の宴」は、はなやかなものでした。

出席者は、曲水の上流にうかべたさかずきが、自分の前にながれつくまでに、漢詩をつくるのです。

サラサラ

できなかった人は、罰として、酒をのまされました。

ドボボ

*写経…お経を書きうつすこと。

このころ役人は約一万人いましたが、ぜいたくなくらしのできる貴族は、百人から二百人くらいでした。

下級役人は苦しい生活をしていたようです。

しかし、下級役人も、一応の生活は保証されていましたから、一般の人びとにくらべると、ずっとましでした。

宮中でにぎやかな宴会がひらかれているころ――

ゾロ ゾロ

やっと、都についたぞ。

おやおや、そんな所でどうなさいました。

そいつは、しんでるぜ。

げっ！

都づくりの労役をおえて、国へ帰ろうとしたが、食い物も金もなくて……、

とうとう、のたれ死にというわけさ。

ひどい話だ！

おまえさんは？

へい、ムラから調の荷をもって、とどけに来たんで。

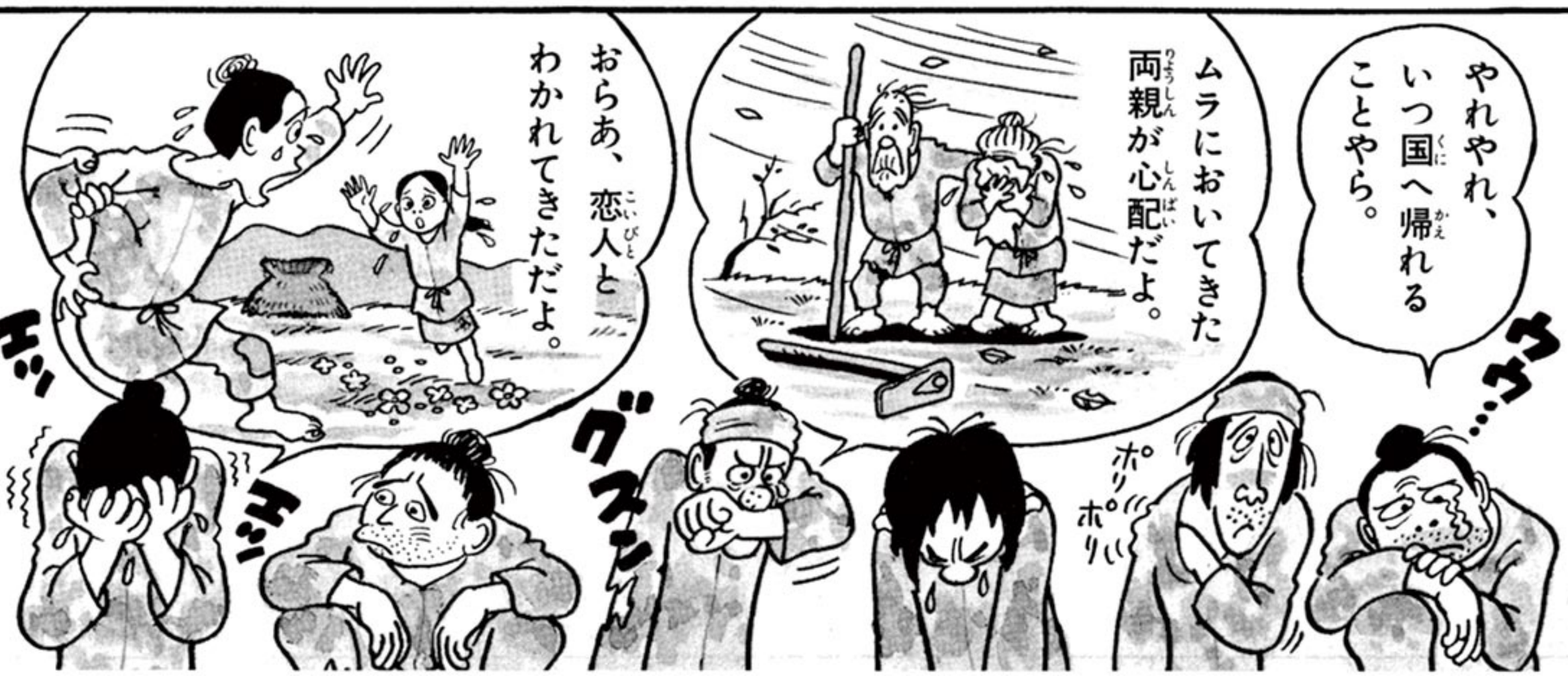
どれ、荷ふだを見せてくんろ。

＊調…律令できめられた税で、布や産物をおさめる。

*筑前…福岡県

*相模…神奈川県　*甲斐…山梨県

*衛士…宮城の警備にあたる兵士。　*防人…北九州をまもる兵士。



*「万葉集」の代表的な歌人で、役人でもあった山上憶良は、この時代の地方農民のくらしを次のように歌っています。

●貧窮問答歌

「……伏せ廬の　曲げ廬の内に　直土に
藁解き敷きて　父母は　枕の方に　妻子
どもは　足の方に　囲み居て　憂へ吟ひ
かまどには　火気吹き立てず　甑には
蜘蛛の巣かきて　飯炊く　ことも忘れて
（中略）しもと取る　里長が声は　寝屋
処まで　来立ち呼ばひぬ……」

*万葉集…奈良時代後半につくられた日本でもっとも古い歌集。

*こしき…米などをむすための土器。

*里長…国司の下で税などをあつめるムラの役人。

*出挙…イネをかして、返済のときに利息をとる制度。

ほほう、今、お役人の宴会がおわったんだな。

ううい。いい気分じゃのう。

今日は、引き出物もたんまりでございましたね。

うむ、帰ったらまた祝はいをあげるとするか。

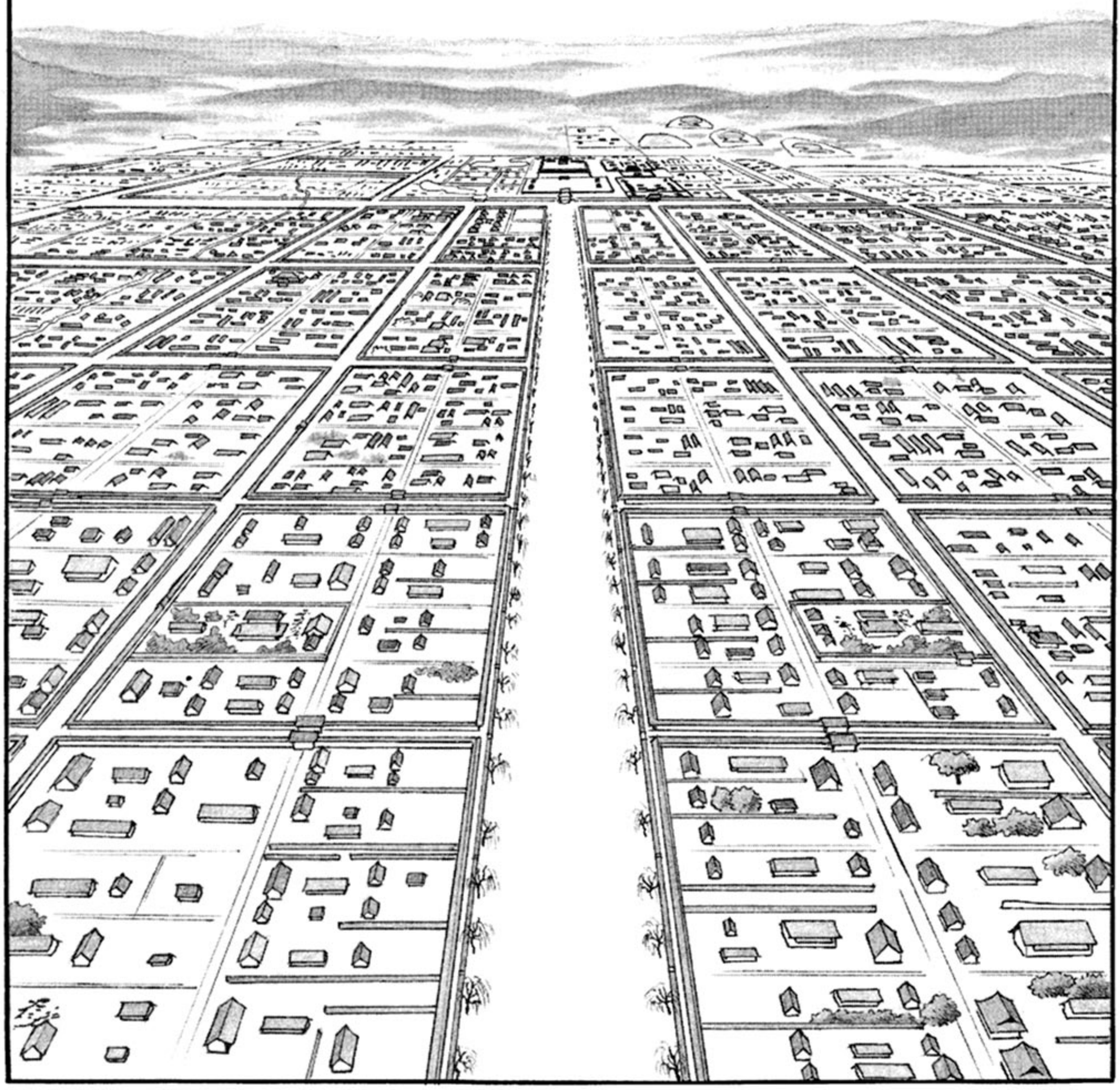
りっぱな朱ぬりの門、上品なお役人たち…。さすが、奈良の都だなあ！

ふん、それもこれも、みんな、わしたちのおかげさ。

その後、平城京の造営はいちだんとすすめられ、やがてその美しさは「青丹よし　寧楽の都は　さく花のにほふがごとく　今さかりなり」（青い屋根瓦と朱ぬりの柱ががやく奈良の都は、きれいな花がさきにおうように、今さかえている。）と、歌にもよまれました。

平城京は、藤原京についで、律令制による全国支配の中心地としてつくられました。唐の都、長安にならった都の様子は、天皇中心の国家の勢いをしめしています。

しかし、天皇や貴族たちがはなやかな生活をおくる一方で、まずしい農民は重い税の負担にあえいでいるというように、奈良時代の社会は大きなむじゅんをかかえていました。



小学館 eBooks

第二章

奈良の大仏

——奈良時代——

小学館 eBooks

ここは平城京、
聖武天皇の時代です―

七二八年、
藤原不比等邸―

*内親王…天皇の姉妹や皇女のこと。

基のみこの病気がなおるようにいのって、お経をうつしておりました。

そなたは、信心深いな……。

それにしても、みこの病気が心配だ…。

おきさきさま！みこさまが！

えっ、みこが!!

ああ……、みこ、みこ…、どうして、しんでしまったの……。

ううう…、やっと皇太子ができたとよろこんだのもつかの間…。

その翌年――

ジュ

バタ

兄上、何か良い知えは…。

藤原房前

われらの妹が生んだ基皇子にしなれたのは、まったく残念なこと……。

麻呂

宇合

ううむ。ここが、われらの思案のしどころ…。

武智麻呂

こまったことに、みかどのもう一人のきさき*に、男子が生まれた…。

安積親王だな。

もし、安積親王が次の皇太子にきまったら……？

われら、藤原氏の勢力はがた落ち…。

うむ…こんなとき、父上だったらどうなされただろうか…。

おまえたち、これからは、光明子をもり立てて、わが藤原一族の力を高めていくのじゃ。

藤原不比等

よし、あの手しかあるまい！

光明子

と、いうと？

*きさき…天皇のきさきには、皇后・妃・夫人・嬪の四つの地位があり、皇族だけが皇后と妃になれた。

藤原氏の系図

- 藤原鎌足
  - 不比等
    - 武智麻呂
    - 房前
    - 宇合
    - 麻呂
    - 宮子
      - 聖武天皇
        - 安倍内親王
      - 光明子
      - 文武天皇
    - 県犬養橘三千代
      - 橘諸兄

＝は結婚、
－は兄弟姉妹関係。

*光明子…藤原氏（臣下）の出身なので、律令の定めでは皇后にはなれない。

はっ。左大臣はむほんの心をおもちです。

ワナワナワナ

ううむ……。

長屋王邸

長屋王

皇族中心の政治を行うには、藤原氏がじゃま者…。

●長屋王の系図

天武天皇
- 舎人親王
  - 高市皇子
    - 長屋王
- 草壁皇子
  - 文武天皇
    - 聖武天皇

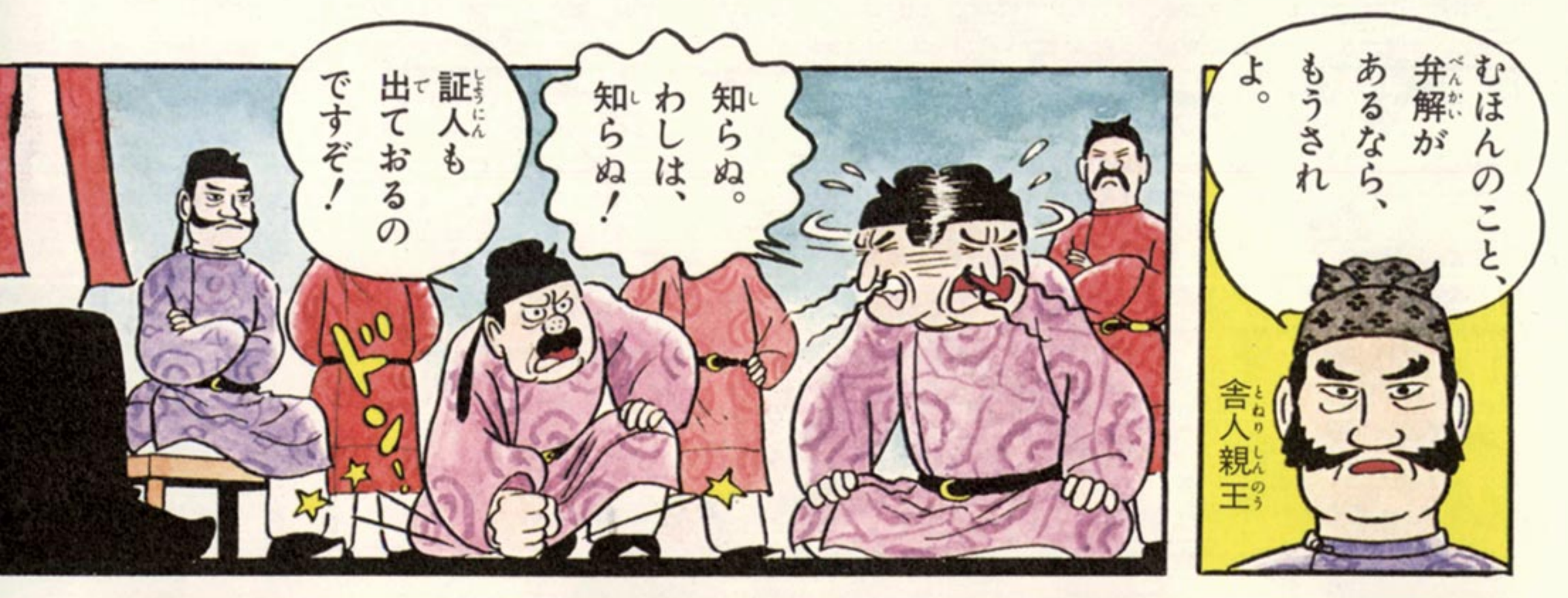
おや、外がさわがしいようだが。

?

おやしきを、兵たちがとりかこんでおります！

な、なにっ！

みかどのご命令により、われら調べにまいりましたぞ。



まもなく光明子は、皇后の位につきました。光明皇后といいます。

聖武天皇の

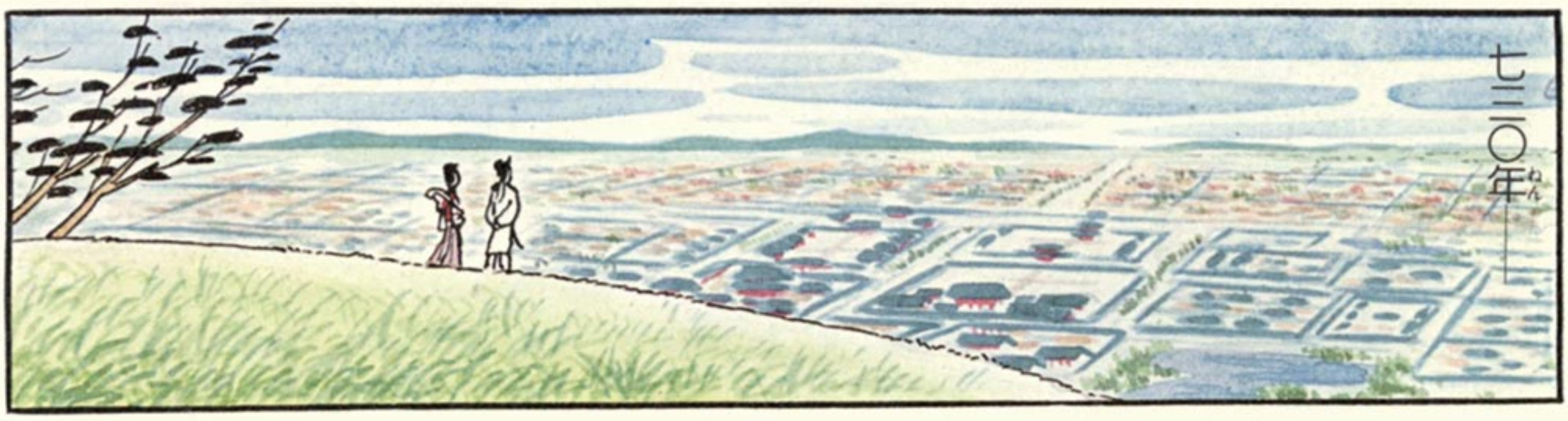
おめでとうございます！

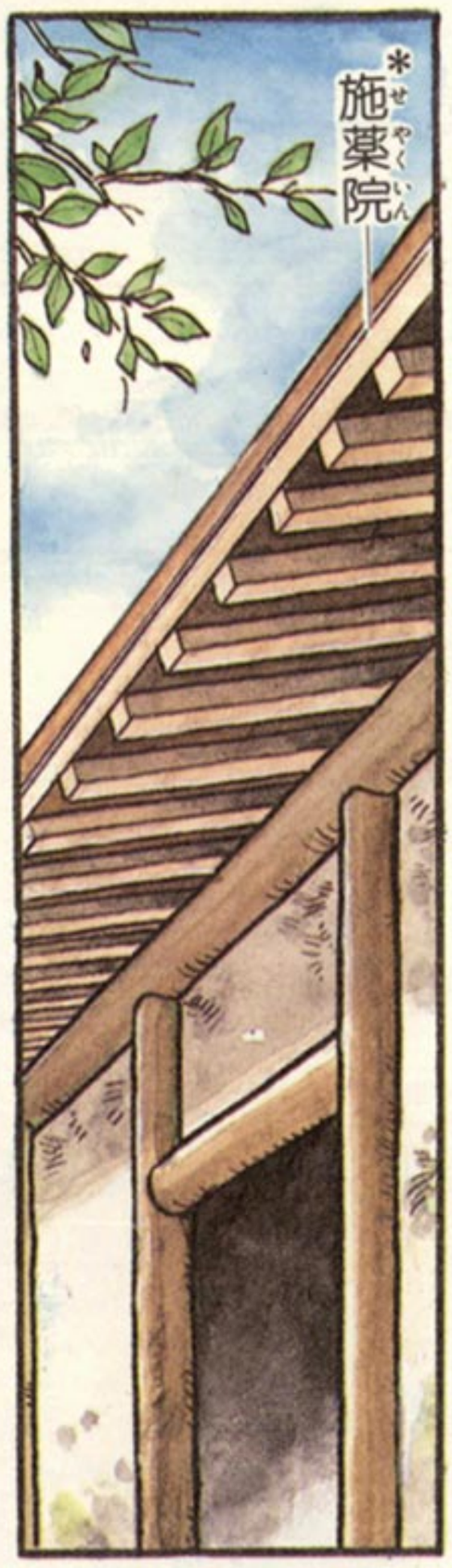
ふふふ…。われわれの勝利です。

長屋王の一族は、みな、自殺してしまいましたな。

さあ、これからは、われらの天下だぞ。

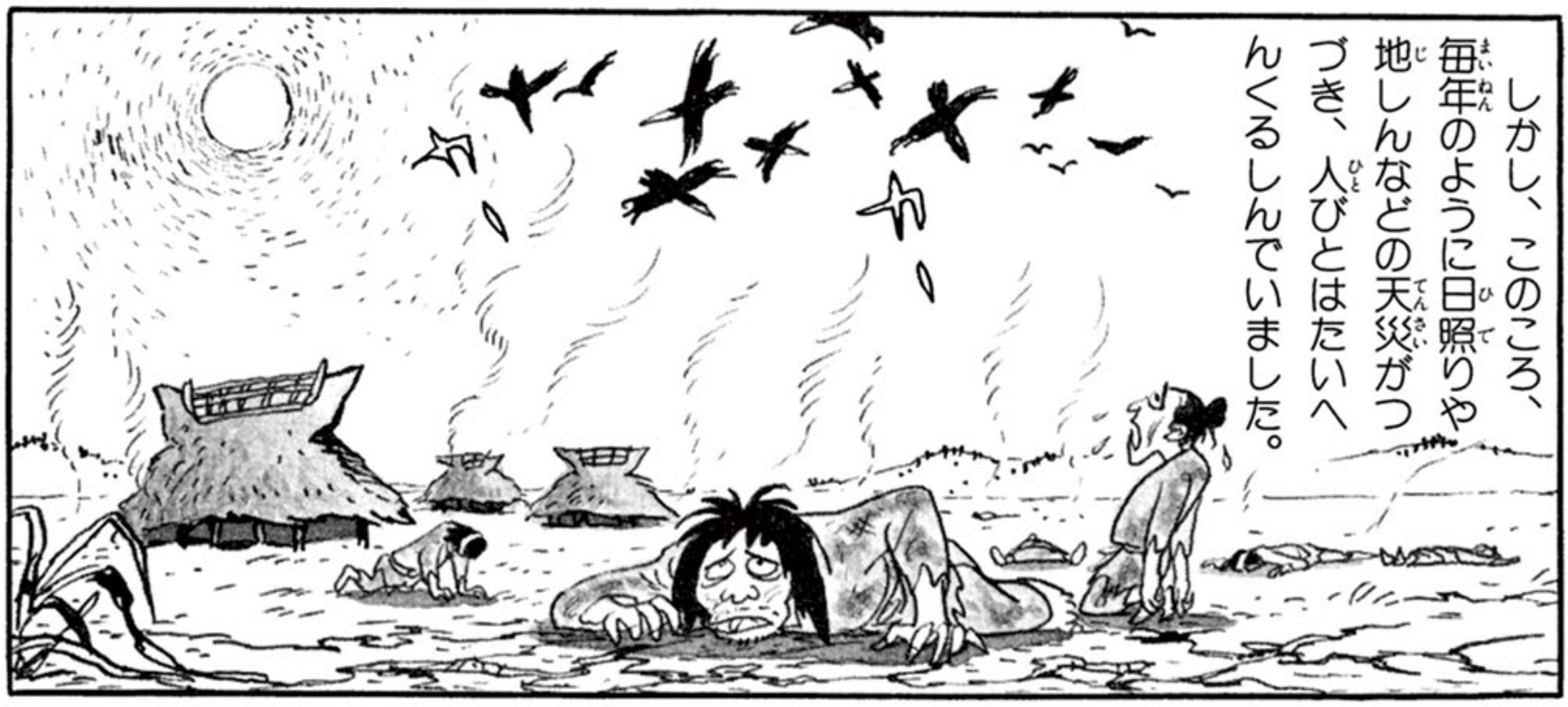
うむ。わが藤原氏ばんばんざいじゃ。





*施薬院…まずしい病人たちに薬などをあたえる施設。

*悲田院…まずしい人や、親のない子をすくう施設。



ゾロ
ゾロ
行基

いいかな。
み仏の教えは
ありがたい
ものですぞ
……。

行基さまは、
こんな所まで来て
仏さまの教えを
といてくださる。
そこがえらい。
寺にとじこもった
きりの坊さんたち
とは、ちがうわな。

それに、あちこち
に橋をかけたり、
道をつくったり、
堤をきずいたり
してくださる。

こらあっ
きさまら!!
ぼうず!
きさまは、また
朝廷の悪口を
いいふらして
いただろう!
いいえ、
わたしは
ただ……。

＊天然痘…伝染病の一種で、高い熱が出て、ふき出物ができる。死亡率がひじょうに高かった。

藤原氏の四兄弟をはじめ、*公卿、貴族のなかにも、天然痘による死者がたくさん出ました。

*公卿…官位の高い役人（大臣・大納言・中納言など）のこと。

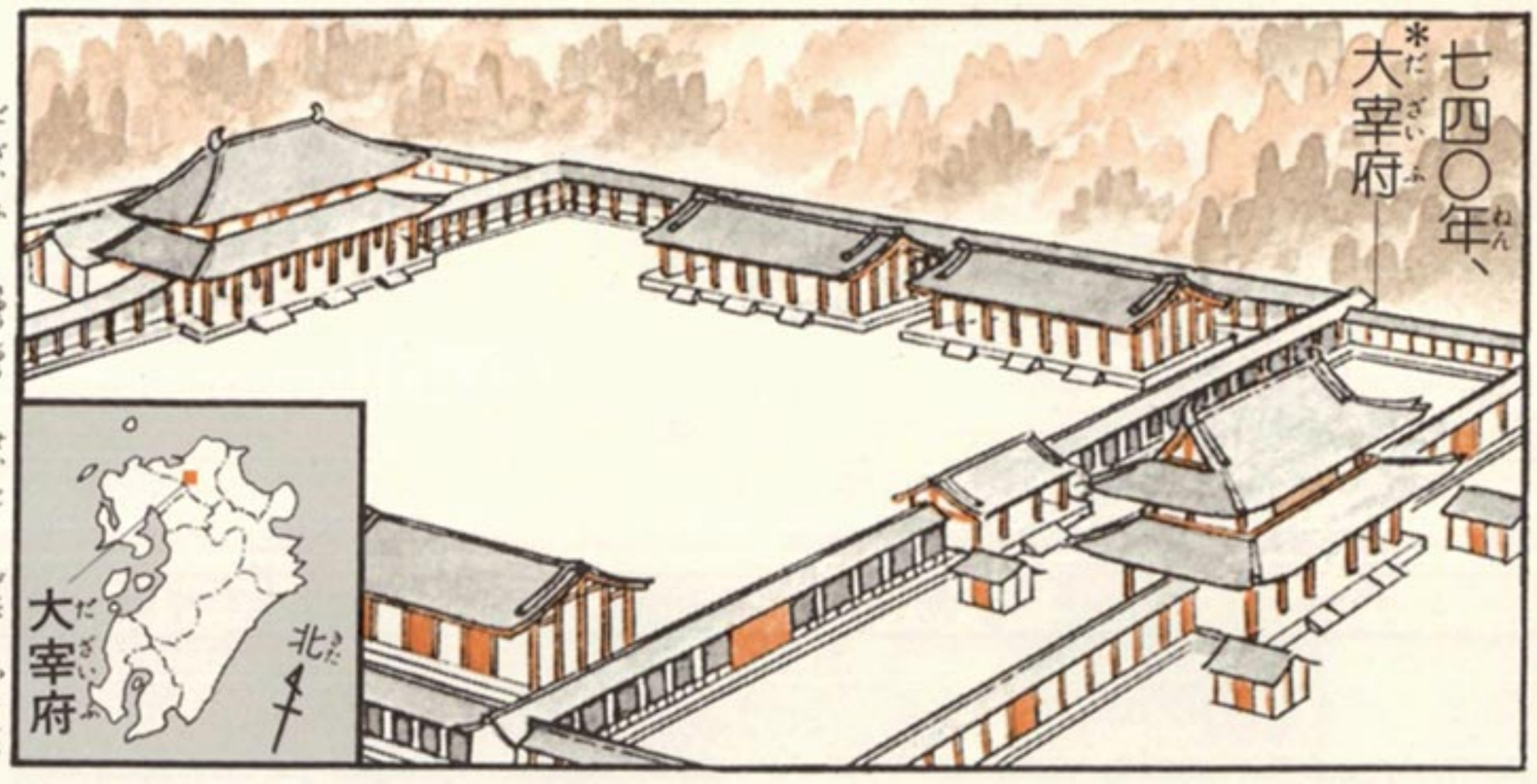
橘諸兄の系図

- 藤原不比等 ═ □ ═ 藤原仲麻呂
- 聖武天皇 ═ 光明皇后
- 県犬養橘三千代
- 橘諸兄 ═ 美努王

※橘諸兄は光明皇后にとって父親のちがう兄にあたる。

*僧正…僧のなかで最高の位。*気の病…心のつかれから生じる病気。

*藤原仲麻呂…藤原武智麻呂の子。



*大宰府…九州の政治を行う役所。

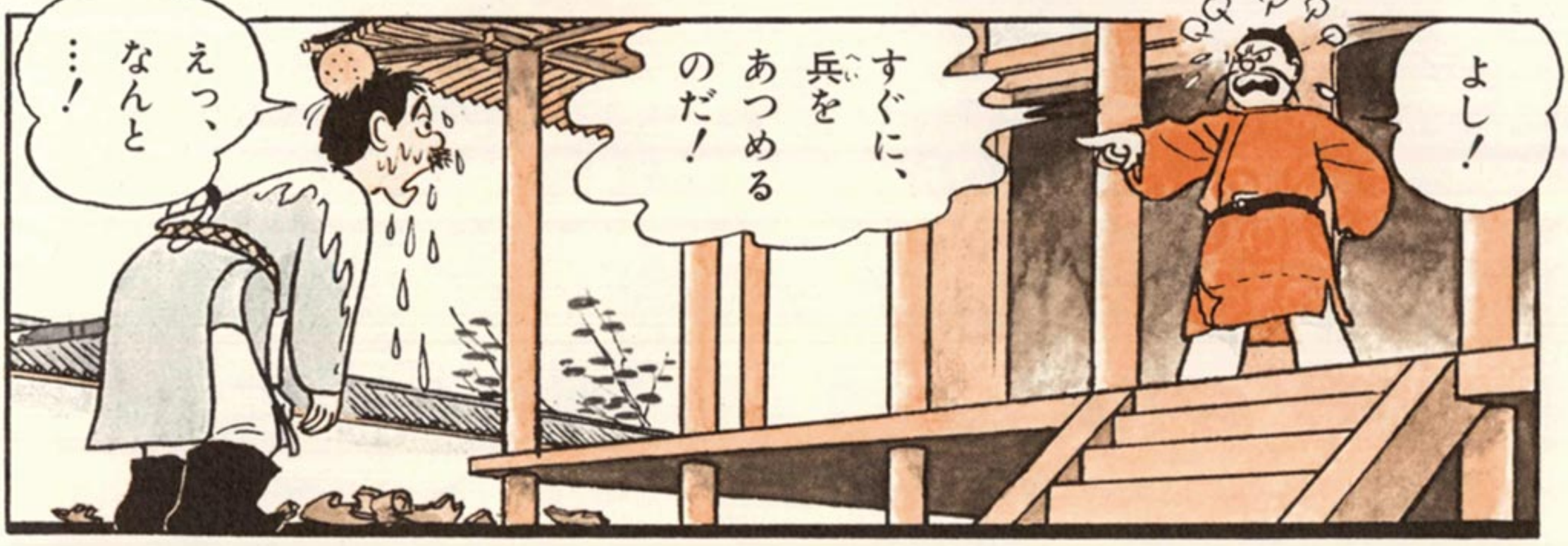
ムカ
ムカ
ムカ
ええい、おもしろくない！
ガチャン

グィ
*藤原広嗣

藤原の力がおとろえたとはいえ、なぜ、こんないなかでくすぶっていなければならんのだ。
これでは、島流しも同じことだ！
グィ

都では、成り上がりの玄坊や真備のやつらがわがもの顔。
くそっ!!
ゴ
ビュー

*藤原広嗣…藤原宇合の子。


よし！
すぐに、兵をあつめるのだ！
えっ、なんと…！

なにっ！広嗣が乱をおこしたと!!

＊勅使…天皇の命令をつたえる使者。

わたしは、みかどにはむかう気はない！

玄昉たちこそ、朝廷をみだす者だといっておるのだ!!

反乱軍の兵士ども、降ふくせよ。今なら、罪をゆるすぞ！

お、おい、にげ出すのか？

降ふくしよう。

ジャバ ジャバ

ザブ

よし、反乱軍をこうげきせよ。川をわたれ！

ワー

ギャー

ダダ

くそっ、西へにげるのだ。

この乱は二か月ほどでおさまり、広嗣は、とらえられて死刑となりました。

ところが、この乱の最中のこと――

わたしは…、しばらく旅に出ようと思う…。

ええっ、こんなときにですか？

みかどは政治におつかれになられたのでしょう…。

わたくしも、お供いたしましょう。

天皇の*行幸は伊勢から美濃、近江をへて、二か月あまりにおよび――

最後のたい在地*山背国では――

わたしは、もう都には帰りたくない。

ええっ!?

七四一年、ここが新しい都とされました。恭仁京といいます。

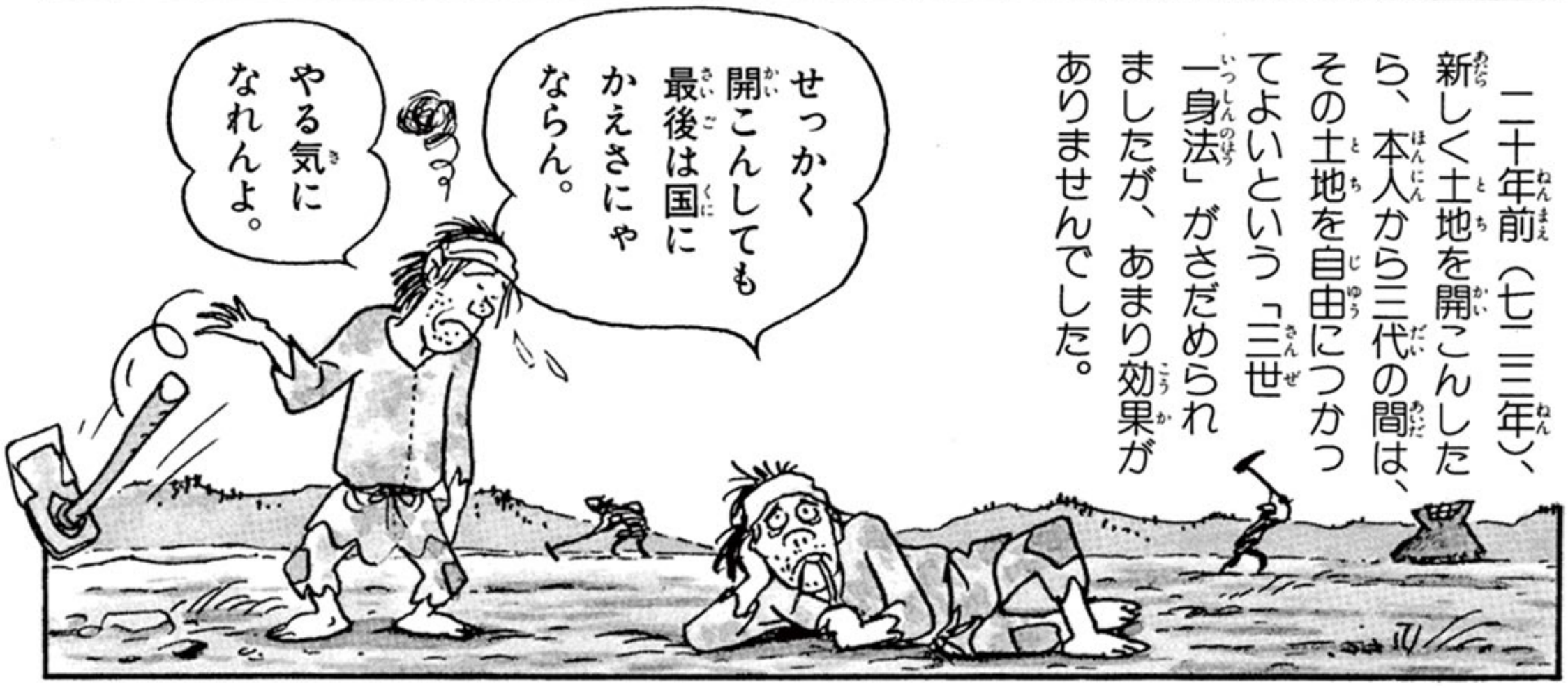
*行幸…天皇が出かけること。
*山背国…京都府

こうして、諸国に国分寺と国分尼寺がたてられることになりました。

この宮は、紫香楽宮といい、聖武天皇は、しばしば行幸しました。

*近江国…滋賀県

二十年前（七二三年）、新しく土地を開こんしたら、本人から三代の間は、その土地を自由につかってよいという「三世一身法」がさだめられましたが、あまり効果がありませんでした。



*公地公民制…土地は国家のものとし、人びとも国家が支配する制度。

この新しい法律は「墾田永年私財法」とよばれ、七四三年に実施されました。

*盧舎那仏…宇宙全体を太陽のようにてらす仏。

大仏をつくる技術者はおりますか。
はい。*渡来人の孫ですぐれた男が。
*渡来人…中国や、朝鮮半島の国ぐにからやって来た人びと。
み仏の道のためなら、あらゆる努力をおしみますまい。
行基
国中公麻呂
おまかせください。大仏づくりには死にものぐるいでとり組みまする。
二人ともたのみましたぞ。
こうして、紫香楽宮で、いよいよ大仏づくりがはじめられました。
まず、この小山をくずすのです。
さあ、土をはこぶのですぞ！

ところが、大仏づくりをはじめてすぐに、今度は*難波へ都をうつすことになりました。

ええっ、また都をかえるのか。

大仏づくりは、どうなるのだ。

天皇をはじめ、おもだった役人たちは、難波へうつりました。

けれども、しばらくして、天皇は、紫香楽宮へもどってしまいました。

みかどは、何をお考えになっているのか…。

これでは、政治が混乱するばかりではないか。

ゴウウ…

その後、紫香楽宮の付近では、たびたび火事がおこりました。

キャー

キャー!

こんなにひんぱんと山火事がおきるのは、へんだぞ。

朝廷のやり方に反対する者の放火だといううわさだぞ。

*難波…大阪府大阪市

そして七四五年には、ふたたび平城京が都とさだめられました。

お役人たちは、みんな平城京へ帰ることをのぞまれたそうだ。

それで、みかどもご決心をなされたのね。

あちこちと、都をおうつしになったが、五年ぶりに帰って来られたわけじゃ。

けっきょく、紫香楽宮での大仏づくりは中止か…。たいへんな人手と費用をかけたのに、もったいないことだわい。

さて、大仏づくりは、平城京の東のはずれ、東大寺で再開されました。

エーンヤコーラ！

さあ、もう少しだぞ！

何だろう、何だろう。

とても大きな仏さまをつくるんだって！

すごいなあ。

ねえ、お坊さん、そんなに大きな仏さま、どうやってつくるの？

うむ、うむ。それはね、あそこの公麻呂さんに聞いてごらん。

ん？

よしよし、では、わしが説明してあげよう。

まず、地面をしっかりかためて、大仏さまがおすわりになる土台をきずく。

その丸太、早く前におけ！

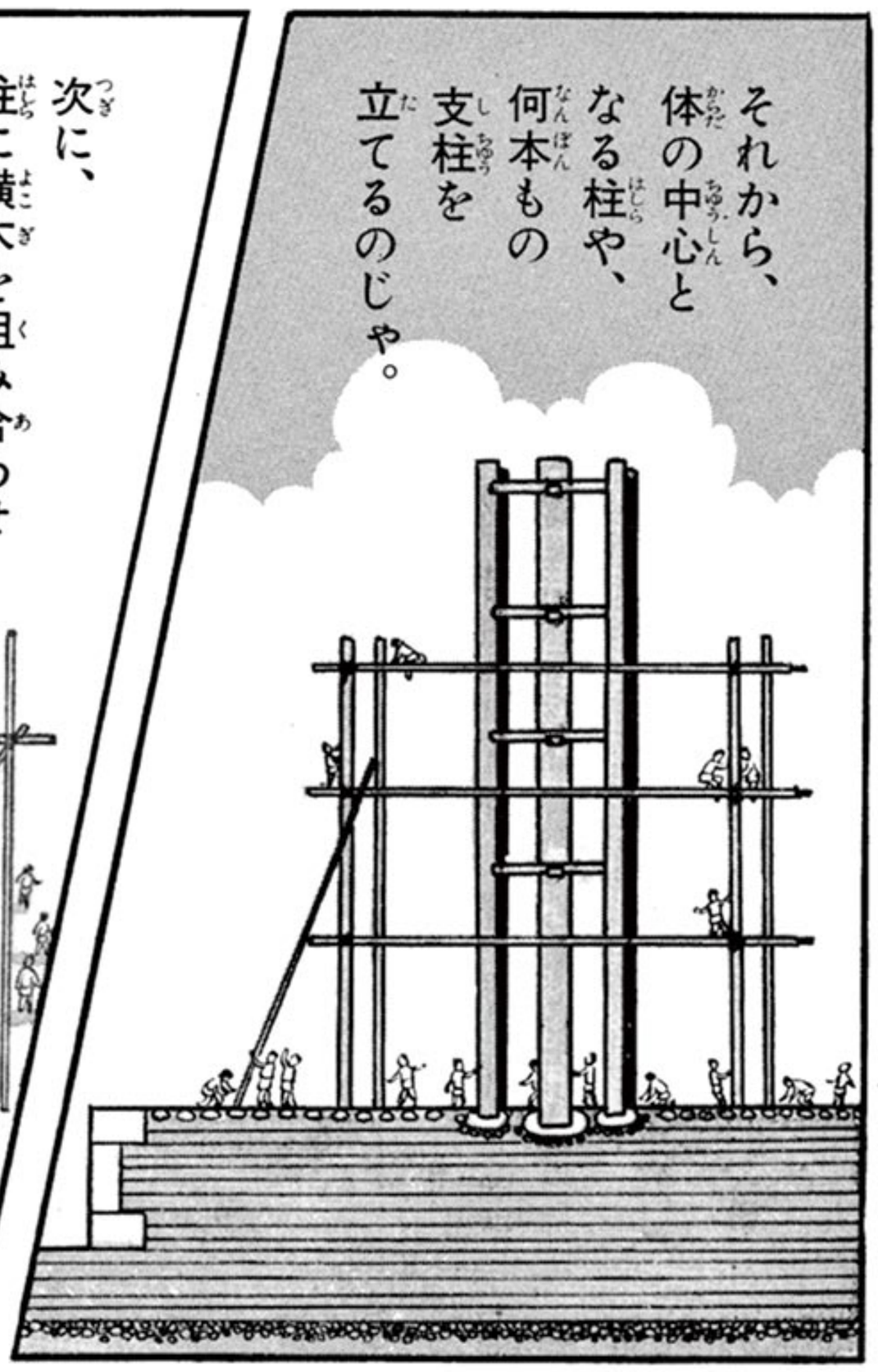
ヤーッ ヤーッ

ヤーッ ヤーッ

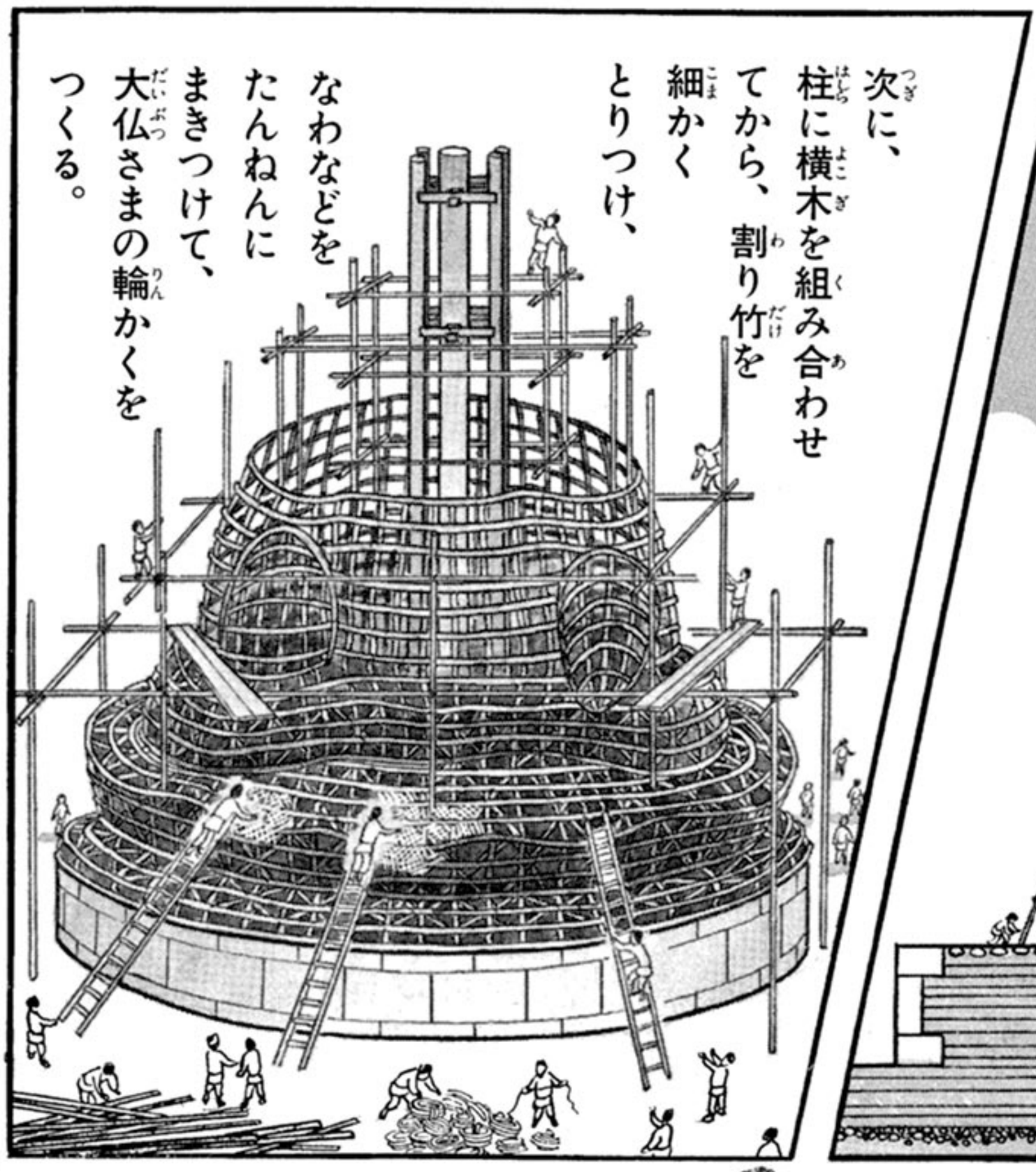
イテテテ…

フーッ

それから、体の中心となる柱や、何本もの支柱を立てるのじゃ。

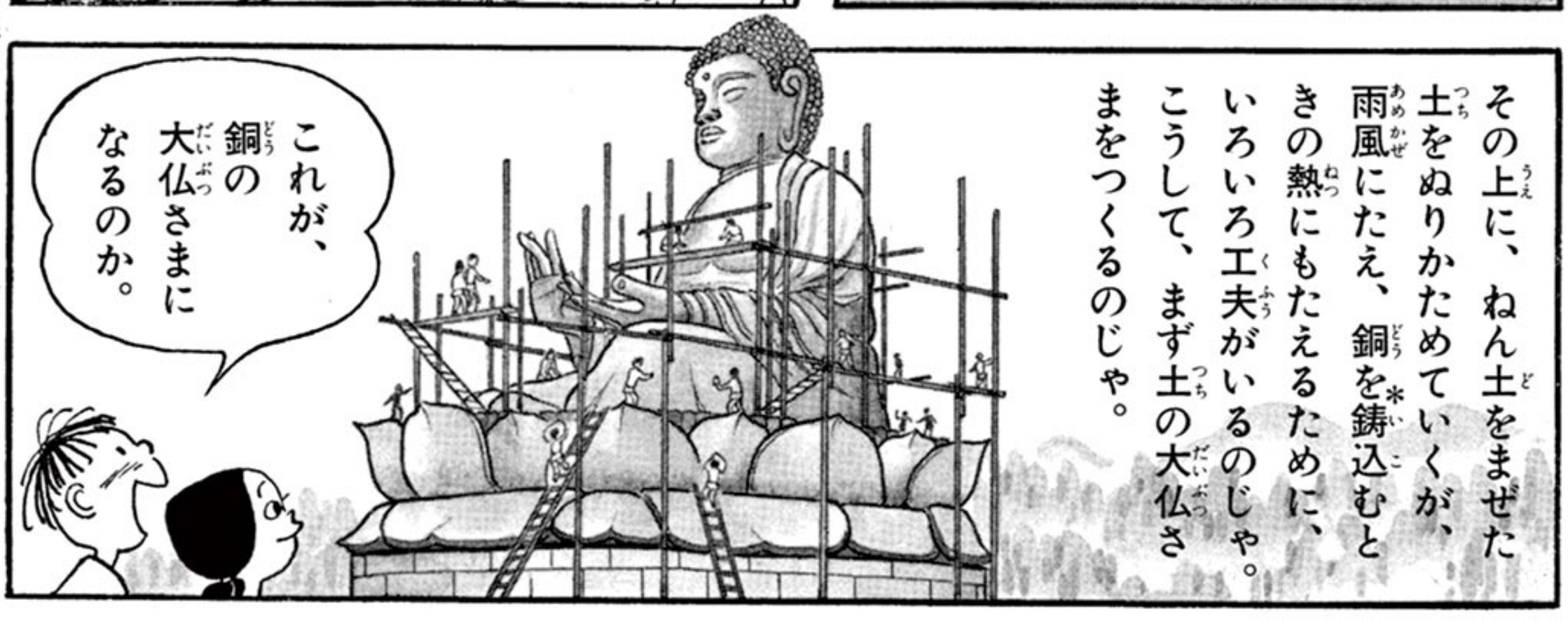


次に、柱に横木を組み合わせてから、割り竹を細かくとりつけ、なわなどをたんねんにまきつけて、大仏さまの輪かくをつくる。



その上に、ねん土をまぜた土をぬりかためていくが、雨風にたえ、銅を*鋳込むときの熱にもたえるために、いろいろ工夫がいるのじゃ。こうして、まず土の大仏さまをつくるのじゃ。

これが、銅の大仏さまになるのか。



*鋳込む…金属をとかして、型にながしこむこと。

できあがった土の大仏さまの上から、外型づくりや鋳込み作業を行うが、大仏さまが大きいので、いっぺんにはできない。そこで、下から順に、八段階に分けて行うわけだが、五段目まで鋳込みをおわって、六段目をつくるときで説明しよう。

まず、固くなった土の大仏さまの上に土をぬって*鋳型をつくる。これを外型というが、たたみ一枚くらいの大きさにつくるのじゃ。

土の大仏
外型

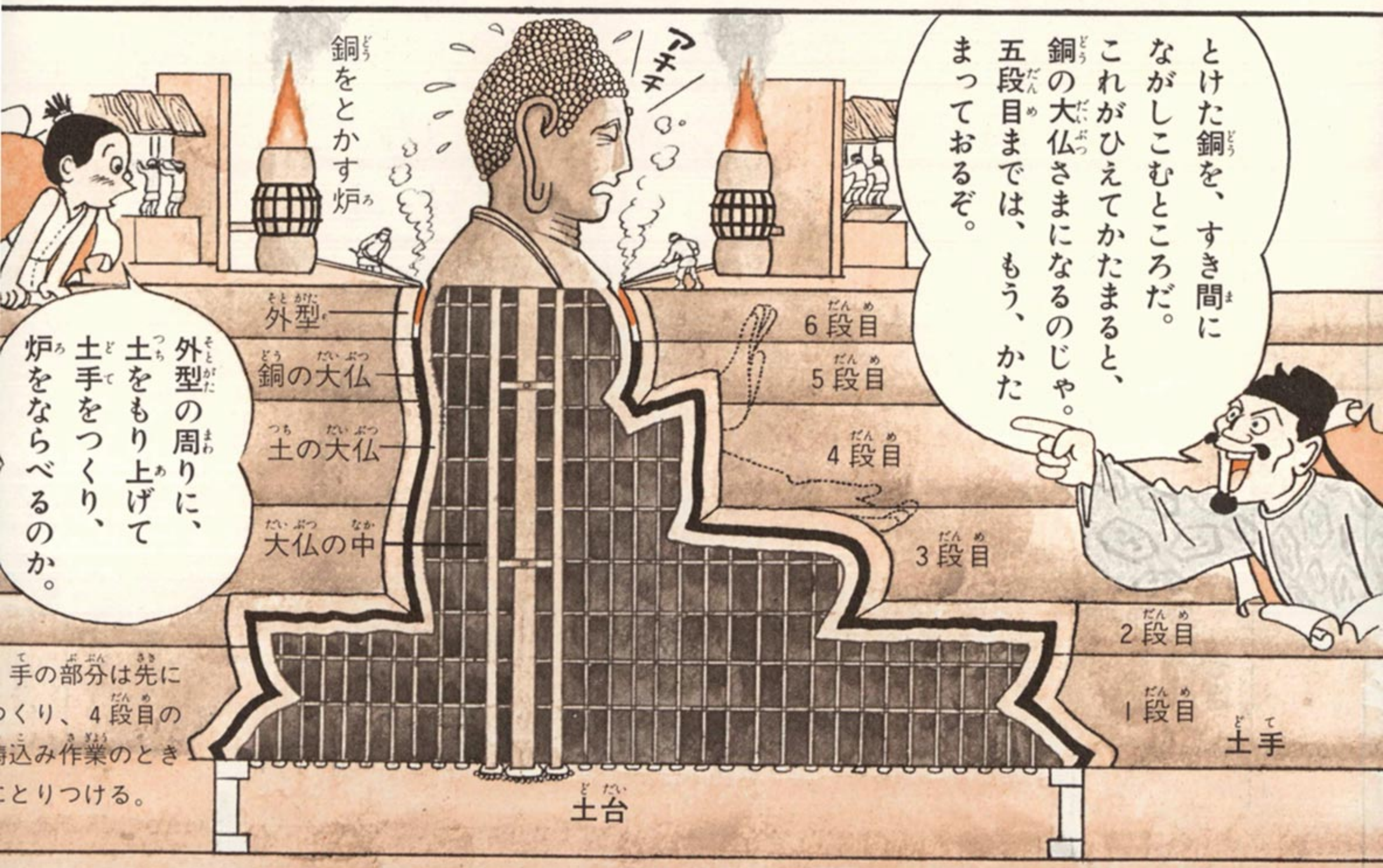
*鋳型…とかした金属をながしこむ型。

かんそうした外型を一枚ずつはがしてから、土の大仏さまの表面を少しけずる。

熱をくわえて固くする

そうしてから、外型を元の位置にもどすと、けずった分だけ、土の大仏さまとの間にすき間ができるだろう。

そこに、熱くとかした銅をながしこむのだ。これは危険な作業じゃ。



手の部分は先につくり、4段目の鋳込み作業のときにとりつける。

つまり、一段ごとに土手をもり上げていくので、八段目になると……ほら。

くるしい…。

あれれ、大仏さまが山の中にかくれちゃった。

この小山と外型をくずすと、はじめてお姿をあらわされるのじゃ。

やったあっ、完成だあっ！

まだまだじゃよ。とちゅうでひびが入った所や、銅がながれこまなかった所を修理しなければならんし、*らほつもとりつけにゃならん。

*らほつ…仏のかみの毛。ちぢれて巻き毛のようになったもの。

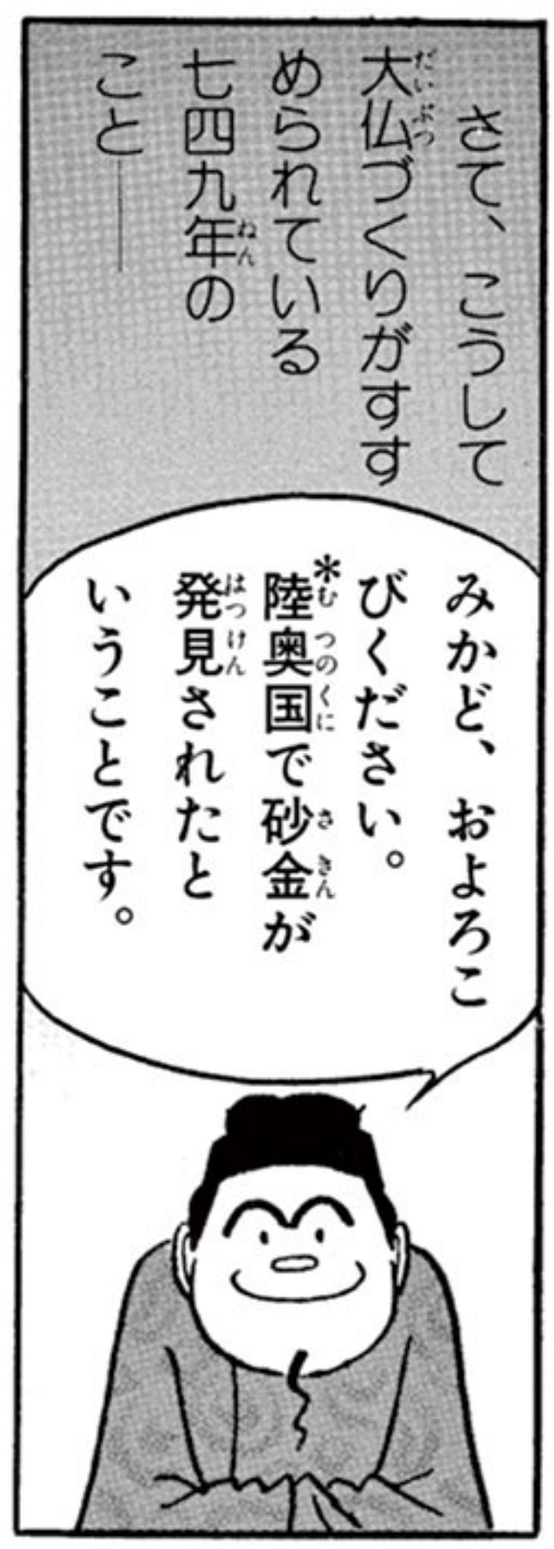
別につくっておいたかみの毛を、ああして、九百六十六個も頭にとりつけるんじゃよ。

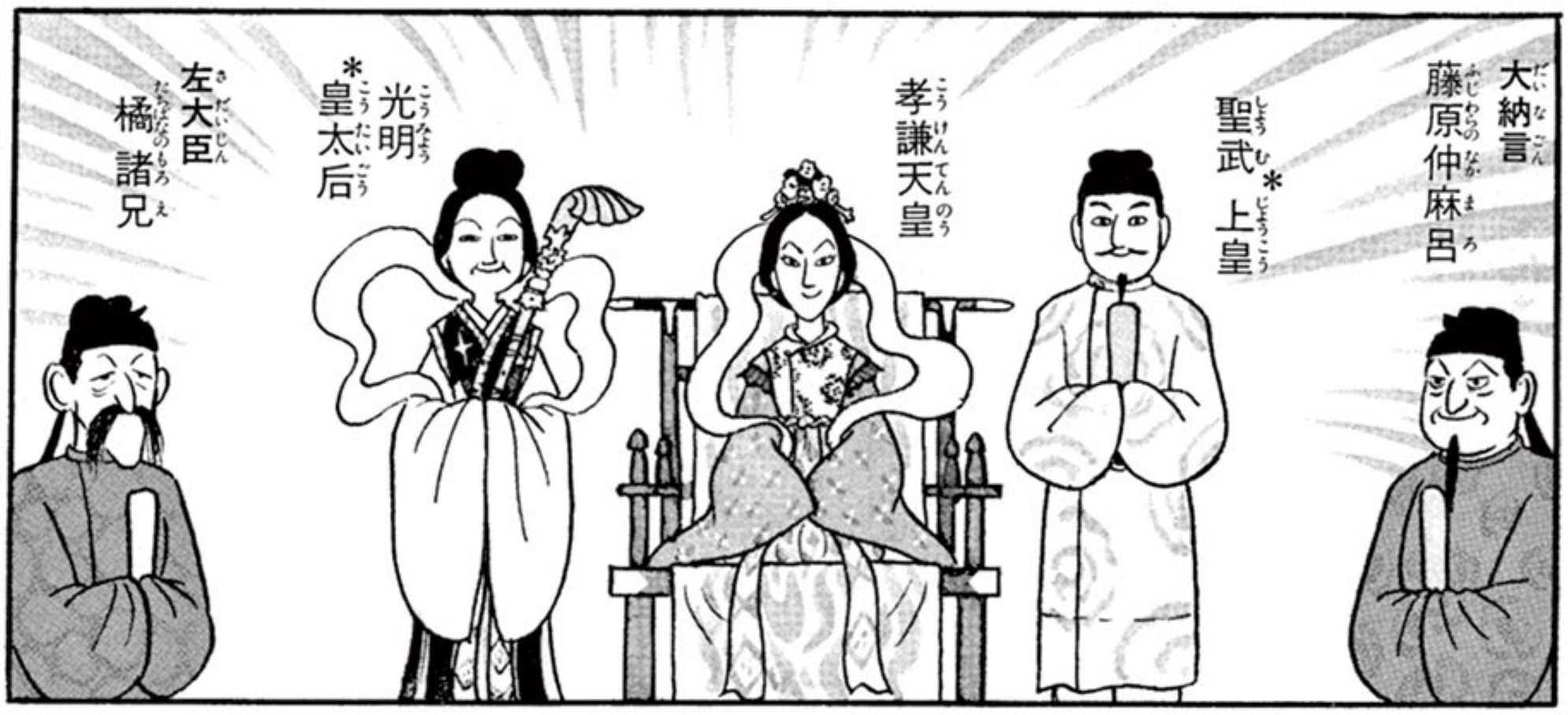
大仏さまのお住まいもいるわね。

最後に、だいじなおけしょうじゃ。大仏さまの体に金をぬってさしあげるのだ。

そうすると、大仏さまができ上がるまでに、どのくらいかかるの？

五年、十年、いや、もっとかのう……。



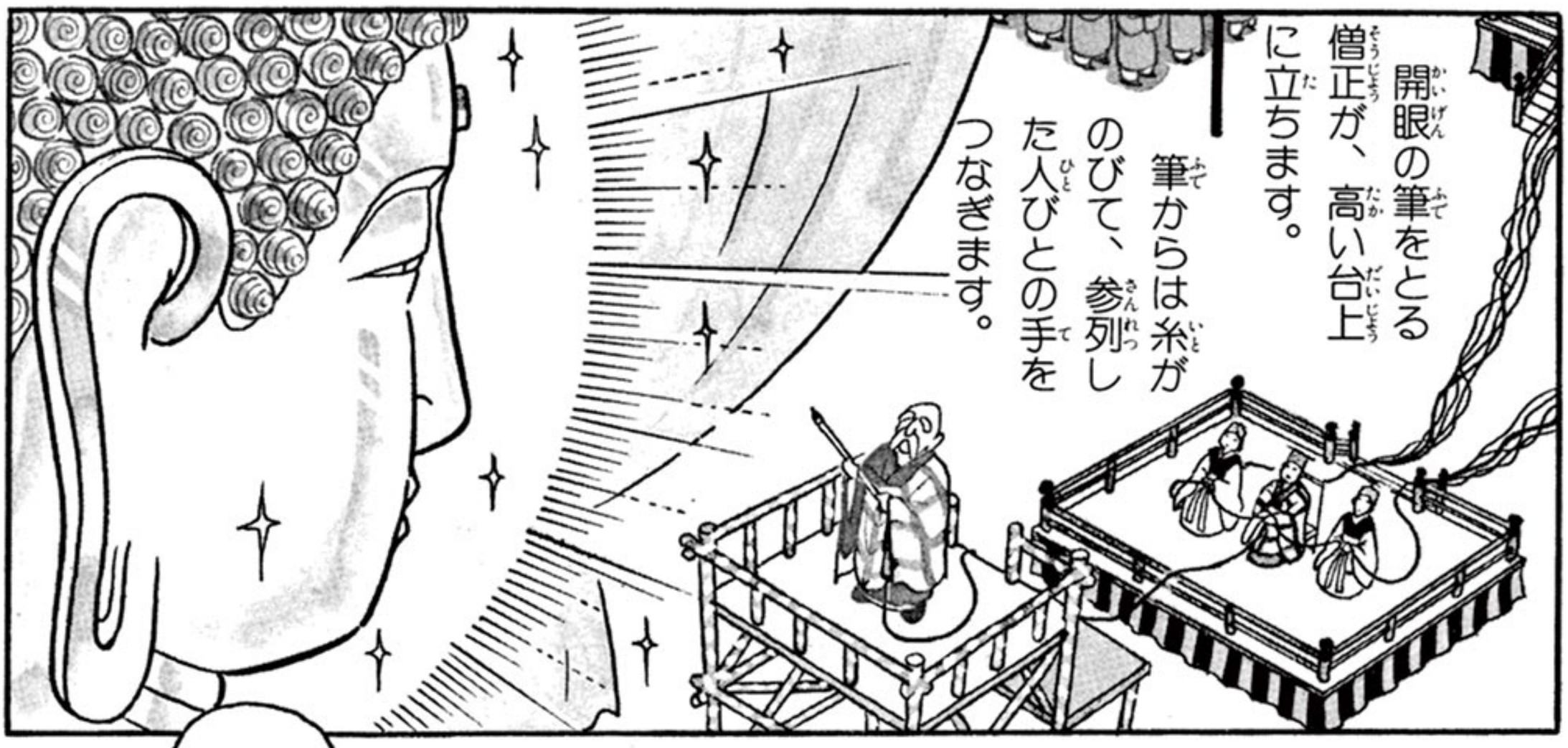


聖武天皇の皇女、安倍内親王が皇位につきました。孝謙天皇です。

*陸奥国…当時は青森、岩手、宮城、福島県を総称した。*上皇…位をしりぞいた天皇。*皇太后…天皇の生みの母で、前の天皇の皇后。

また、このとき、光明皇太后のために、紫微中台という役所がもうけられました。

*開眼供養会…仏像をつくるとき、最後に目を入れて、仏のたましいをむかえる儀式。



*行基…七四九年、大仏の完成前になくなった。

こうして、聖武天皇のいのりをこめた、国をまもるための巨大な大仏が完成しました。

しかし、その裏で、人びとは、たびかさなる災害や伝染病になやまされ、また、都づくり、大仏づくり、重い税の負担にくるしんでいました。土地をすててにげ出す者が多くなるのもこのころです。

一方、貴族たちは、権力をもとめて、たえず争っていました。

はなやかに見える*天平の世も、けっして平和ではなかったのです。

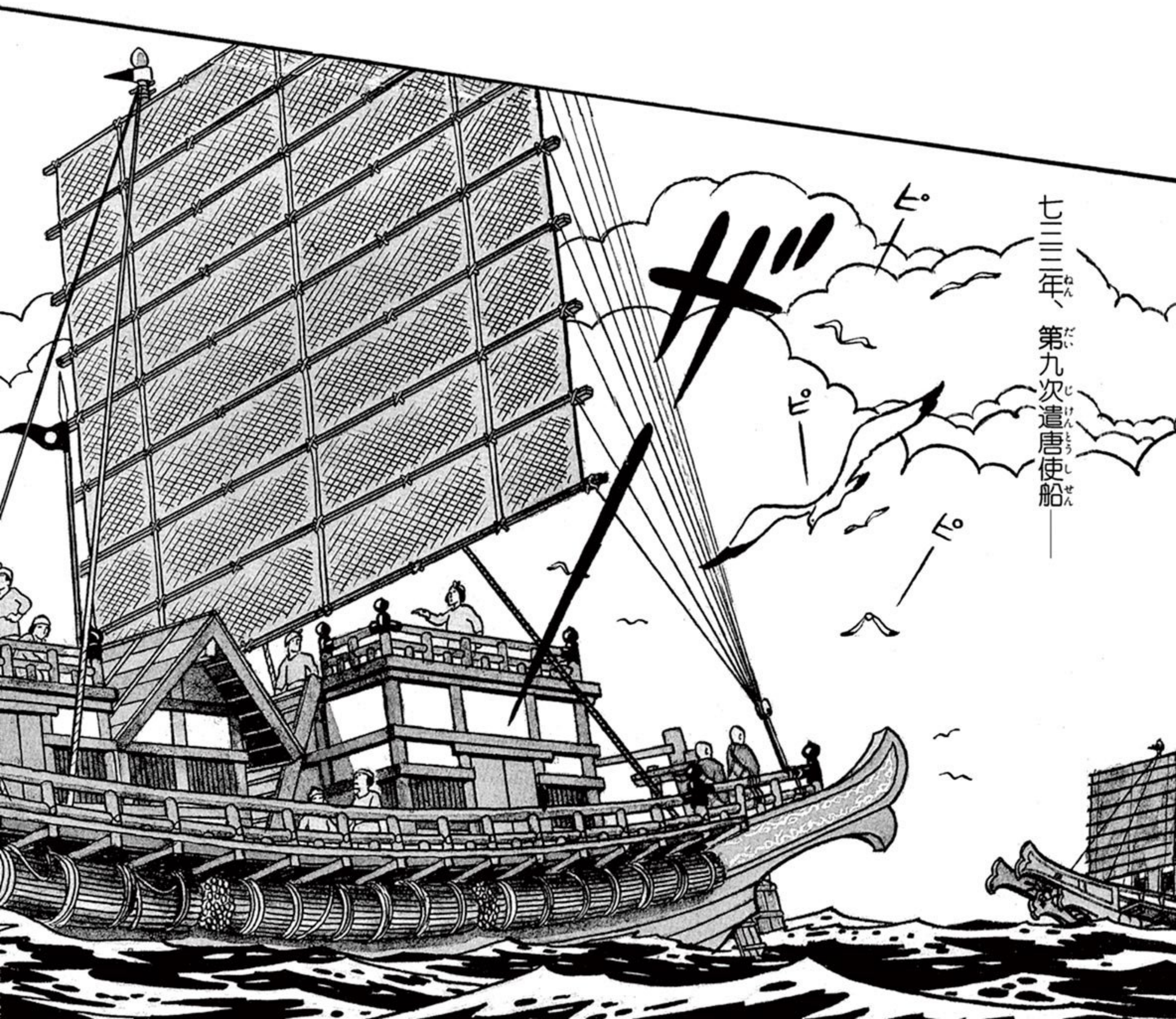
*天平の世…奈良時代の天平年間（七二九年～七四八年）を中心とする時代。唐文化のえいきょうをうけて国際文化がさかえた。

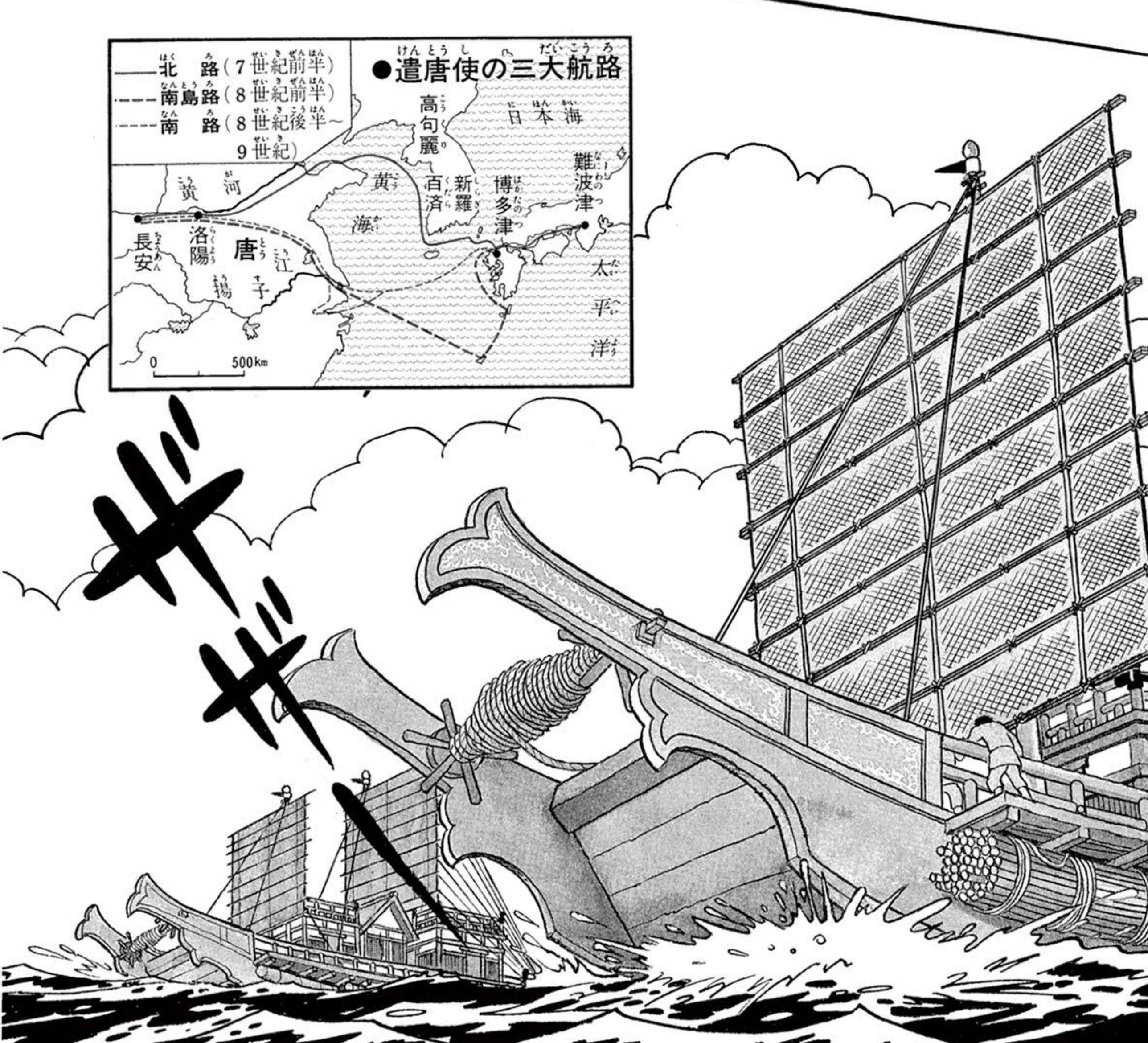
小学館 eBooks

第三章

遣唐使と鑑真

――奈良時代――


七三三年、第九次遣唐使船——
ピー
ピー
ピー


●遣唐使の三大航路
北路（7世紀前半）
南島路（8世紀前半）
南路（8世紀後半～9世紀）
黄河
長安
洛陽
唐
揚子江
黄海
高句麗
百済
新羅
日本海
博多津
難波津
太平洋
0
500km

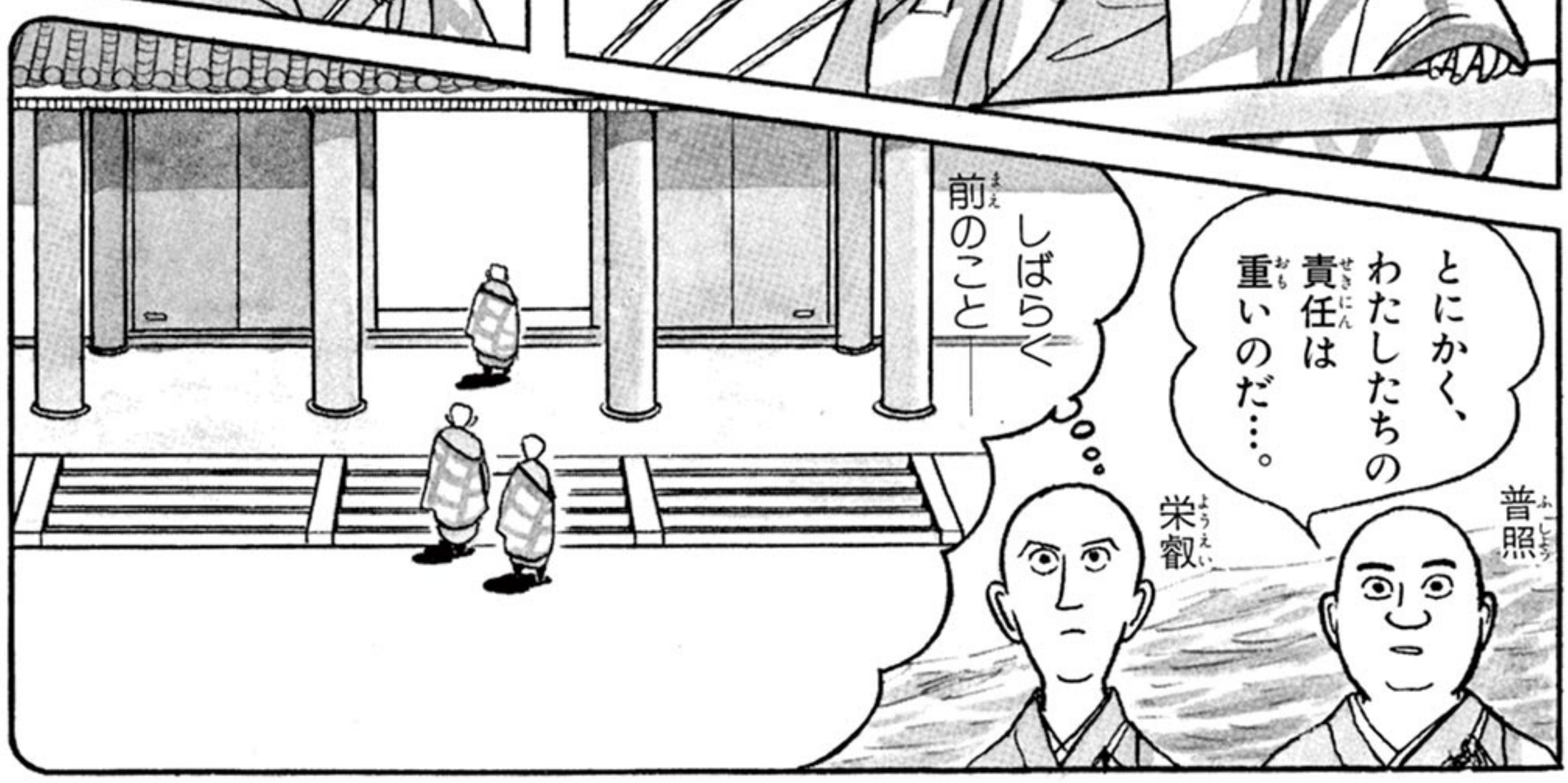
だんだん、日本が遠くなっていくなあ。

心細いなあ。なんとか無事に唐へつきたいものだが…。

日本に来てくれる高僧が見つかるだろうか…。

何年かかろうと、さがし出す。それが、わたしたちの使命だからな。

うむ、その間もっと深く勉強しよう。

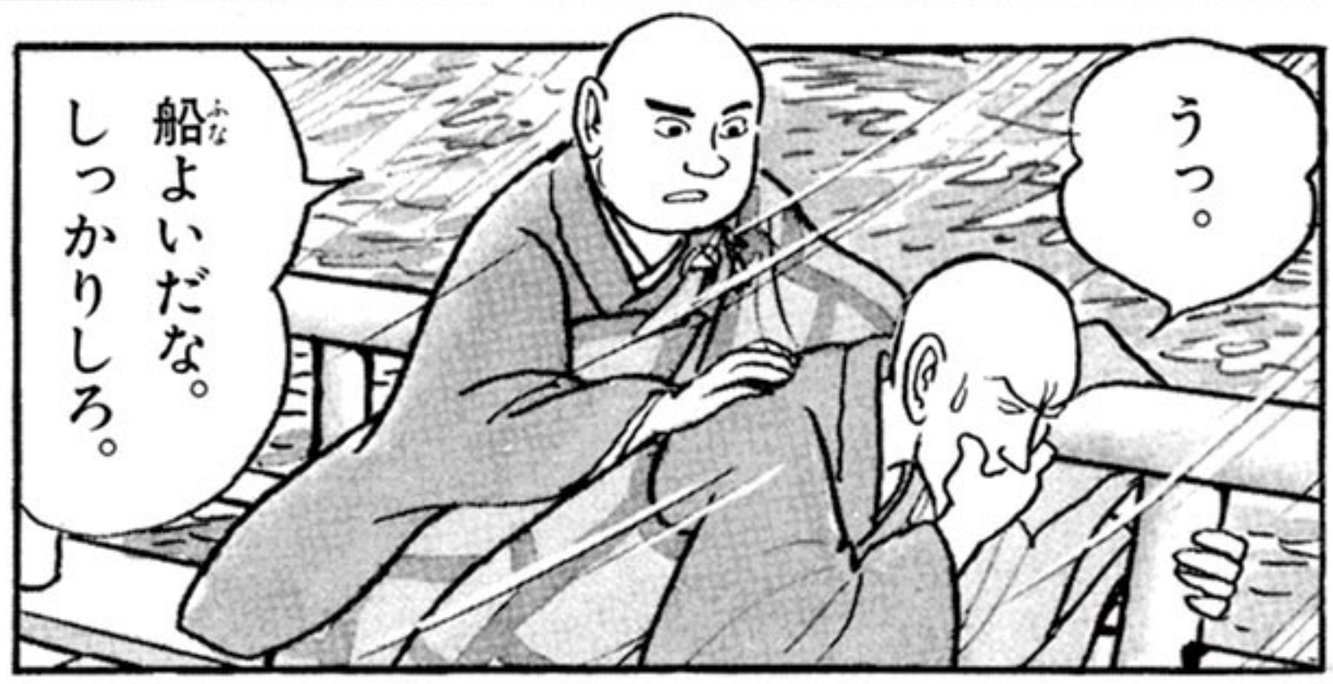


正式に僧になるためには、戒律（きまり）をまもるちかいを立てなくてはなりません。戒律をさずける資格をもつ高僧を「*授戒師」といい、戒律をうけることを「受戒」といいます。

*授戒師…正式な受戒には、十人の授戒師が必要。

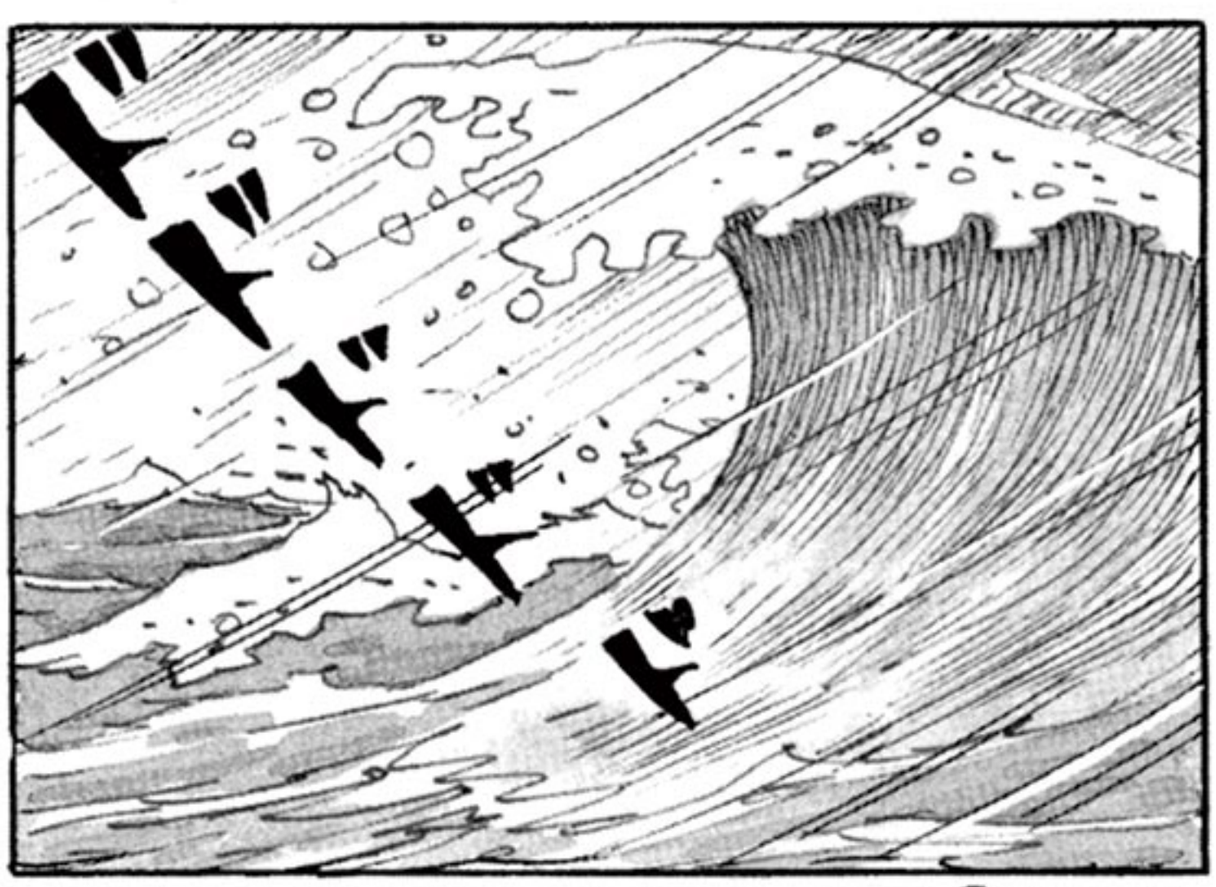
……と
いうわけだ。
がんばら
なくては。

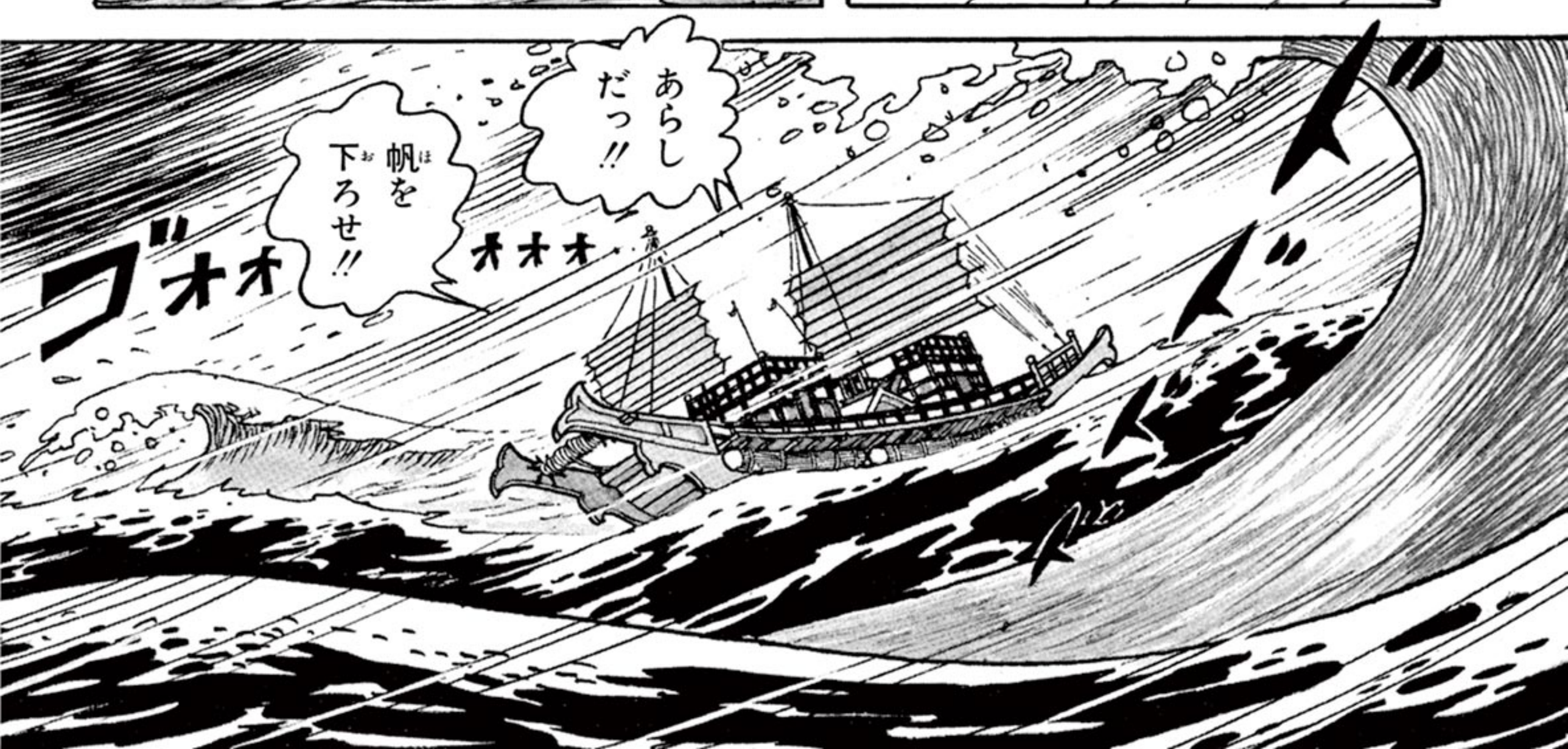
おっ、
空もようが
あやしく
なってきた。
海も、
あれて
きたぞ。
ザ
ザ
ザ
ザ


うっ。
船よいだな。
しっかりしろ。

うう…。

ボーン
ボーン


ドドドドド

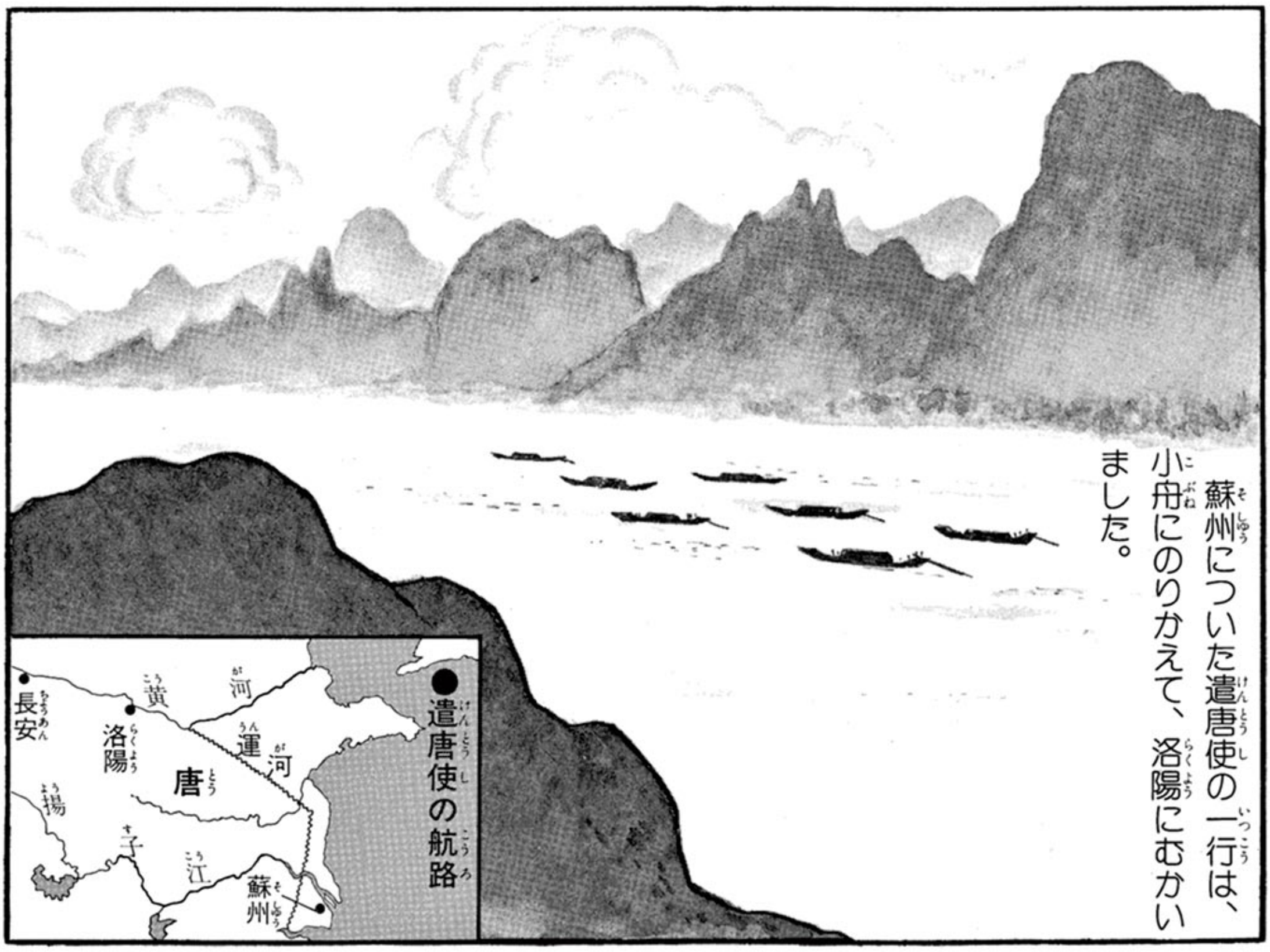

あらし
だっ!!
オオオ
帆を
下ろせ!!
ゴオオ
ド
ド
ド

あらしは、おさまりましたが――

もう、三か月も海の上だ。
食料や水もつきてしまったそうだ。

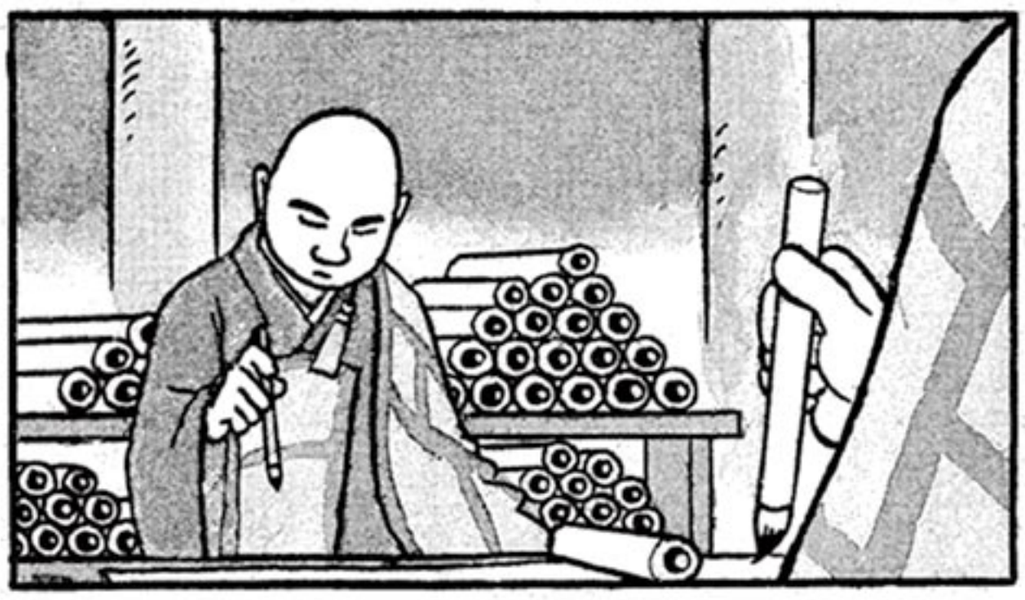
おういい!! 陸が見えたぞうっ!!
ほんとか!
えっ!

やった! とうとう唐についたぞ。
よかった、よかった!
ワーイ
バンザーイ


蘇州についた遣唐使の一行は、小舟にのりかえて、洛陽にむかいました。
遣唐使の航路
長安
黄河
洛陽
運河
唐
揚子江
蘇州

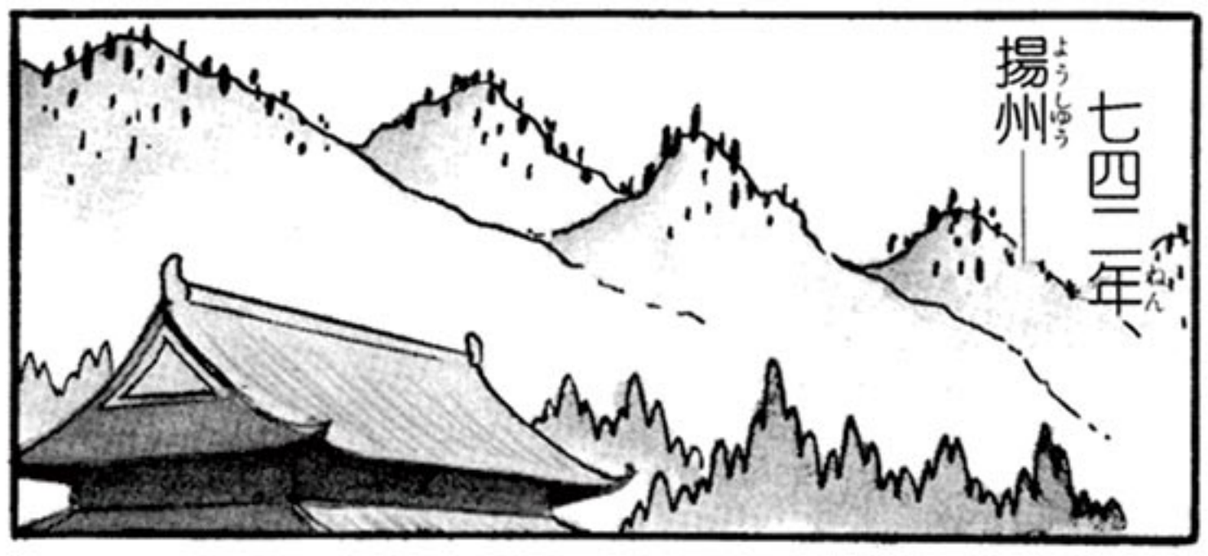
洛陽は、長安の都とともに唐の大都市です。遣唐使の一行は、歓げいされ、大使たちは皇帝に会うことができました。

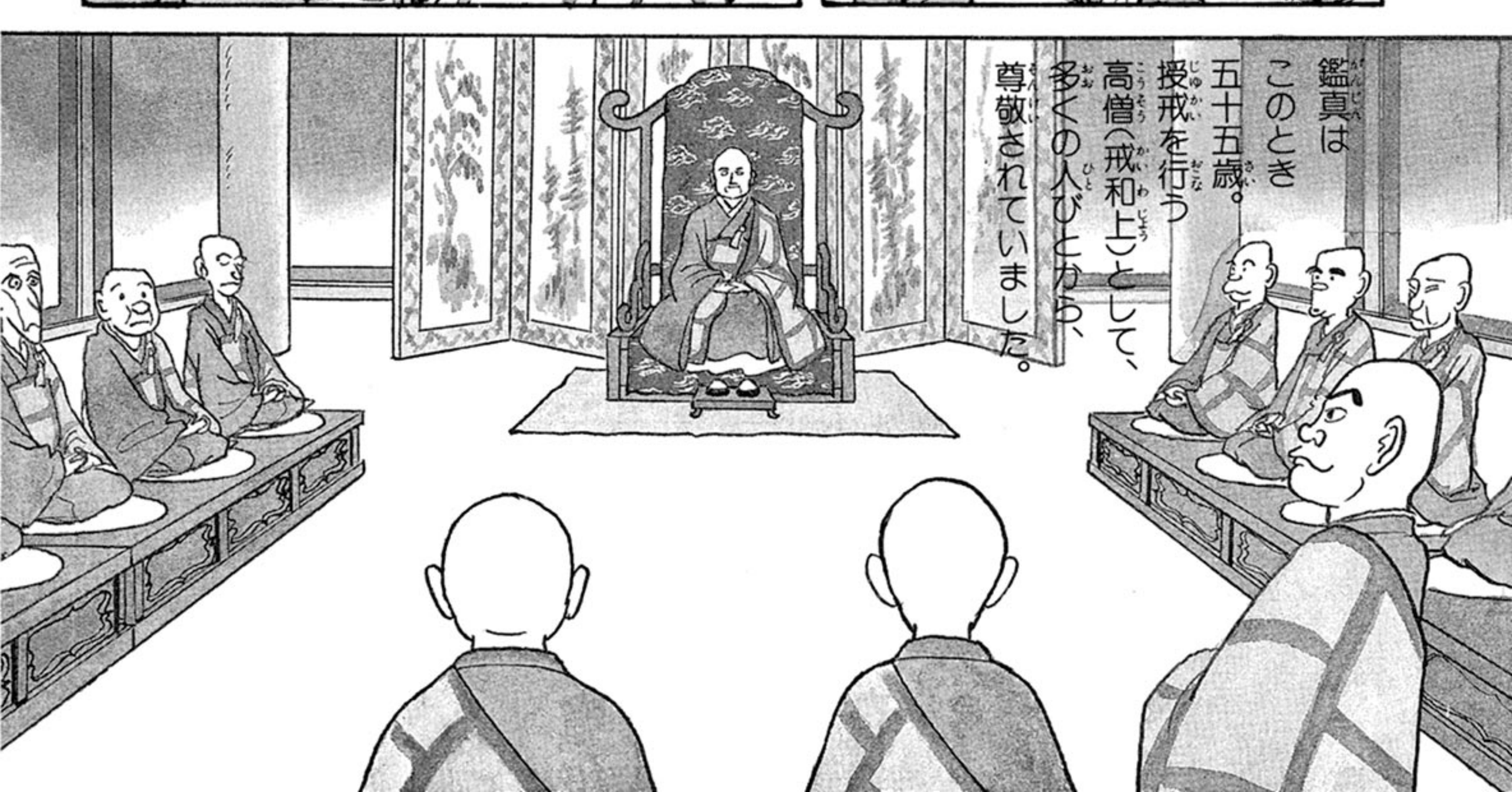
さて、栄叡、普照の二人は、洛陽の寺で留学生活をおくりながら、授戒師をさがすことになりました。



*玄宗皇帝…七一二年から七五六年まで在位した唐の皇帝。

*和上…僧を尊敬していうときに用いる。

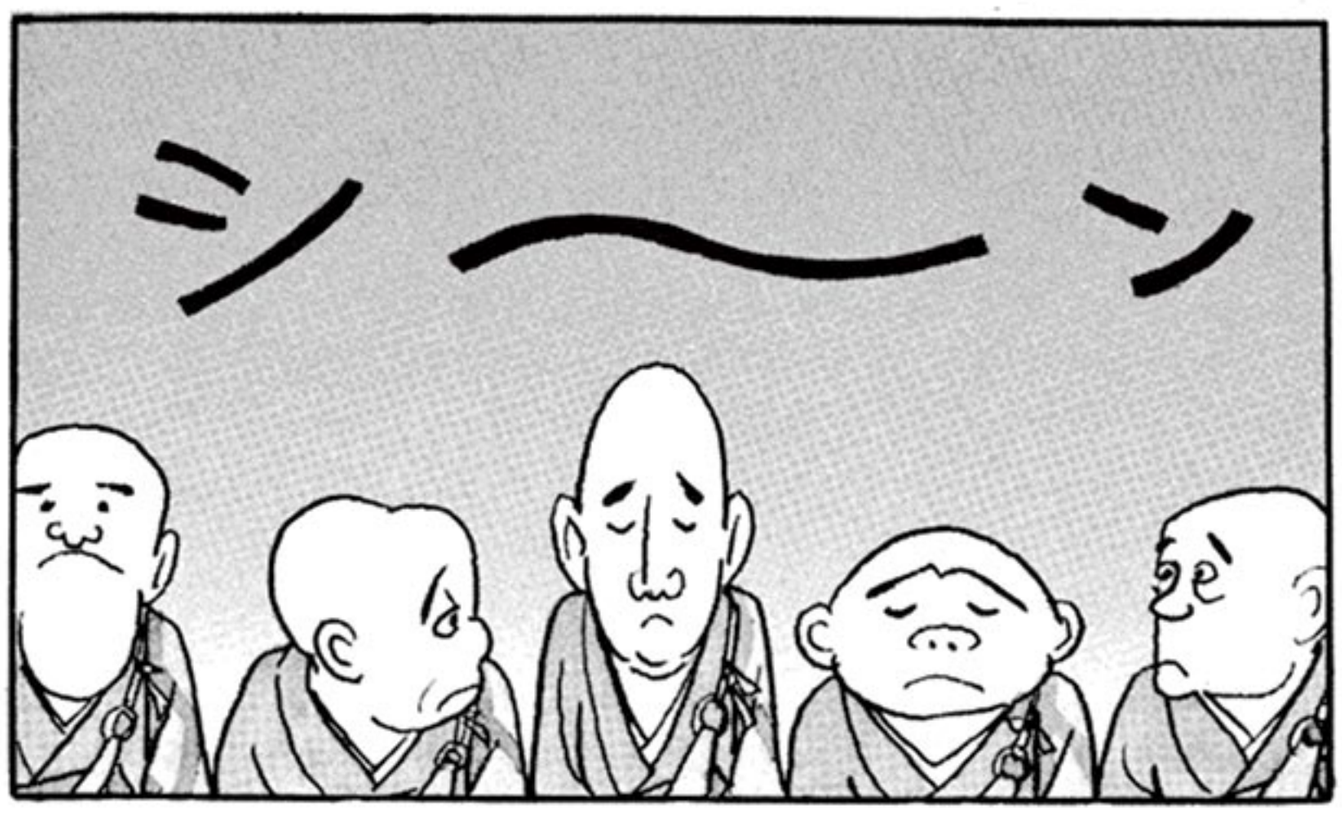




……というわけで、ぜひとも、
和上のお力を、おかりしたいのです。

わかりました。
鑑真

おまえたちのなかで、だれか日本へわたってくれる者はおらぬか？


シ〜〜ン

和上、日本への船旅は危険です。
百人のうち一人が、行きつけるかどうか、わかりません。
祥彦

……。
だれか！おらぬのか！

シ〜〜ン

これは、*仏法のためである！どうして、命などおしかろう。

*仏法…仏の教え。仏教。

みなが行かぬのなら…。よし、わたしがおもむこう。

ええーっ!!

和上が行かれるのでしたら、わたくしもまいります。

わたくしもおともいたします。

わたくしもぜひ!

おともいたします。

あ、ありがとうございます!!

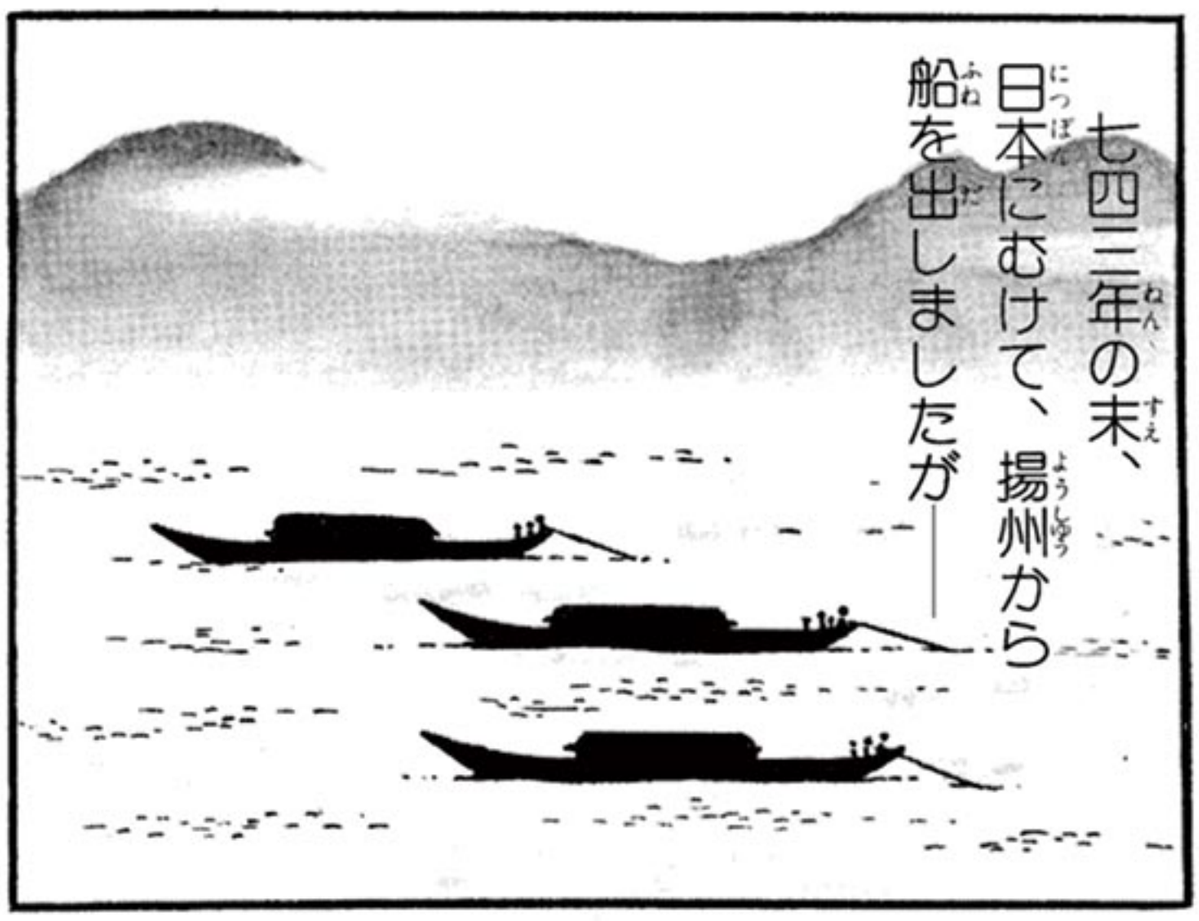
わが国では、許可なしに外国へ行くことは、ゆるされておらぬ。

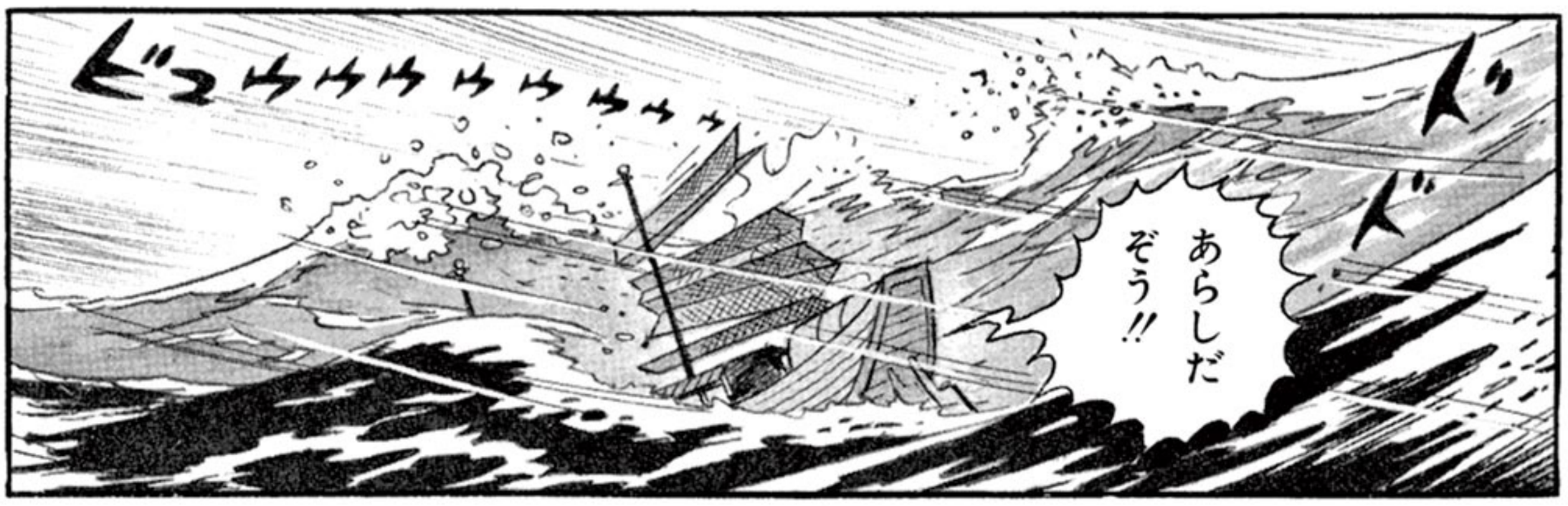
役人たちに気づかれぬよう、船の準備もしてあります。

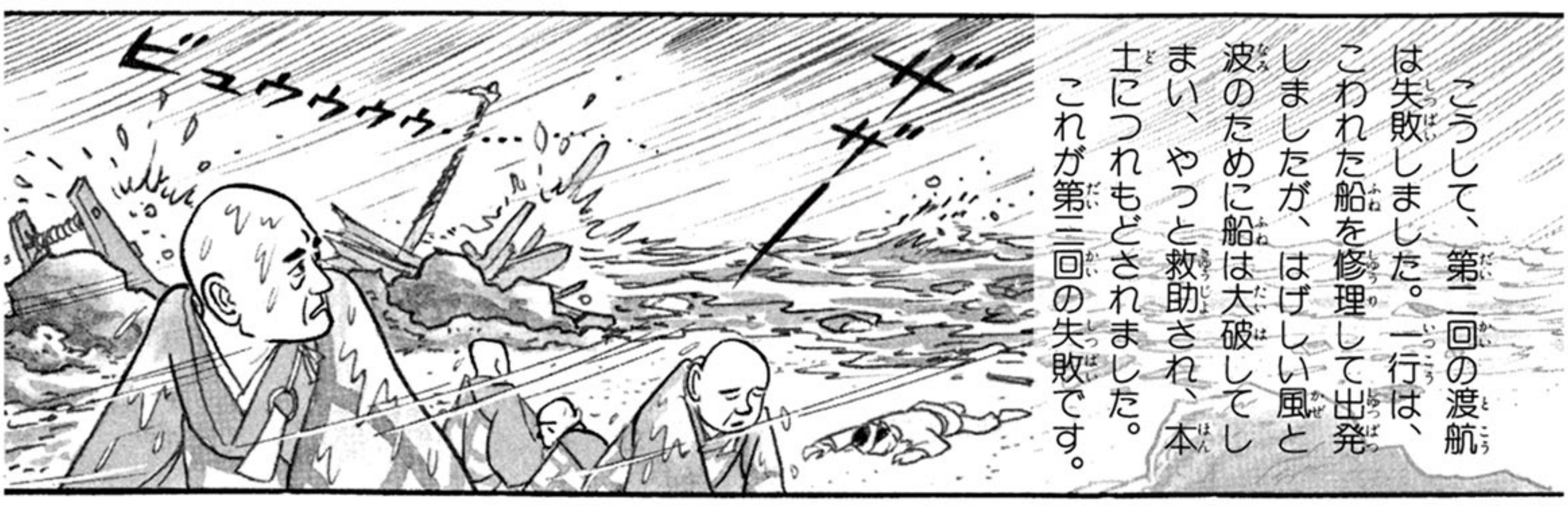
しかし、渡航は困難の連続でした。七四三年、第一回の計画は、栄叡や普照を海ぞくの仲間だと密告する者があり、失敗におわりました。

まもなく、無実とわかり、栄叡と普照は釈放されました。

船は、役所にぼっ収されてしまいました。
では、すぐに次の船を用意するのだ。


七四三年の末、日本にむけて、揚州から船を出しましたが——


ドッ
ドッ
ビュウウウウウウウウウ
あらしだぞう!!


こうして、第二回の渡航は失敗しました。一行は、こわれた船を修理して出発しましたが、はげしい風と波のために船は大破してしまい、やっと救助され、本土につれもどされました。これが第二回の失敗です。
ビュウウウウ
ザッ
ザッ

翌七四四年、密告によって、また、栄叡がつかまったのですが、なんとか釈放されました。
おお、無事であったか……。
はい、役人のお情けで、帰してもらいました。
ヨロ ヨロ

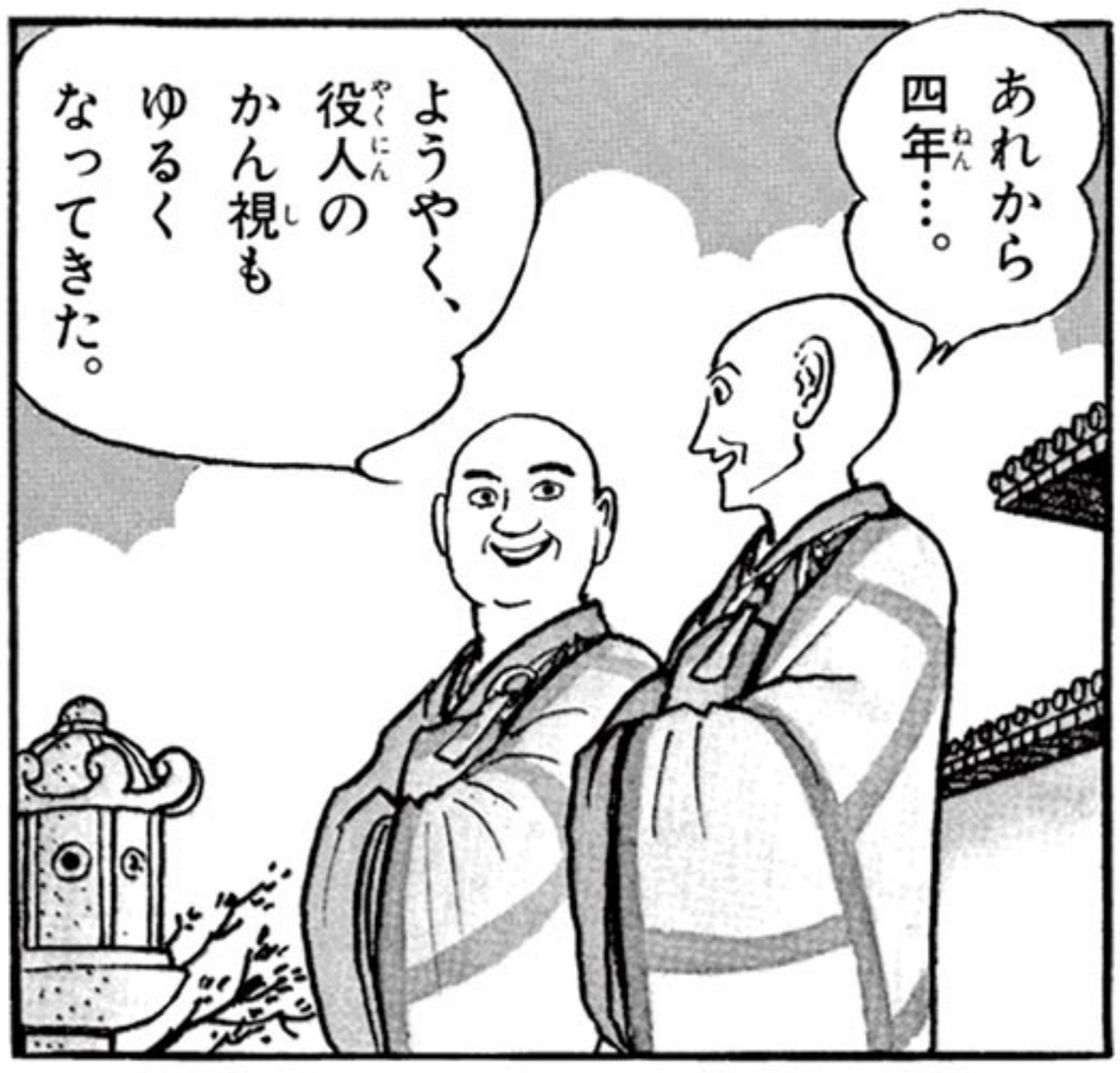
●第2回・第4回の渡航計画
黄河
黄海
長安
洛陽
揚州
蘇州
揚子江
明州
天台山
阿育王寺
禅林寺
東中国海
福州
台湾
第2回行路
第4回行路
もはや、明州からの出航はまずいな。
福州へ行き、船を買うことにしよう。
ところが、そのとちゅう禅林寺で——
これは、何事です!?
祥彦
思託
和上、このまま、揚州におもどりください。
わたしたちを、通していただきたい。
和上、お弟子にたのまれて、お引き止めしているのですぞ!

弟子？だれのことです。
揚州の霊祐さんです。

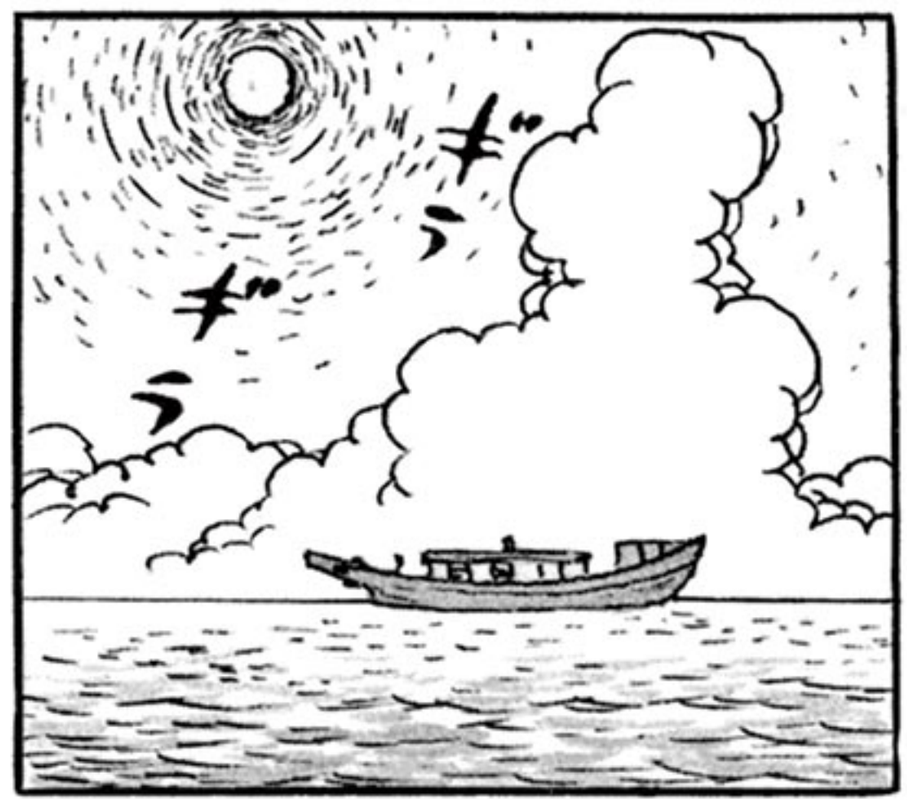
……。霊祐が密告を。

第四回の渡航計画の失敗です。
鑑真たちは、揚州の寺にとじこめられました。
和上、おゆるしください！和上に危険な旅をしていただきたくなかったのです。
霊祐
そなた、わたしの志をわかっておらぬ…。わたしは、み仏の教えを広めることを思っているだけだ。

七四八年

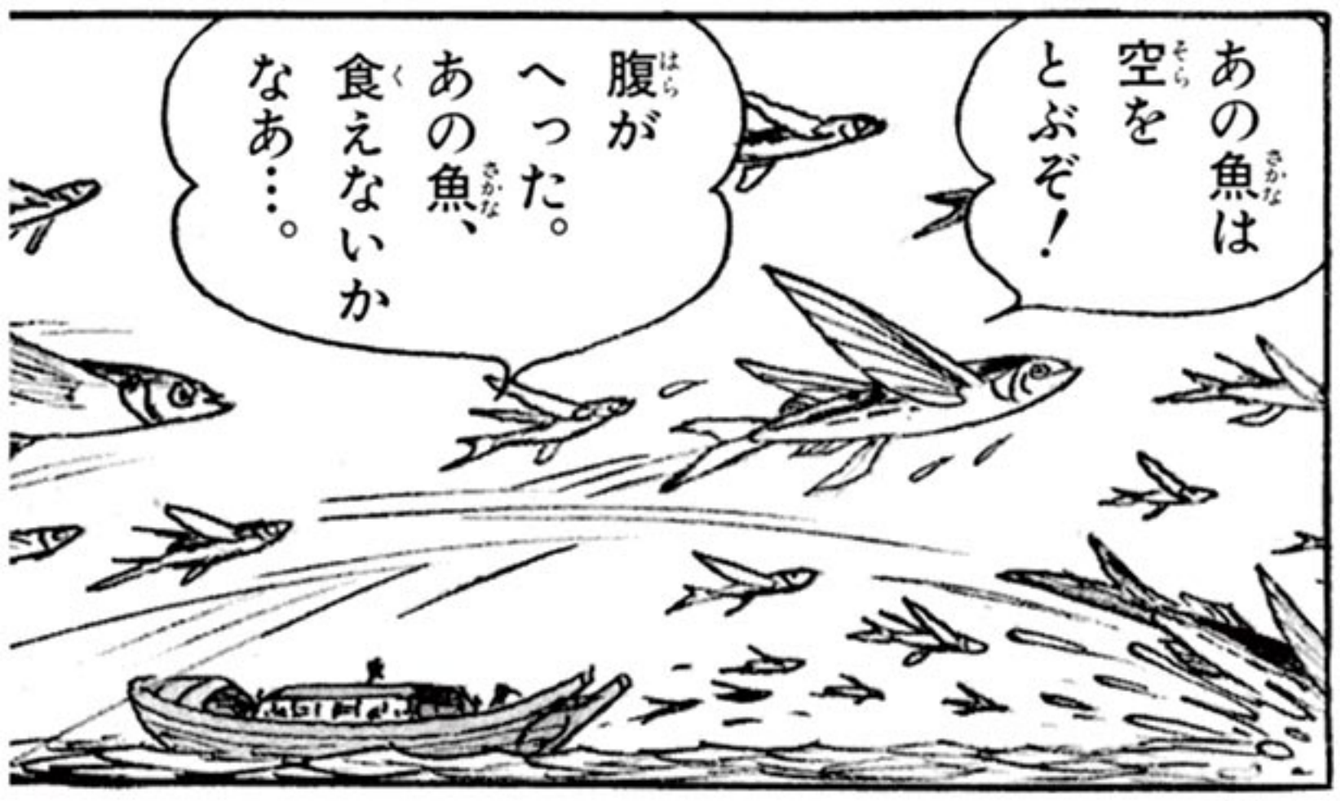

あれから四年…。
ようやく、役人のかん視もゆるくなってきた。

第五回、揚州からの渡航です。
ということで、和上…。
わかった。すぐに、出発の準備にかかろう。
ガガガ
ゴロゴロ
ゴロゴロ
ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ
ドドドド
船がしずんでしまう！
ガガガ
ガガガ
ガガガ
ガガガ
ガガガ
ガガガ
荷を、軽くしろ！
キャー
ビュー
み仏に、おいのりするのじゃ!!

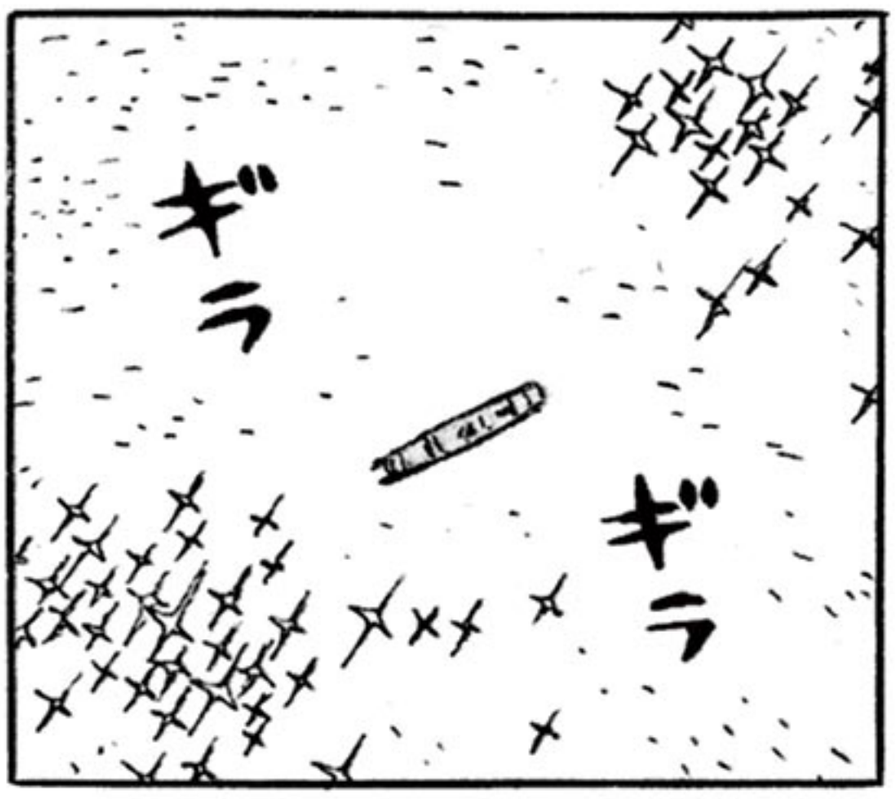

ガラ
ガラ

だんだん南へ、ながされて行くぞ。
海の色が、黒くなるぞ。

見ろ！ヘビだぜ。
ひえっ、おそろしい。


あの魚は空をとぶぞ！
腹がへった。あの魚、食えないかなあ…。

なんだ、この化け物鳥は！
こいつは食えるだろう。
トトトト


ギラ
ギラ

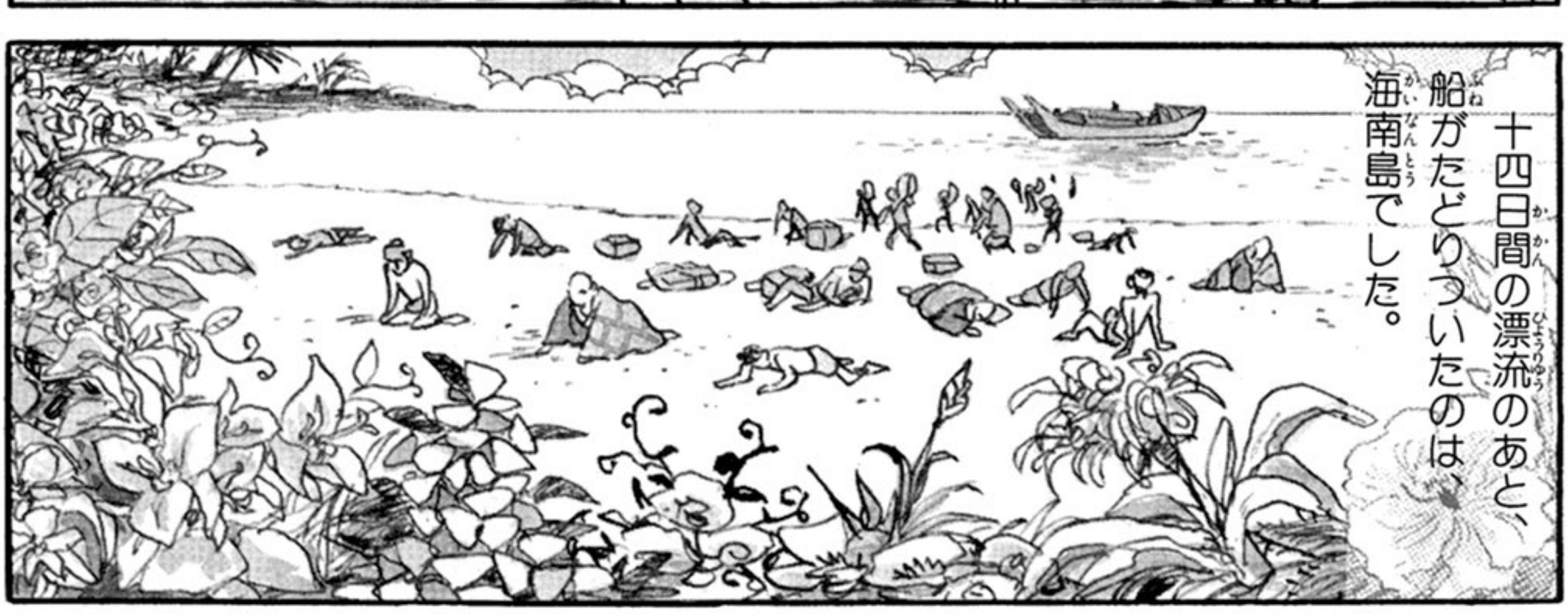
腹ぺこでしにそうだ。
み、水がほしい……。
く、苦しい…。
みな、しっかりするのだ。空を見るがいい。

おっ、くもってきたぞ。
ポタ
あっ、雨だ！
ポタ

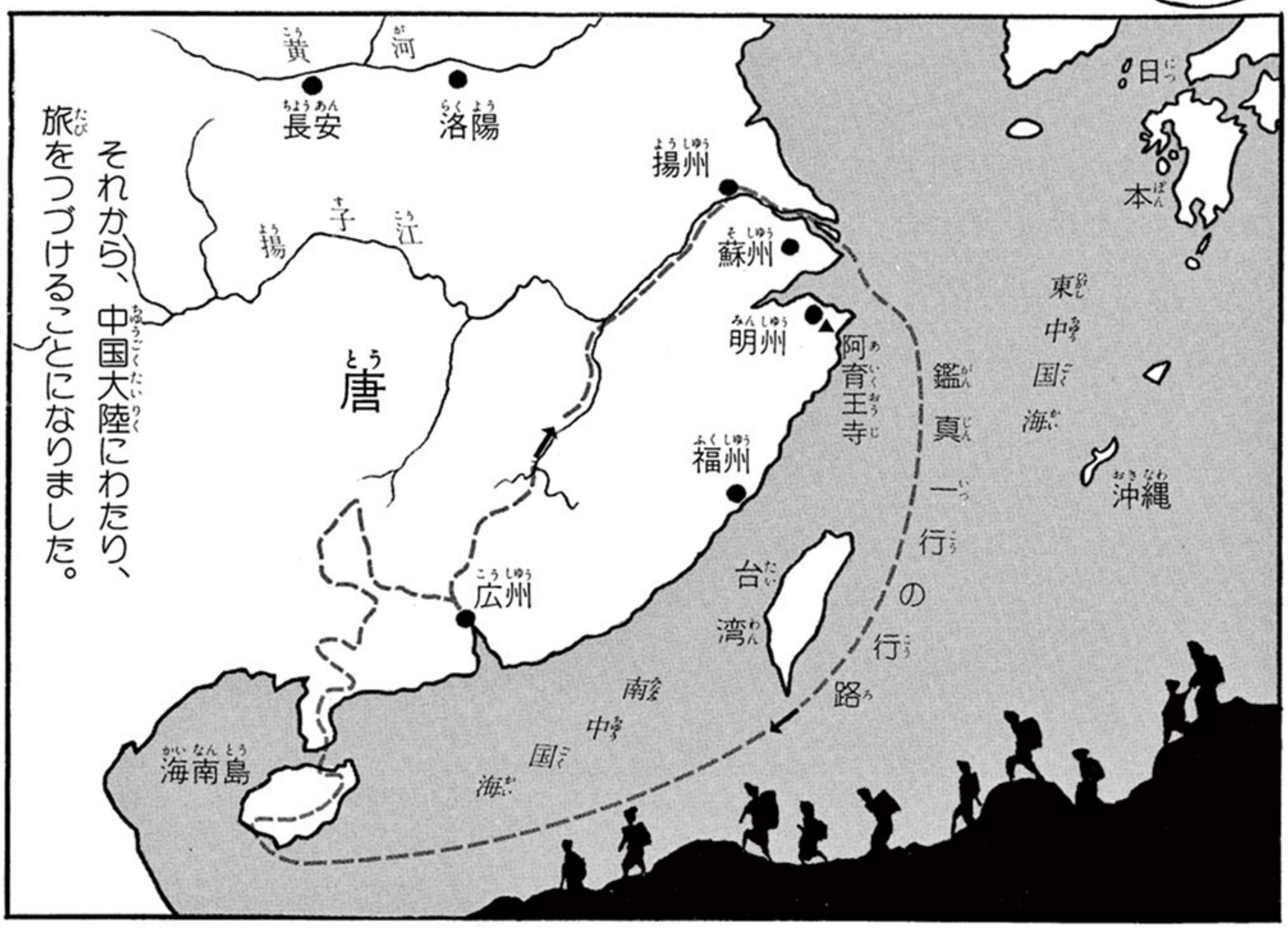
み仏のおめぐみだあ！
ザー
わーい！
わーい！
たすかったあ！

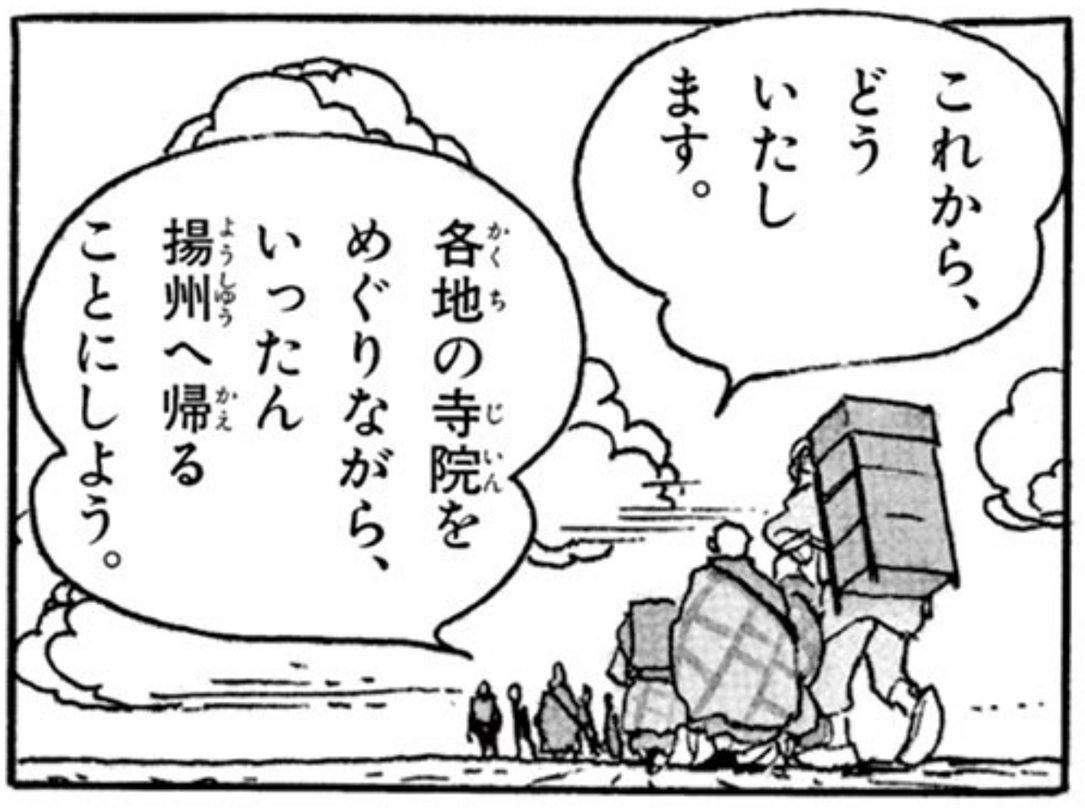
数日後
あの大きな魚は、何だろう？

おい、見ろっ!!陸だぞ。
ほんとだ！あの魚が、船をみちびいてくれた……。み仏のお使いじゃ。


十四日間の漂流のあと、船がたどりついたのは、海南島でした。

一行は、この島の役人の世話になりながら、一年ほどここにとどまりました。



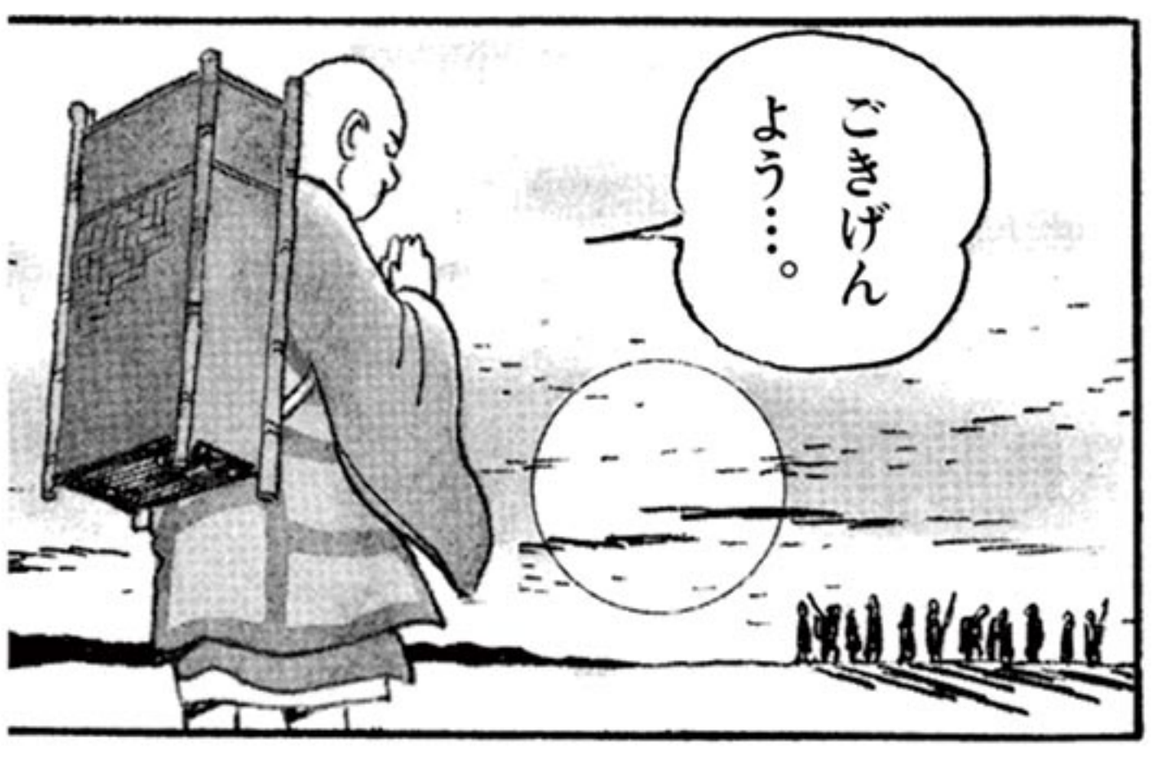


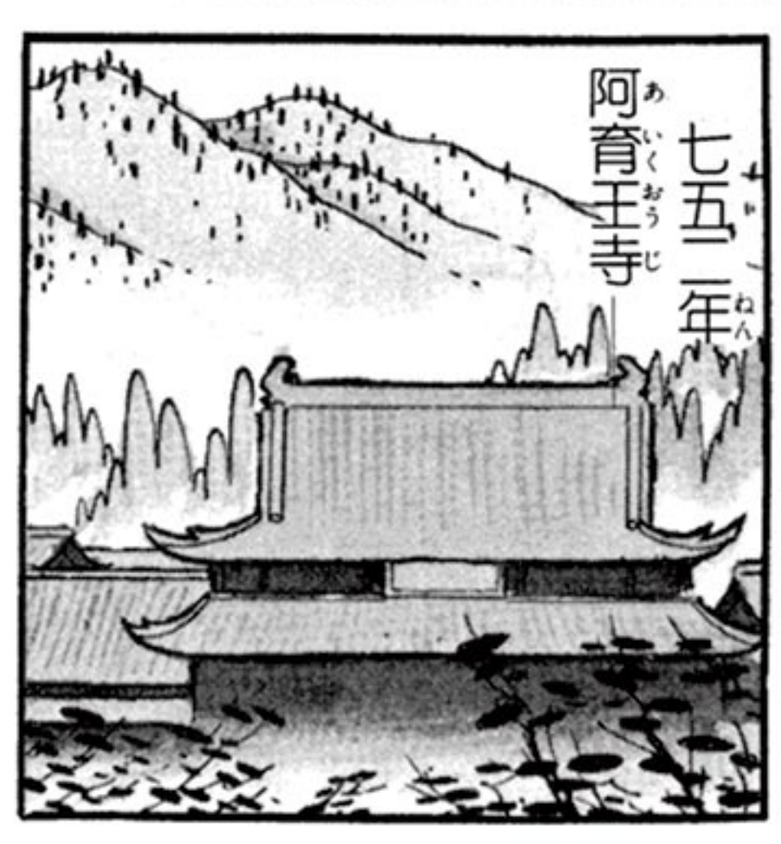
わしは…、残念だ…。
普照…、たのむぞ。和上を…かならず日本へ……。

ああ！栄叡!!おまえといっしょに日本へ帰りたかったのに…。

しばらく後――
栄叡はしんでしまったし…、わたしは……少しつかれたようです。和上、ここでおわかれして、
ひとまず、知人のいる明州の阿育王寺へまいります。
そうか……。

普照よ。わたしは、日本へわたることをあきらめてはいないぞ。
ありがたいおことば……。


ごきげんよう…。

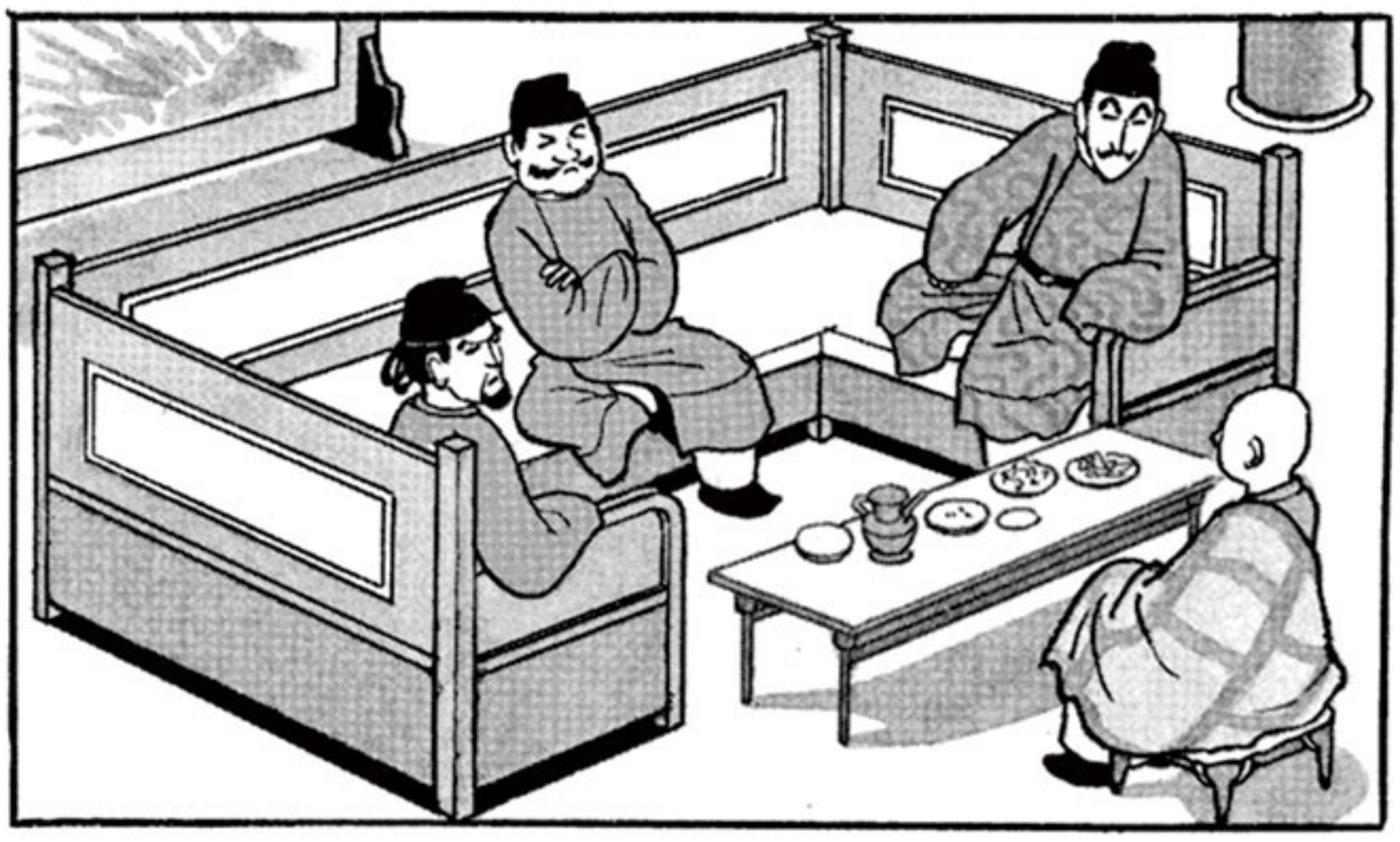

七五二年
阿育王寺

普照さん、日本の遣唐使船が、やって来たそうですよ。
ええっ、ほんとうですか！

使節の方がたは、ここだな。

あなたは……、真備さま！
おお、いつぞやの僧か。元気であったか。

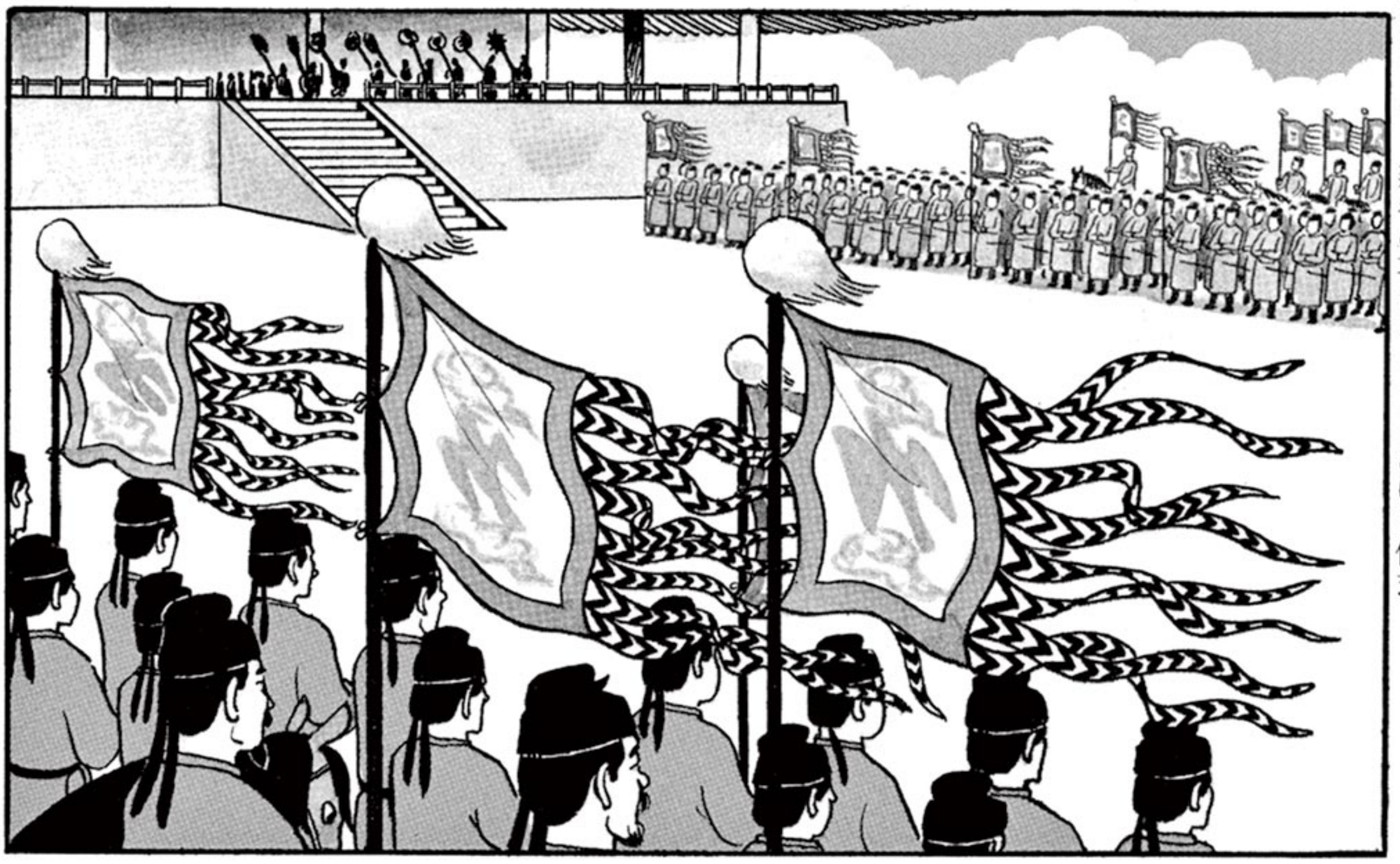
はい。今日は、お願いがあってまいりました。
ふむ……。



ほほう、五度も渡航に失敗したとな。
遣唐副使 吉備真備
遣唐大使 藤原清河
ううむ、それにしても、和上の熱意はすばらしい。
遣唐副使 大伴古麻呂
わかった。近く、長安にむかうので、皇帝に和上の出国をねがおう。

ありがとうございます。
われわれにまかせよ。安心してまつがよい。

清河、真備、古麻呂ら、遣唐使一行は、新年の儀式に参列するため、長安にむけて出発しました。



*拝賀の儀式…この場合、唐の皇帝にたいして、新年の喜びをもうしあげる儀式。

さすが、宮廷の新年の儀式は、りっぱでしたな。

うむ。諸外国のなかでも日本が、第一の席につくことができました。

これで、われわれも大役をはたせたわけだな。

しかし、鑑真和上の渡海の許しがえられなかったのは、残念なこと…。

*密航…船にひそかにのって外国へ行くこと。

遣唐使の帰国は、七五三年十月ときまりました。

さて、こちらは普照――

ああ、やっと日本へ帰れる。

もうすぐ和上にお会いできる…。

あ、真備さま、いろいろとありがとうございました…。

うむ。普照、そちはわしの船にのるのだ。

真備さま、和上はどの船に。

うむ…、それがのう、唐の役人の目がきびしくてな…、相談の結果…、船からおりていただいたのじゃ…。

ええっ！ほんとうですか！

まことに残念だが、そうするしか、仕方がなかったんじゃよ。

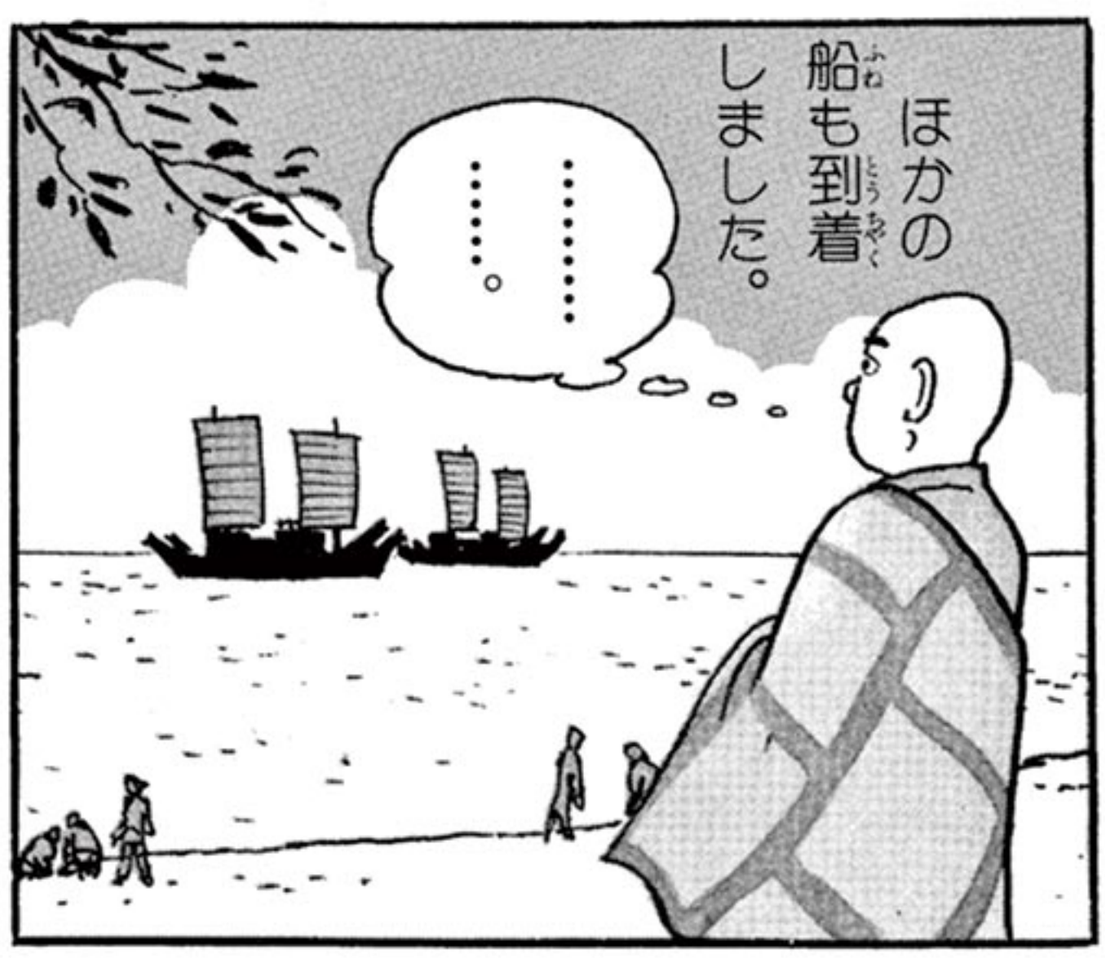
今度こそと思っていたのに…、

ああっ、和上…。

仲麻呂は、留学生として唐にわたり、四十年近くも唐の役人としてつかえてきました。

歌の意味――
大空をながめわたすと、月がさし上ってくる。あの月も、むかし見た、春日の三笠山（奈良の都の東にある山）から上った月と同じなのだろうか。

そして、四せきの船は日本にむけて、いよいよ大海にのり出しました。



あ。
あれは…、
和上！和上ではありませんか!!
普照ですっ！
おお、その声は、普照か。会いたかったぞ！
和上は…船からおろされてしまわれ、もうお会いできぬものとあきらめて…。
うむ。出発前に、大伴古麻呂さんがひそかにのせてくれたのじゃ。
よかった、ほんとうに…。ううう…、和上！
……!?もしや、和上はお目が…。
うむ。見えなくなってしもうたわい。
さ、もうよい。わたしの心の目には、み仏のお姿がよく見えておるからな。
和上！ううう、ううう…。
和上！
それほどまでして日本へ…、ううう…。

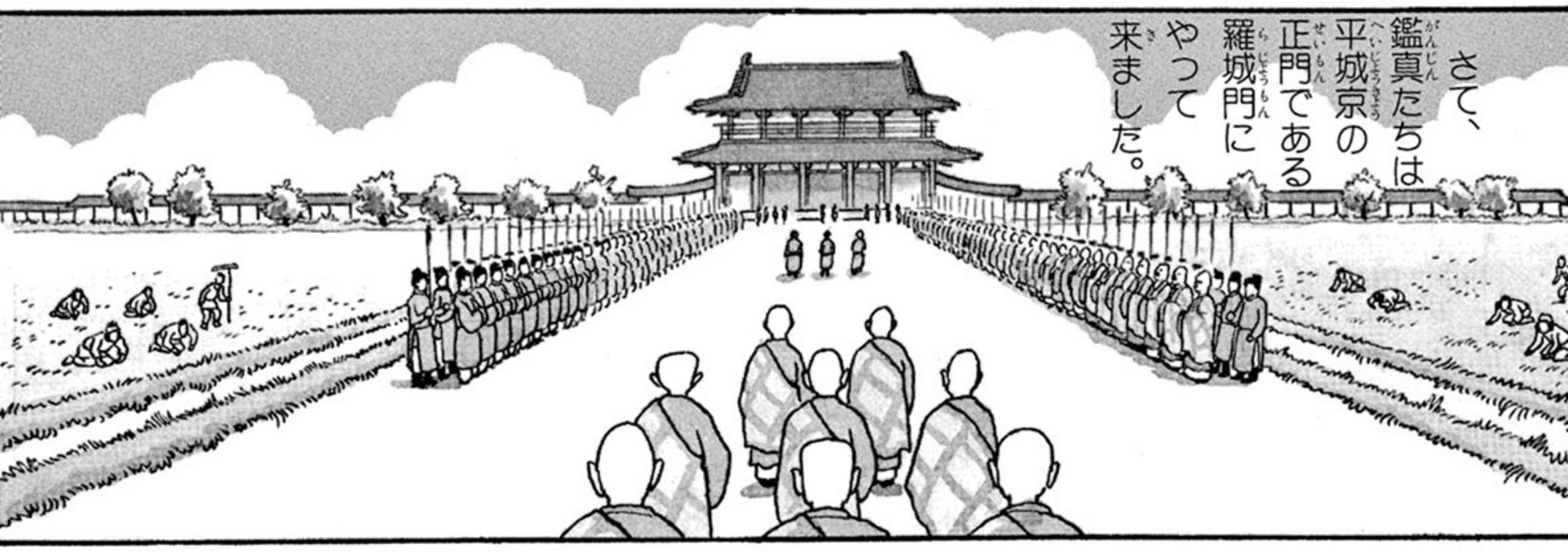
鑑真たちののった船は、あらしにあうこともありましたが、九州・瀬戸内海をぬけて、七五四年二月、*難波津についたのでした。

ところで、仲麻呂の船は沖縄を出たあとそう難し、遠くベトナムにまでながされてしまいました。

*難波津…大阪の港。

仲麻呂は、なんとか唐にもどりましたが、二度と日本の土をふめませんでした。

さて、鑑真たちは平城京の正門である羅城門にやって来ました。



*別当…寺の事務をつかさどる僧職の長官。

七五四年四月、聖武上皇たちは、東大寺大仏殿の前で鑑真を師として、受戒しました。

なんじらに*菩薩戒をさずける。

一つ、生あるものをころさないことを、ちかうか。

ちかいます。

二つ、ものをぬすまないことを、ちかうか。

ちかいます。

三つ、みだらなことをしないことを、ちかうか。

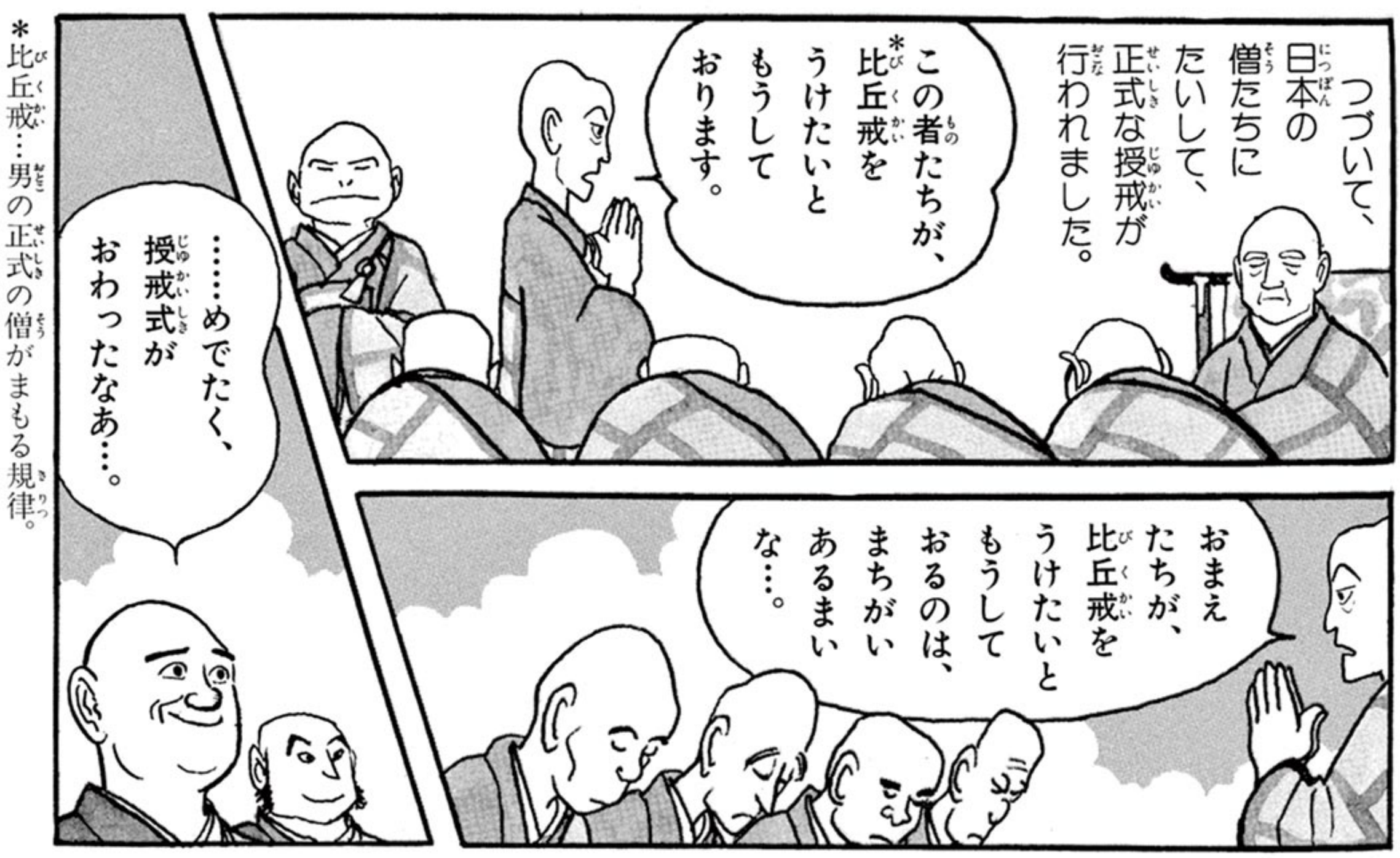
ちかいます。

……。最後に、*三宝をけなさないことを、ちかうか。

ちかいます。

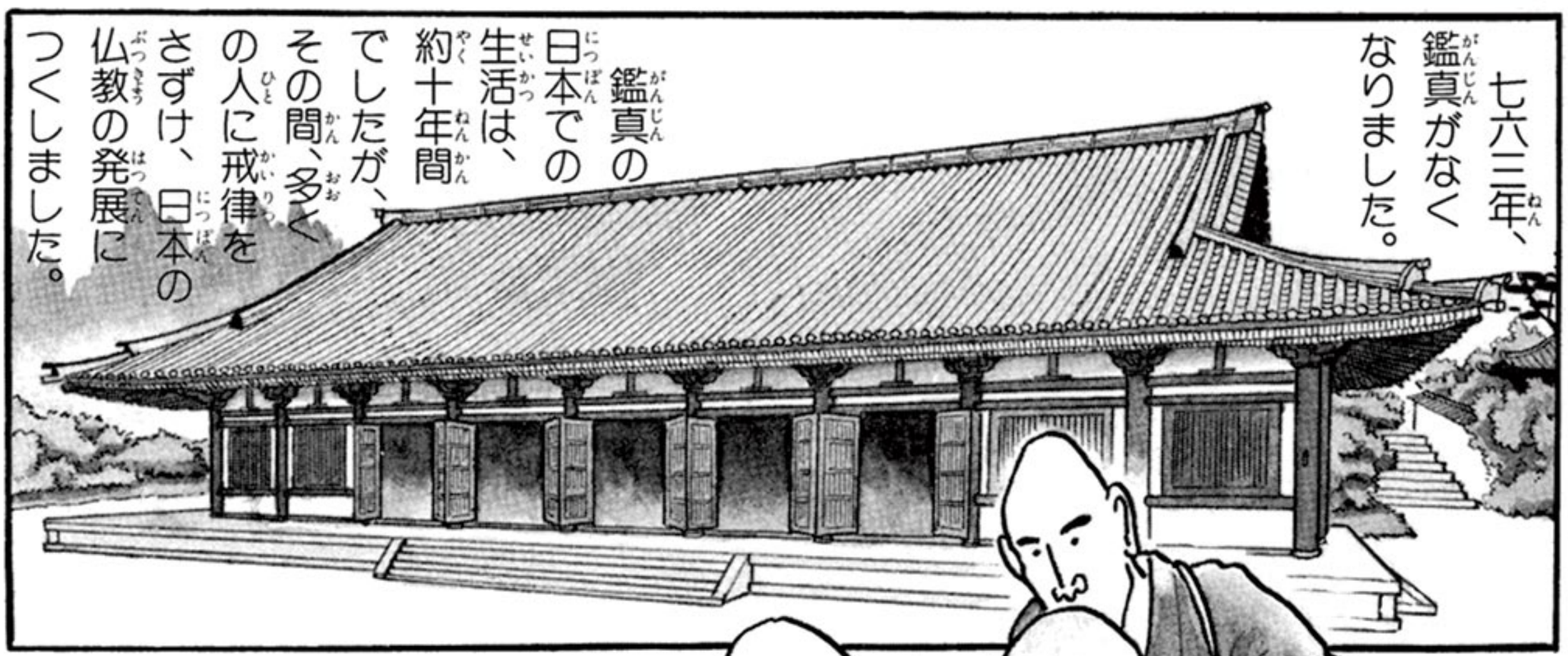
*菩薩戒…仏教を信こうする者としてまもらなければならない規律。

*三宝…仏と経典（お経）と僧。



*比丘戒…男の正式の僧がまもる規律。

七六三年、鑑真がなくなりました。



鑑真の日本での生活は、約十年間でしたが、その間、多くの人に戒律をさずけ、日本の仏教の発展につくしました。

鑑真は、戒律だけでなく医学の知識や、建築、彫刻の技術もつたえました。鑑真が創建した唐招提寺には、師をしたう弟子たちによってつくられた鑑真和上像が、今も安置されています。

ところで、命がけで唐にわたった遣唐使や留学生の情熱もわすれられません。かれらのもたらした唐の文化は、日本の発展に大きく役立ったのです。

小学館 eBooks

第四章

朝廷をめぐる争い

――奈良時代――

七五七年、それまで朝廷で勢力をふるっていた橘諸兄がなくなったのです。

藤原仲麻呂

ふふふ、いよいよわたしの天下だな。

聖武上皇の遺言どおり、みかどのあとつぎの皇太子には、*道祖王がなっておられますが…。

孝謙天皇

ええ、わたしには皇太子にする子どもがいないのですから。

しかし、道祖王は、日ごろの行いが悪いとのうわさがあります。

ええ。

かわりに、*大炊王を、皇太子にたてられては、いかがでしょう。

道祖王

大炊王

……では、そういたしましょう。

わたしとそなたは、おばとおいの間がら…。これからの政治は、そなたがたよりです。

ありがたいおことば…。

*道祖王…天武天皇の孫。*大炊王…舎人親王の子で、道祖王のいとこ。後の淳仁天皇。

*養老律令…七一八年（養老二年）、藤原不比等が中心になって編さんした律令。

*壬申の乱…六七二年におこった戦い。第二巻第四章を参照。

いや…。ここで軽率な行動をとってはまずい。
失敗すれば、わが一門はほろんでしまうぞ。

では、だまって見ているつもりですか！
早まってほしくないのだ。

この計画は絶対に外にもらさぬよう…。
うむ、よくわかっておる。

わたしは、おくびょうなのだろうか……。

こちらは、仲麻呂邸
なっ!!に!!
そのようないんぼうが!!
はい。わたしもさそわれましたので、早くお知らせしようと…。

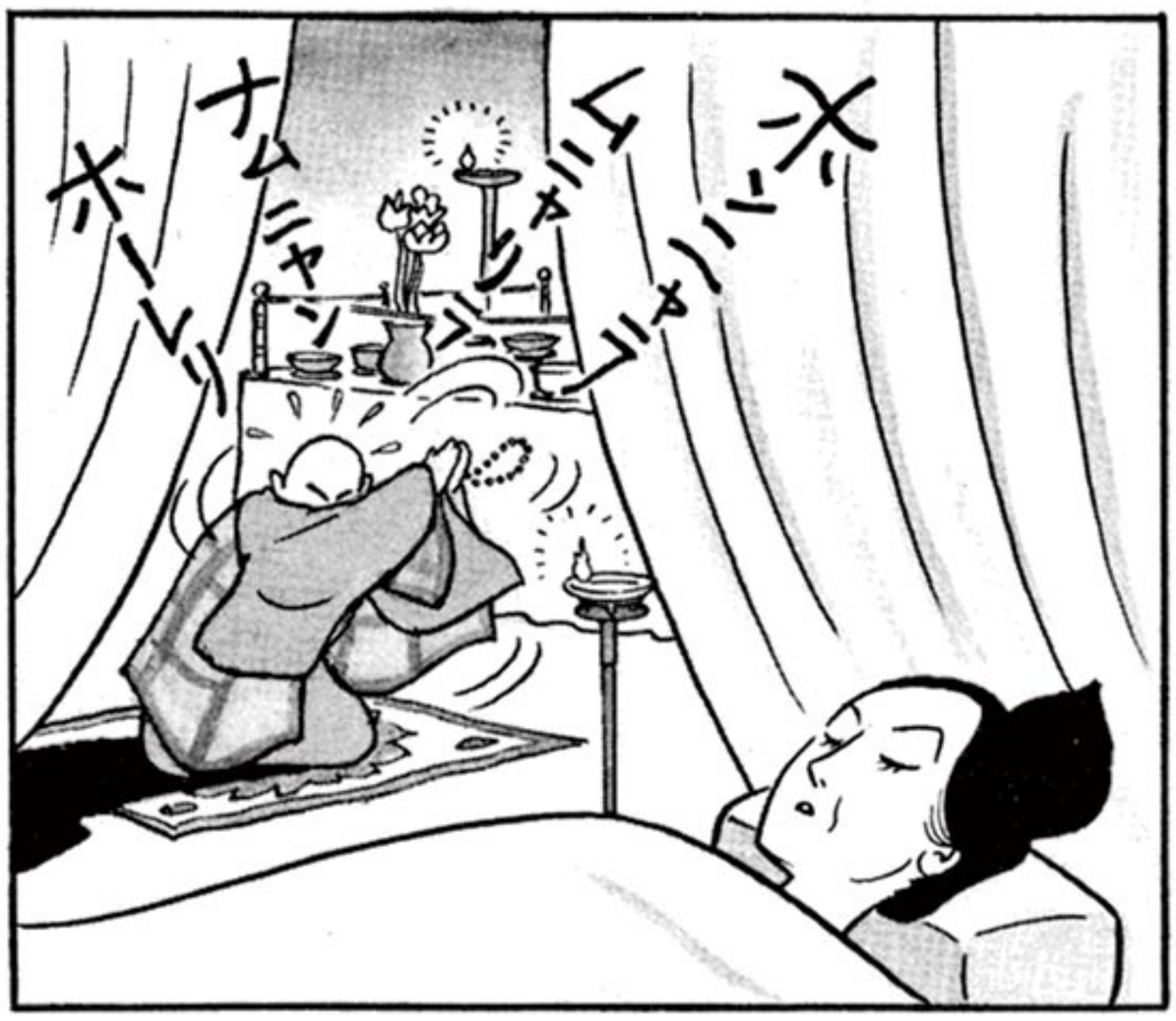
くそっ！全員、引っくくってくれるわ！

ドカ
ドカ
ズカ
ガラン

大伴家持は、父の旅人とともに「万葉集」の歌人として有名です。「万葉集」は、家持が編集したといわれています。

*右大臣…律令制の官位で、太政大臣、左大臣の次の位。

*保良宮…滋賀県大津市にあった仮の宮。



近ごろ、上皇は道鏡を信らいしきっておる。このままでは…。

いらぬおせわじゃっ!!

みかど、得体の知れぬ僧など、身近におかれぬよう、上皇にご忠告なさってはいかがでしょう。
わたしも、気になっていた。やってみましょう。

あなたにも、押勝にも、わたくしのことをとやかくいう権利はありません!

よろしい!
これからは、国の大きな問題はわたくしがみます。
ええっ!!
あなたには、小さなことだけをまかせます。

ああ…。
ポキ
ポキ
ううむ……。それなら、それで、わたしにも考えがある。

＊近江…滋賀県

＊国司…律令制で、各国をおさめる役所の長官。

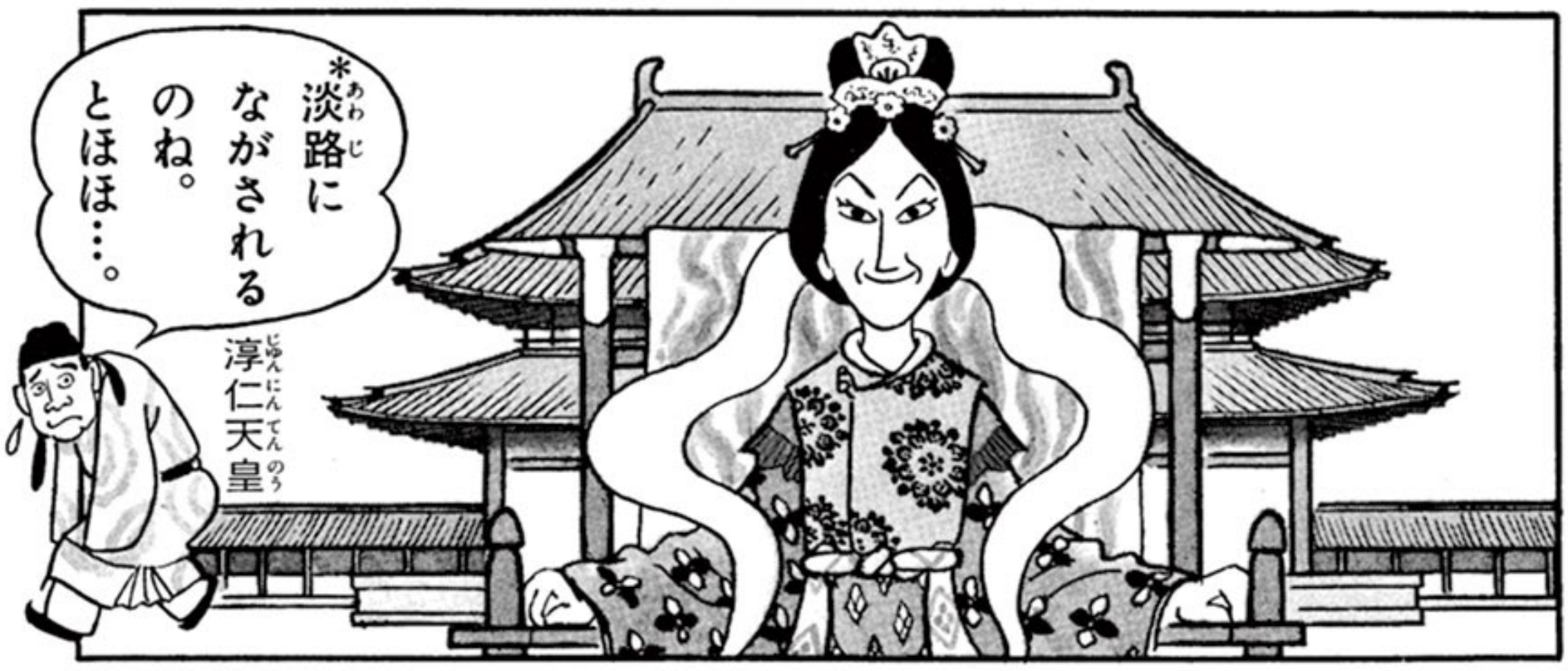
それっ！
ドドド

押勝の軍は、朝廷軍と、琵琶湖の西岸、三尾埼付近（滋賀県高島市高島）で最後の戦いを行いました。

*愛発関…近江と越前の境にある関所。古代の重要な関所の一つ。

味方は、やぶれました。
ううう。
……。
さっ、これで対岸へ！
おうい！まってくれい！
父上、追っ手が！
あちらからも。
うぬっ、もはやこれまでか!!
押勝はころされ、塩焼王をはじめ、反乱の中心人物は、みな処刑されました。

まもなく、孝謙上皇は淳仁天皇をしりぞけ、みずから、ふたたび皇位につきました。称徳天皇といいます。



*大臣禅師…左大臣、右大臣と同じ位の僧。

*淡路…兵庫県淡路島

*法王…仏法（仏教）の世界の王。

七六九年のこと――

そなたの教えは、み仏の教え…。これからも、わたくしをたすけておくれ。

どうか、ご信らいください。

ただ今、*大宰府から急ぎの使者がまいりました。

え？

*大宰府…九州の政治を行う役所。

*宇佐八幡宮にて、神のお告げがございました。

もうしてみよ。

道鏡さまをみかどにおつけになれば、

世の中がおさまる…というお告げです。

えっ！まことか……。

*宇佐八幡宮…豊前国（大分県）にあり、朝廷と関係の深い神社。

道鏡をみかどにとは、ねがってもない神のお告げ。

???

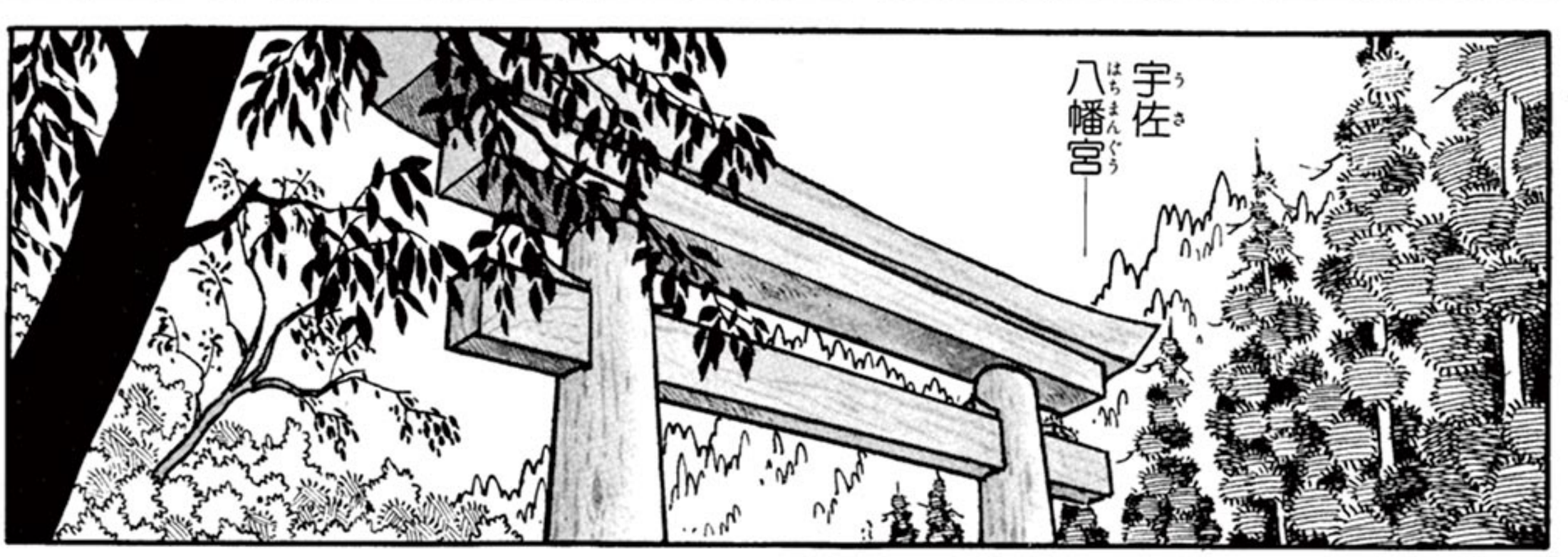
しかし、皇族ではないので、反対する者も多いだろう。どうしたものか……。

およびでございますか。
そなた、宇佐八幡へ、おもむき、神のお告げをたしかめて来ておくれ。
法均尼（和気広虫）

さてさて、気の重い役目だ。
和気清麻呂

その役でしたら、弟の清麻呂がふさわしいかと思います。
では、そうしておくれ。

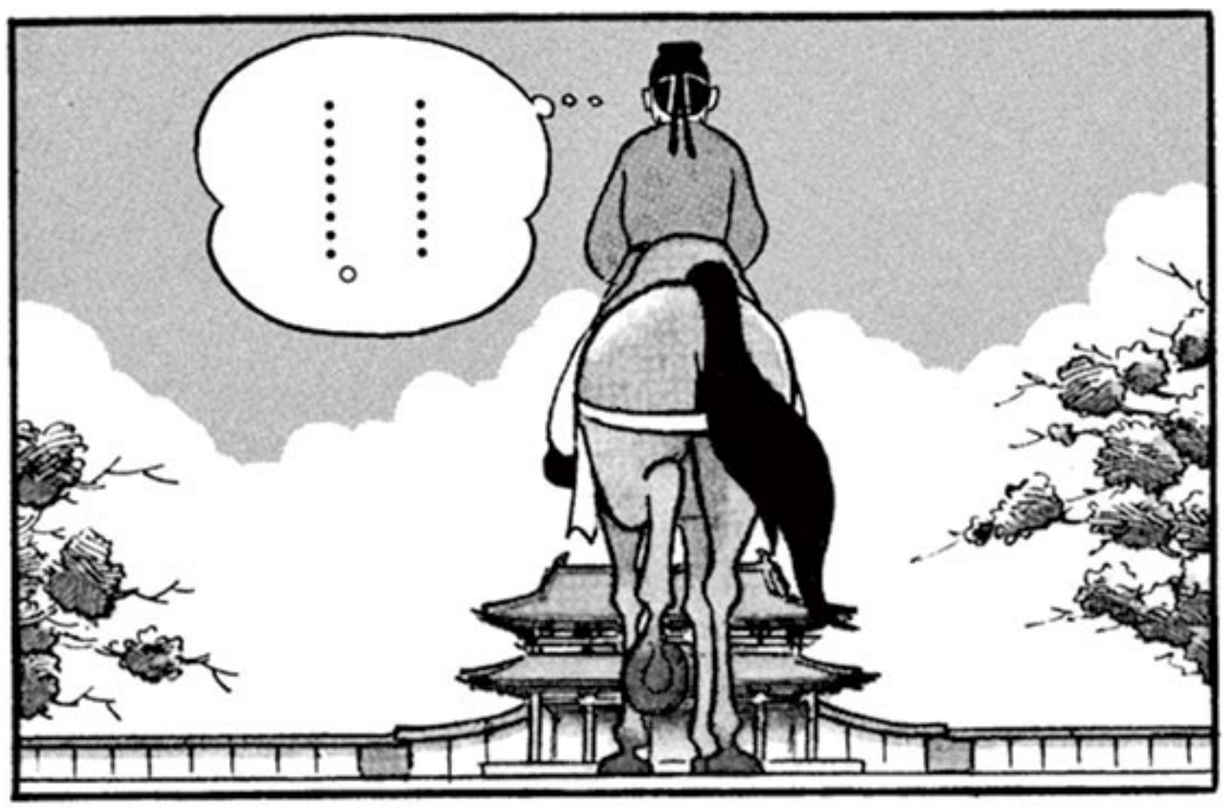
よい知らせをまっているぞ。わたしがみかどになれば、そなたの位も思いのままじゃ。
道鏡がみかどだなどと、ばかばかしい。みかどをよろこばせようとたくらんだ者がいるのだ。……すべては、そなたの返事しだい……わかるな。

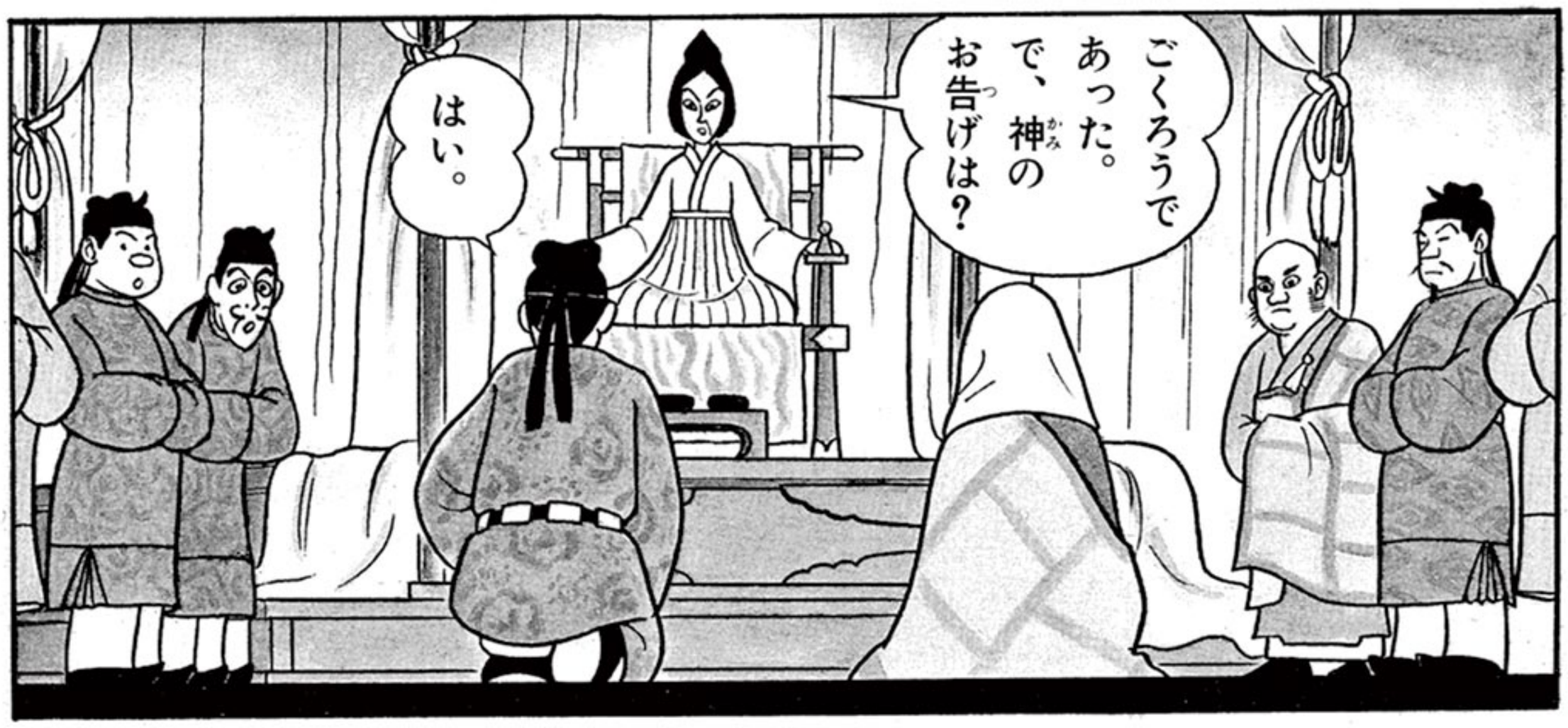

宇佐八幡宮

シャッ!
ミキ

神のお告げです。
ははっ。

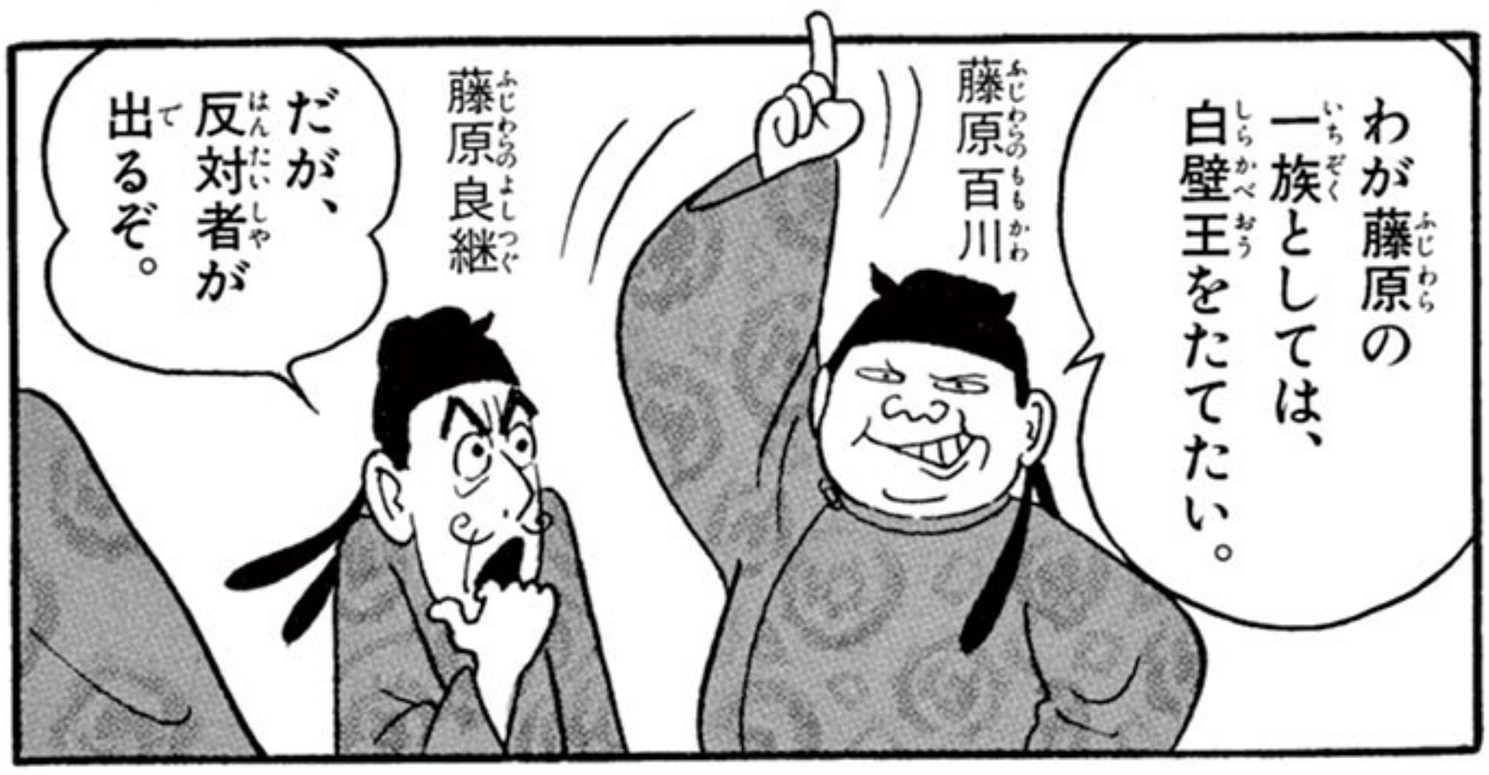
道鏡を、天皇の……。
さすれば、この国は太平なり。
は……?


……。


ごくろうであった。で、神のお告げは?
はい。

わが国では、
臣下がみかどになったことは一度もない。
次のみかどには、
かならず皇族をたてよ!

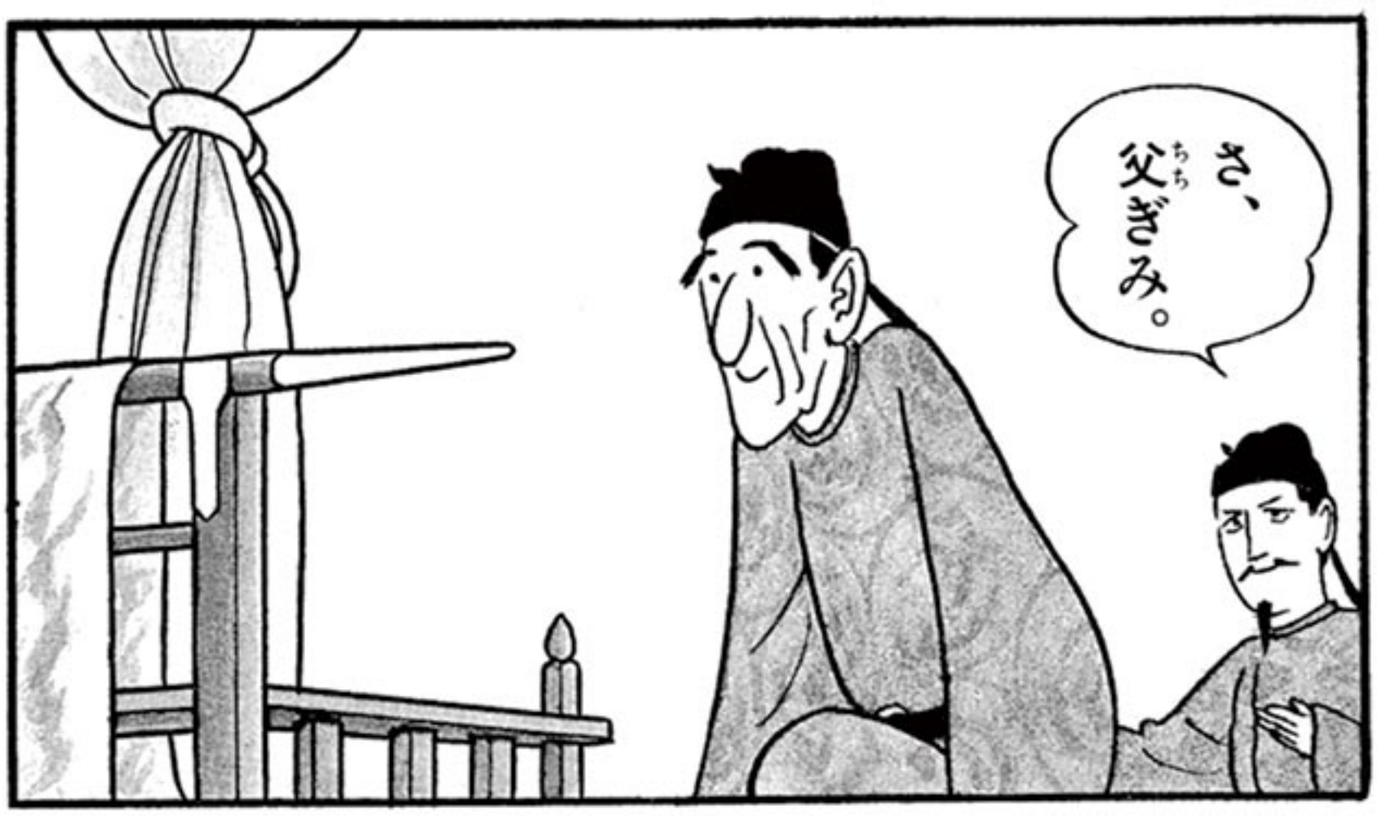
*流罪…律令の刑罰で、遠くへ追放される刑。



白壁王の系図

- 天智天皇
  - 天武天皇
    - □
      - 文武天皇
        - 聖武天皇
          - 井上内親王
            - 山部親王（桓武天皇）
  - □
    - 白壁王（光仁天皇）
      - 山部親王（桓武天皇）
- 藤原不比等
  - 藤原宮子
  - 光明皇后
    - 孝謙・称徳天皇
  - 藤原房前
    - 藤原永手
  - 藤原宇合
    - 藤原良継
    - 藤原百川

═══は結婚、
――は兄弟姉妹関係。



聖武天皇がなくなったあと、権力をめぐる貴族たちの争いは、さらにはげしくなりました。藤原仲麻呂にかわって勢力をえた道鏡も追放され、ふたたび藤原氏が政治の中心にかえりざいたのです。

貴族が政治の争いにあけくれる一方で、農民の生活は、都づくりや大仏づくりのためにますますくるしくなります。こうしたなかで、時代は奈良から平安へとかわっていくのです。

小学館 eBooks

おうちの方へ

奈良の都

京都教育大学名誉教授　高山博之

大宝律令を完成させた天皇と貴族は、律令政治の中心となる大規模な都城の造営に力を尽くし、七一〇年、平城京に都を移しました。以後の約70年間が奈良時代で、この巻のテーマです。

唐の都長安にならった平城京は、貴族の政治と文化の中心地となり、仏教が栄え、国際性豊かな天平文化が花開きました。

しかし、華やかさがこの時代のすべてではありません。完成間もない律令制度は、早くも矛盾を現して農民を動揺させ、貴族の政争も政治を不安定にします。時代の明暗をいろいろな角度からとらえさせてください。

●第1章「新しい都のくらし」

平城京造営の様子を描き、様々な角度から当時の人びとの生活を見ていきます。支配階級である貴族や役人と都の造営にかり出された農民とを対比的に描き、東西の市に集まる人びとの姿もおもしろく表現しています。建物や街づくりの技術的な面にも注目させてください。

農民は、律令制度のもとで税などの負担が多く貧しい生活をしていましたが、都づくりの労役も厳しい負担でした。山上憶良の「貧窮問答歌」は農民の悲惨な姿を伝えてくれます。

朝廷内での貴族の微妙な対立も描かれていますが、第2章に見る藤原氏の勢力の台頭を暗示しています。

●第2章「奈良の大仏」

大仏建立の事業とその背景をなす貴族の政争や苦しむ農民、疫病の流行などの社会不安を克明に描いています。

大仏建立は、聖武天皇が鎮護国家の願いをこめ、情熱を傾けた大事業でした。しかし、労役

にかり出された農民の負担は重く、土地を捨てて、浮浪する者も増えていきました。このような農民の間で、仏教を説き、社会事業を行った行基の活動が国家仏教と対照的に描かれています。

聖武天皇のころは、律令国家の栄えが頂点に達した時期ですが、公地公民制がくずされるなど律令政治の土台がゆらぎ始める時期でもありますから、その点への留意も大切です。

●第3章「遣唐使と鑑真」

様々な苦難を乗りこえて来日し、仏教の戒律を伝えた唐僧鑑真の生き方を中心に、日本から危険をおかして渡航した遣唐使や留学生・留学僧の行動や文化吸収への情熱を描いています。

8世紀の唐は、世界最大の領土と高い文化を誇る大帝国で、都の長安は、人口百万を数える国際的な大都市でした。

遣唐使の主な目的は、唐の制度や文化の輸入にあったようで、鑑真を招いたのは、正式な戒律を確立し、仏教のあり方を正す意図によるものでした。遣唐使船の航海のありさまや人びとの渡航の苦心をとらえるとともに、阿倍仲麻呂らの人物群にも関心を持たせたいものです。

●第4章「朝廷をめぐる争い」

この章は、聖武天皇の死から奈良時代末までの様々な出来事を描いています。

大仏開眼後も政権をめぐる貴族の争いがつづき、政治は混迷を深めます。光明皇太后をバックに権勢をふるった藤原仲麻呂が、新しく台頭してきた道鏡を除こうとして敗死し、道鏡による変則的な僧侶政治が一時行われました。

しかし、貴族らの巻き返しによって道鏡は失脚し、また藤原氏の勢力が強まっていきます。

一方、農民の貧困による社会不安も進み、律令政治の動揺は大きくなって、時代の転換期にさしかかってきました。

年表を使って、複雑な動きを整理しながら読むといいでしょう。

児玉幸多
Kouta Kodama

歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の鋳造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks
学習まんが　少年少女 日本の歴史　第３巻　奈良の都

2015 年 3 月 27 日　電子書籍版発行
監　修　児玉幸多
まんが　あおむら 純
発行人　伊藤 護
発行所　株式会社　小学館
〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
s-ebook@shogakukan.co.jp

底　本　2014 年 11 月 16 日　増補版第 27 刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298103-4

※ご注意
本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および
有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。
個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと
著作権法、その他関連法によって処罰されます。